第733集

多田山東遺跡

一般国道50号（前橋笠懸道路）建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書　第２分冊　二〇二四

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第733集

多田山東遺跡

一般国道50号（前橋笠懸道路）建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第２分冊

2024

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

多田山東遺跡

一般国道50号（前橋笠懸道路）建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第２分冊

2024

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第２分冊目次

第２分冊目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第５章　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・480
第１節　囲い状遺構と多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・480
１．囲い状遺構内の施設・・・・・・・・・・・・・・480
２．多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要　・・・・・・・487
多田山東遺跡第Ⅱ地点遺物観察表・・・・492
多田山東遺跡第Ⅱ地点写真図版・・・・・493
第２節　多田山東遺跡の囲い状遺構について　・・498
１．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・498
２．区画施設の遺構　・・・・・・・・・・・・・・・498
３．内部施設の遺構　・・・・・・・・・・・・・・・499
４．周辺の豪族居館・首長居館と囲い状遺構・・500
５．豪族居館・首長居館・囲い状遺構の
比較・検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・504
６．まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・506
第３節　多田山東遺跡２号竪穴建物出土遺物
について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・510
１．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・510
２．須恵器小型有台皿の類例・集落　・・・・・・510
３．須恵器小型有台皿・椀の類例・寺院・・・・511
４．密教法具六器について　・・・・・・・・・・・・513
５．六器の土器・陶器への代替・・・・・・・・・・513
６．おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・516
第４節　古墳時代以降の集落の変遷　・・・・・・・518
１．集落の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・518
２．集落の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・518

写真図版
奥付

挿図目次

第341図　囲い状遺構と多田山東遺跡第Ⅱ地点・第Ⅲ地点（赤堀町委2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』挿図７、同2001『町内遺跡発掘調査報告』挿図９を合成して作成）・・・・・・・・・・・・・・・ 481
第342図　屋内棟持柱のある掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 483
第343図　厩舎に類すると考えられる掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・ 485
第344図　木曽馬の平均的な体格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 486
第345図　19号掘立柱建物　柵と柱のイメージ・・・・・・・・・・・・・・・ 486
第346図　Ⅱ－１号掘立柱建物柱間模式図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 488
第347図　第Ⅱ地点63号住居・64号住居出土遺物（１）・・・・・・・・・・・ 489
第348図　第Ⅱ地点64号住居出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 490
第349図　第Ⅱ地点64号住居出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 491
第350図　多田山東遺跡囲い状遺構と範囲想定・・・・・・・・・・・・・・・ 501
第351図　多田山東遺跡周辺の豪族居館・首長居館（１）（永井2021の図を編集）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 502
第352図　多田山東遺跡周辺の豪族居館・首長居館（２）（中沢2000の図を編集）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 503
第353図　周辺の古墳時代中・後期遺跡の分布図（国土地理院地図５万分の１『前橋』（平成10年３月１日発行）を使用）・・・・・・・・・・・・ 505
第354図　多田山東遺跡２号竪穴建物出土小型椀・皿・・・・・・・・・・・ 510
第355図　集落遺跡から出土した須恵器小型皿・椀図・・・・・・・・・・・ 511
第356図　宇通遺跡出土の小型皿・小型椀図・・・・・・・・・・・・・・・・ 512
第357図　山王廃寺・神戸宮山・町田十二原の施釉陶器の図・・・・・・ 515
第358図　時期別竪穴建物・囲い状遺構分布図（１）・・・・・・・・・・・・ 520
第359図　時期別竪穴建物・囲い状遺構分布図（２）・・・・・・・・・・・・ 521
第360図　時期別竪穴建物・囲い状遺構分布図（３）・・・・・・・・・・・・ 522

表　目　次

第42表　多田山東遺跡第Ⅱ地点遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・ 492
第43表　時期別竪穴建物集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 518

写真図版目次

ＰＬ．１　１．１区調査区全景（上が西）
２．１号竪穴建物全景（南西から）
３．１号竪穴建物土層断面（北東から）
４．１号竪穴建物竈（南西から）
５．１号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）
ＰＬ．２　１．２号竪穴建物全景（西から）
２．２号竪穴建物土層断面（東から）
３．２号竪穴建物遺物出土状況（西から）
４．２号竪穴建物遺物出土状況（西から）
５．２号竪穴建物遺物出土状況（西から）
６．２号竪穴建物竈（西から）
７．３号竪穴建物全景（西から）
８．３号竪穴建物竈（西から）
ＰＬ．３　１．４号竪穴建物全景（西から）
２．４号竪穴建物土層断面（西から）
３．４号竪穴建物竈（西から）
４．５号竪穴建物全景（西から）
５．５号竪穴建物土層断面（南から）
６．５号竪穴建物遺物出土状況（南から）
７．５号竪穴建物遺物出土状況（南西から）
８．５号竪穴建物竈（西から）
ＰＬ．４　１．６号竪穴建物全景（西から）
２．６号竪穴建物土層断面（南から）
３．６号竪穴建物貯蔵穴付近土層断面（西から）
４．６号竪穴建物粘土・遺物出土状況（西から）
５．７号竪穴建物全景（南西から）
６．７号竪穴建物土層断面（北西から）
７．７号竪穴建物遺物出土状況（南西から）
８．７号竪穴建物遺物出土状況（南から）
ＰＬ．５　１．７号竪穴建物竈（南西から）
２．７号竪穴建物旧竈土層断面（東から）
３．８号竪穴建物全景（西から）
４．８号竪穴建物土層断面（西から）
５．８号竪穴建物竈（西から）
６．８号竪穴建物貯蔵穴（西から）
７．８号竪穴建物Ｐ１（西から）
８．９号竪穴建物全景（南西から）
ＰＬ．６　１．９号竪穴建物掘方全景（南西から）
２．９号竪穴建物遺物出土状況（南西から）
３．９号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）
４．10号竪穴建物全景（北東から）
５．10号竪穴建物掘方全景（北東から）
６．10号竪穴建物土層断面（東から）
７．10号竪穴建物遺物出土状況（北東から）
８．10号竪穴建物遺物出土状況（南東から）
ＰＬ．７　１．11号竪穴建物全景（北西から）
２．12号竪穴建物全景（北西から）
３．12号竪穴建物遺物出土状況（西から）
４．12号竪穴建物遺物出土状況（北西から）
５．12号竪穴建物竈（西から）
６．13号竪穴建物全景（西から）
７．13号竪穴建物遺物出土状況（西から）
８．13号竪穴建物竈（西から）
ＰＬ．８　１．13号竪穴建物旧竈土層断面（西から）
２．14号竪穴建物全景（西から）
３．14号竪穴建物竈（西から）
４．14号竪穴建物Ｐ２（北西から）
５．15号竪穴建物全景（西から）
６．15号竪穴建物掘方全景（西から）
７．15号竪穴建物竈（西から）
８．15号竪穴建物貯蔵穴（西から）
ＰＬ．９　１．15号竪穴建物遺物出土状況（西から）
２．15号竪穴建物Ｐ４（南西から）
３．16号竪穴建物全景（南西から）
４．16号竪穴建物土層断面（北西から）
５．16号竪穴建物遺物出土状況（南西から）
６．16号竪穴建物竈（南西から）
７．16号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）
８．17号竪穴建物全景（北から）
ＰＬ．10　１．17号竪穴建物掘方全景（北から）
２．17号竪穴建物遺物炭化材出土状況（西から）
３．17号竪穴建物鎌出土状況（南から）
４．18号竪穴建物全景（南西から）
５．18号竪穴建物土層断面（南西から）
６．18号竪穴建物遺物出土状況（南西から）
７．18号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）
８．18号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況（東から）
ＰＬ．11　１．18号竪穴建物貯蔵穴（西から）
２．18号竪穴建物Ｐ１（南から）
３．18号竪穴建物Ｐ４（南から）

４．19号竪穴建物全景(南西から)
５．19号竪穴建物竈(南西から)
６．19号竪穴建物竈掘方(南西から)
７．19号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)
８．19号竪穴建物貯蔵穴(西から)
ＰＬ．12　１．20号竪穴建物全景(西から)
２．20号竪穴建物遺物出土状況(西から)
３．20号竪穴建物遺物出土状況(北から)
４．１号竪穴状遺構全景(北から)
５．１号竪穴状遺構土層断面(北西から)
６．２号竪穴状遺構全景(北東から)
７．３号竪穴状遺構全景(東から)
８．４号竪穴状遺構全景(南西から)
ＰＬ．13　１．１号・２号掘立柱建物全景(上が南)
２．１号掘立柱建物全景(西から)
３．１号掘立柱建物Ｐ７(西から)
４．１号掘立柱建物Ｐ８(西から)
５．２号掘立柱建物全景(西から)
６．２号掘立柱建物Ｐ１(南西から)
７．２号掘立柱建物Ｐ４(南西から)
８．２号掘立柱建物Ｐ６(西から)
ＰＬ．14　１．３号・４号掘立柱建物全景(上が南)
２．３号掘立柱建物全景(西から)
３．３号掘立柱建物Ｐ１(北西から)
４．３号掘立柱建物Ｐ６(南から)
５．４号掘立柱建物全景(北から)
６．４号掘立柱建物Ｐ１(南から)
７．４号掘立柱建物Ｐ５(西から)
８．４号掘立柱建物Ｐ10(南西から)
ＰＬ．15　１．５号掘立柱建物全景(上が南)
２．５号掘立柱建物柱痕掘削状況全景(北西から)
３．５号掘立柱建物Ｐ３土層断面(西から)
４．５号掘立柱建物Ｐ８土層断面(西から)
５．５号掘立柱建物Ｐ８掘削状況(西から)
６．５号掘立柱建物Ｐ11土層断面(西から)
７．６号・７号掘立柱建物全景(上が北西)
８．６号掘立柱建物全景(南西から)
ＰＬ．16　１．６号掘立柱建物Ｐ１(南西から)
２．６号掘立柱建物Ｐ５(南西から)
３．７号掘立柱建物全景(南東から)
４．７号掘立柱建物Ｐ１(南から)
５．７号掘立柱建物Ｐ11遺物出土状況(南から)
６．８号掘立柱建物全景(上が東)
７．８号掘立柱建物全景(南から)
８．８号掘立柱建物Ｐ３(南東から)
ＰＬ．17　１．８号掘立柱建物Ｐ４(南から)
２．９号掘立柱建物全景(上が南西)
３．９号掘立柱建物全景(南西から)
４．９号掘立柱建物Ｐ５(南西から)
５．10号掘立柱建物全景(上が北西)
６．10号掘立柱建物全景(南東から)
７．10号掘立柱建物Ｐ８(南西から)
８．10号掘立柱建物Ｐ９(南西から)
ＰＬ．18　１．11号掘立柱建物全景(上が南西)
２．11号掘立柱建物全景(北から)
３．11号掘立柱建物Ｐ１(南西から)
４．11号掘立柱建物Ｐ４(南西から)
５．12号掘立柱建物全景(上が南西)
６．12号掘立柱建物全景(南西から)
７．12号掘立柱建物Ｐ７(北西から)
８．12号掘立柱建物Ｐ８(北東から)
ＰＬ．19　１．１号方形周溝墓全景(北東から)
２．１号方形周溝墓全景(上が西)
３．１号方形周溝墓土層断面Ａ－Ａ′(南から)
４．１号方形周溝墓土層断面Ｂ－Ｂ′(西から)
５．１号方形周溝墓土層断面Ｃ－Ｃ′(南から)
ＰＬ．20　１．１号方形周溝墓土層断面Ｄ－Ｄ′(西から)
２．１号方形周溝墓遺物出土状況(南から)
３．１号方形周溝墓遺物出土状況(南西から)
４．１号方形周溝墓遺物出土状況(北西から)
５．１号方形周溝墓遺物出土状況(南から)
６．１号方形周溝墓遺物出土状況(西から)
７．１号方形周溝墓遺物出土状況(西から)
８．１号方形周溝墓作業風景(南から)
ＰＬ．21　１．１号溝全景(上が北)
２．１号溝全景(北から)
３．１号溝土層断面Ａ－Ａ′(南から)
４．１号溝土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
５．１号溝土層断面Ｃ－Ｃ′(南から)
６．１号溝土層断面Ｄ－Ｄ′(南から)
ＰＬ．22　１．１号土坑全景(南東から)
２．２号土坑全景(南から)
３．３号土坑全景(南から)
４．６号土坑土層断面(東から)
５．７号土坑全景(南から)
６．８号土坑全景(南西から)
７．９号土坑全景(北から)
８．９号土坑土層断面(南から)
９．10号土坑全景(北から)
10．11号土坑土層断面(南東から)
11．12号土坑全景(南から)
12．13号土坑・７号掘立柱Ｐ５全景(南東から)
13．14号土坑土層断面(南東から)
14．15号土坑全景(南西から)
15．16号土坑・９号掘立柱Ｐ７全景(南西から)
ＰＬ．23　１．17号土坑全景(西から)
２．17号土坑土層断面(西から)
３．18号土坑全景(西から)
４．19号土坑全景(北西から)
５．20号土坑遺物出土状況(南東から)
６．20号土坑全景(南東から)
７．21号土坑・347号ピット全景(南から)
８．22号土坑全景(北西から)
９．22号土坑土層断面(南から)
10．97号ピット全景(南から)
11．278号ピット遺物出土状況(南から)
12．256号ピット全景(南から)
13．293号ピット全景(南から)
14．299号ピット全景(南から)
ＰＬ．24　１．２区調査区北東側全景(上が西)
２．２区調査区南西側全景(上が北西)
ＰＬ．25　１．21号竪穴建物全景(北西から)
２．21号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
３．21号竪穴建物竈(北西から)
４．21号竪穴建物竈遺物出土状況(北西から)
５．21号竪穴建物旧竈土層断面(北西から)
６．22号竪穴建物全景(北西から)
７．22号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
８．22号竪穴建物竈(北西から)
ＰＬ．26　１．22号竪穴建物竈土層断面(北西から)
２．22号竪穴建物竈・貯蔵穴遺物出土状況(北西から)
３．23号竪穴建物全景(西から)
４．23号竪穴建物土層断面(北から)
５．23号竪穴建物遺物・礫出土状況(西から)
６．23号竪穴建物竈(西から)
７．24号竪穴建物全景(南西から)
８．24号竪穴建物土層断面(南西から)
ＰＬ．27　１．24号竪穴建物遺物出土状況(西から)
２．24号竪穴建物竈(南西から)
３．25号竪穴建物全景(北西から)
４．26号竪穴建物全景(南東から)
５．27号竪穴建物全景(南から)

６．27号竪穴建物土層断面(東から)
７．27号竪穴建物遺物出土状況(南から)
８．27号竪穴建物竈土層断面(東から)
ＰＬ．28　１．28号竪穴建物全景(西から)
２．28号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
３．28号竪穴建物竈(西から)
４．29号竪穴建物全景(南西から)
５．29号竪穴建物土層断面(西から)
６．29号竪穴建物竈(南西から)
７．29号竪穴建物Ｐ３(南西から)
８．29号竪穴建物Ｐ４(南西から)
ＰＬ．29　１．30号竪穴建物全景(北西から)
２．30号竪穴建物竈(西から)
３．31号竪穴建物全景(南から)
４．31号竪穴建物土層断面(南東から)
５．31号竪穴建物竈土層断面(南から)
６．31号竪穴建物貯蔵穴(南西から)
７．32号竪穴建物全景(南西から)
８．32号竪穴建物土層断面(南東から)
ＰＬ．30　１．33号竪穴建物全景(西から)
２．33号竪穴建物遺物・礫出土状況(西から)
３．33号竪穴建物竈土層断面(南から)
４．34号竪穴建物全景(北西から)
５．34号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
６．35号竪穴建物全景(南西から)
７．35号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
８．35号竪穴建物竈遺物出土状況(南東から)
ＰＬ．31　１．36号竪穴建物全景(北西から)
２．37号竪穴建物全景(西から)
３．37号竪穴建物竈土層断面(南から)
４．38号竪穴建物全景(西から)
５．38号竪穴建物竈土層断面(南から)
６．39号竪穴建物全景(西から)
７．40号竪穴建物全景(南西から)
８．40号竪穴建物土層断面(南西から)
ＰＬ．32　１．41号竪穴建物全景(南東から)
２．41号竪穴建物掘方全景(南東から)
３．41号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
４．41号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
５．41号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
６．41号竪穴建物１号竈土層断面(南から)
７．41号竪穴建物２号竈全景(南東から)
８．41号竪穴建物貯蔵穴(南西から)
ＰＬ．33　１．41号竪穴建物Ｐ１(南西から)
２．41号竪穴建物Ｐ２(南東から)
３．41号竪穴建物Ｐ３(南東から)
４．41号竪穴建物Ｐ４(南東から)
５．42号竪穴建物全景(南西から)
６．42号竪穴建物土層断面(南から)
７．42号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)
８．42号竪穴建物Ｐ２遺物出土状況(南西から)
ＰＬ．34　１．43号竪穴建物全景(南西から)
２．43号竪穴建物土層断面(南東から)
３．44号竪穴建物全景(北西から)
４．44号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
５．44号竪穴建物竈(北西から)
６．44号竪穴建物１号貯蔵穴土層断面(北西から)
７．44号竪穴建物２号貯蔵穴土層断面(北西から)
８．45号竪穴建物全景(南西から)
ＰＬ．35　１．45号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
２．45号竪穴建物竈(南西から)
３．46号竪穴建物全景(南西から)
４．46号竪穴建物竈土層断面(南東から)
５．47号竪穴建物全景(南西から)
６．47号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
７．47号竪穴建物竈焚口前土層断面(南から)
８．47号竪穴建物貯蔵穴(南西から)
ＰＬ．36　１．48号竪穴建物全景(南西から)
２．48号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
３．48号竪穴建物竈(南西から)
４．48号竪穴建物竈石組み状況(南西から)
５．49号竪穴建物全景(北東から)
６．49号竪穴建物掘方全景(北東から)
７．49号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
８．49号竪穴建物竈(北東から)
ＰＬ．37　１．50号竪穴建物全景(南西から)
２．50号竪穴建物掘方全景(南西から)
３．50号竪穴建物竈(南西から)
４．50号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(南西から)
５．51号竪穴建物全景(西から)
６．51号竪穴建物掘方全景(西から)
７．51号竪穴建物遺物出土状況(西から)
８．51号竪穴建物竈(西から)
ＰＬ．38　１．52号竪穴建物全景(南西から)
２．52号竪穴建物掘方全景(南西から)
３．52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
４．52号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
５．52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
６．52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
７．52号竪穴建物竈(南西から)
８．52号竪穴建物竈袖石周辺確認状況(南西から)
ＰＬ．39　１．52号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)
２．52号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)
３．52号竪穴建物貯蔵穴(南西から)
４．52号竪穴建物Ｐ１(南西から)
５．53号竪穴建物全景(南西から)
６．53号竪穴建物土層断面(南西から)
７．53号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
８．53号竪穴建物竈(南西から)
ＰＬ．40　１．54号竪穴建物全景(北西から)
２．54号竪穴建物土層断面(南東から)
３．54号竪穴建物掘方全景(北西から)
４．54号竪穴建物竈(北西から)
５．55号竪穴建物全景(南西から)
６．55号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
７．55号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
８．55号竪穴建物竈(南西から)
ＰＬ．41　１．56号竪穴建物全景(西から)
２．56号竪穴建物掘方全景(西から)
３．56号竪穴建物遺物出土状況(北から)
４．56号竪穴建物竈(西から)
５．57号竪穴建物全景(南西から)
６．57号竪穴建物掘方全景(南西から)
７．57号竪穴建物竈(南西から)
８．58号竪穴建物全景(北西から)
ＰＬ．42　１．58号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
２．58号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
３．58号竪穴建物竈(北西から)
４．58号竪穴建物竈遺物出土状況(北西から)
５．59号竪穴建物全景(南西から)
６．59号竪穴建物遺物出土状況(東から)
７．59号竪穴建物遺物出土状況(東から)
８．59号竪穴建物１号竈(北東から)
ＰＬ．43　１．59号竪穴建物２号竈(南西から)
２．59号竪穴建物１号貯蔵穴(北から)
３．59号竪穴建物２号貯蔵穴(南西から)
４．59号竪穴建物Ｐ１(西から)
５．60号竪穴建物全景(南西から)
６．60号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
７．60号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
８．60号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
ＰＬ．44　１．60号竪穴建物遺物出土状況(南から)

２．60号竪穴建物竈(南西から)
３．60号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)
４．60号竪穴建物貯蔵穴(南西から)
５．61号竪穴建物全景(南西から)
６．61号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
７．61号竪穴建物遺物出土状況(南から)
８．61号竪穴建物竈(南西から)
ＰＬ．45　１．62号竪穴建物全景(西から)
２．62号竪穴建物土層断面(東から)
３．62号竪穴建物遺物出土状況(北から)
４．62号竪穴建物竈(西から)
５．63号竪穴建物全景(南西から)
６．63号竪穴建物掘方全景(南西から)
７．63号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
８．63号竪穴建物遺物・炭化材出土状況(南西から)
ＰＬ．46　１．63号竪穴建物竈(南西から)
２．63号竪穴建物Ｐ１(北西から)
３．64号竪穴建物全景(北西から)
４．64号竪穴建物竈遺物出土状況(北西から)
５．65号竪穴建物全景(西から)
６．65号竪穴建物土層断面(南から)
７．65号竪穴建物遺物出土状況(西から)
８．65号竪穴建物竈(西から)
ＰＬ．47　１．66号竪穴建物全景(南西から)
２．66号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
３．66号竪穴建物遺物・礫出土状況(南西から)
４．66号竪穴建物竈(南西から)
５．66号竪穴建物竈土層断面(東から)
６．67号竪穴建物全景(南から)
７．67号竪穴建物土層断面(南から)
８．67号竪穴建物Ｐ２(南から)
ＰＬ．48　１．67号竪穴建物炉土層断面(南から)
２．67号竪穴建物遺物出土状況(南から)
３．67号竪穴建物遺物出土状況(東から)
４．67号竪穴建物遺物出土状況(南から)
５．67号竪穴建物遺物出土状況(南から)
６．５号竪穴状遺構全景(北西から)
７．５号竪穴状遺構遺物出土状況(北西から)
８．５号竪穴状遺構遺物出土状況(北西から)
ＰＬ．49　１．13号掘立柱建物全景(上が西)
２．13号掘立柱建物全景(南から)
３．13号掘立柱建物Ｐ３(南から)
４．13号掘立柱建物Ｐ６(南から)
５．14号掘立柱建物全景(上が北)
６．14号掘立柱建物全景(北から)
７．14号掘立柱建物Ｐ１(南西から)
８．14号掘立柱建物Ｐ４(南西から)
ＰＬ．50　１．15号掘立柱建物全景(上が北)
２．15号掘立柱建物全景(南から)
３．15号掘立柱建物Ｐ２(南西から)
４．15号掘立柱建物Ｐ８(南から)
５．５号柱穴列全景(南東から)
６．５号柱穴列Ｐ２(南東から)
７．５号柱穴列Ｐ３(南東から)
８．６号柱穴列全景(東から)
ＰＬ．51　１．２号溝北側(北から)
２．２号溝南側(南から)
３．２号溝土層断面(北東から)
４．２号溝遺物出土状況(北西から)
５．２号溝遺物出土状況(北西から)
６．２号溝遺物出土状況(西から)
ＰＬ．52　１．３号溝全景(北西から)
２．３号溝土層断面(南東から)
３．４号溝全景(北東から)
４．４号溝土層断面(南西から)
５．５号溝全景(上が北東)
６．５号溝土層断面(南西から)
７．６号溝全景(北西から)
８．６号溝土層断面(南西から)
ＰＬ．53　１．23号土坑全景(南東から)
２．24号土坑全景(南東から)
３．25号土坑土層断面(南東から)
４．26号土坑全景(東から)
５．27号土坑土層断面(南東から)
６．28号土坑遺物出土状況(南東から)
７．29号土坑全景(西から)
８．30号土坑全景(西から)
９．31号土坑遺物出土状況(南西から)
10．32号土坑全景(東から)
11．33号土坑全景(南西から)
12．34号土坑遺物出土状況(東から)
13．35号土坑全景(西から)
14．36号土坑全景(北から)
15．36号土坑遺物出土状況(東から)
ＰＬ．54　１．37号土坑全景(西から)
２．38号土坑全景(南から)
３．38号土坑遺物出土状況(南西から)
４．39号土坑全景(南西から)
５．40号土坑全景(東から)
６．41号土坑全景(南東から)
７．42号土坑全景(南東から)
８．43号土坑全景(南から)
９．44号土坑全景(西から)
10．45号土坑全景(東から)
11．46号土坑全景(南から)
12．47号土坑全景(西から)
13．48号土坑全景(北西から)
14．49号土坑全景(北から)
15．50号土坑全景(北東から)
ＰＬ．55　１．51号土坑全景(南西から)
２．52号土坑全景(南西から)
３．105号土坑全景(南西から)
４．389号・390号ピット全景(東から)
５．391号ピット全景(南から)
６．458号ピット全景(南から)
７．464号ピット全景(南から)
８．471号ピット全景(南東から)
９．526号ピット全景(南から)
10．556号ピット全景(南から)
11．558号ピット遺物出土状況(南から)
12．１号遺物集中全景(南から)
ＰＬ．56　１．２区北・３区調査区全景(上が東)
２．４区調査区全景(上が北)
ＰＬ．57　１．５区調査区全景(上が東)
２．２区北・３区囲い状遺構全景(上が北)
ＰＬ．58　１．２区北・３区７号柱穴列・12号溝全景(上が南東)
２．７号柱穴列Ｐ１全景(東から)
３．７号柱穴列Ｐ１土層断面(東から)
４．７号柱穴列Ｐ２全景(南西から)
５．７号柱穴列Ｐ２遺物出土状況(南西から)
６．７号柱穴列Ｐ３全景(南西から)
７．７号柱穴列Ｐ４全景(南西から)
８．７号柱穴列Ｐ５全景(西から)
９．７号柱穴列Ｐ６全景(南から)
10．７号柱穴列Ｐ７全景(南から)
ＰＬ．59　１．７号柱穴列Ｐ８全景(南西から)
２．７号柱穴列Ｐ９全景(南西から)
３．７号柱穴列Ｐ10全景(南西から)
４．７号柱穴列Ｐ11全景(南西から)
５．７号柱穴列Ｐ12全景(南西から)
６．７号柱穴列Ｐ13全景(南西から)
７．７号柱穴列Ｐ14全景(南西から)

８．７号柱穴列Ｐ15全景(南西から)
９．７号柱穴列Ｐ16土層断面(東から)
10．７号柱穴列Ｐ16遺物出土状況(東から)
11．７号柱穴列Ｐ16遺物出土状況(東から)
12．７号柱穴列Ｐ17全景(南西から)
13．７号柱穴列Ｐ18全景(南東から)
14．７号柱穴列Ｐ19全景(南東から)
15．７号柱穴列Ｐ20全景(南西から)

ＰＬ．60　１．７号柱穴列Ｐ21全景(南から)
２．７号柱穴列Ｐ22全景(南から)
３．７号柱穴列Ｐ23全景(南西から)
４．７号柱穴列Ｐ24全景(南西から)
５．７号柱穴列Ｐ24断割り(南西から)
６．７号柱穴列Ｐ25全景(南西から)
７．７号柱穴列Ｐ25断割り(南西から)
８．７号柱穴列Ｐ26全景(南西から)
９．７号柱穴列Ｐ27全景(南西から)
10．７号柱穴列Ｐ28全景(南西から)
11．７号柱穴列Ｐ29全景(南から)
12．７号柱穴列Ｐ30全景(南西から)
13．７号柱穴列Ｐ30土層断面(南西から)
14．７号柱穴列Ｐ31全景(南西から)
15．７号柱穴列Ｐ32全景(南西から)

ＰＬ．61　１．２区北12号溝・７号柱穴列全景(北西から)
２．12号溝土層断面ｌ－ｌ′(南東から)
３．12号溝土層断面ｍ－ｍ′(南東から)
４．12号溝土層断面ｎ－ｎ′(南東から)
５．３区12号溝土層断面ｏ－ｏ′(南東から)
６．12号溝土層断面ｐ－ｐ′(南西から)
７．12号溝土層断面ｑ－ｑ′(南西から)
８．12号溝土層断面ｖ－ｖ′(南から)

ＰＬ．62　１．18号掘立柱建物全景(上が北東)
２．18号掘立柱建物全景(南西から)
３．18号掘立柱建物Ｐ１(北東から)
４．18号掘立柱建物Ｐ１柱痕掘削状況(南東から)
５．18号掘立柱建物Ｐ２・Ｐ３(南東から)
６．18号掘立柱建物Ｐ４(南西から)
７．18号掘立柱建物Ｐ４土層断面(南西から)
８．18号掘立柱建物Ｐ５(南西から)
９．18号掘立柱建物Ｐ６(南西から)
10．18号掘立柱建物Ｐ６柱痕確認状況(南西から)
11．18号掘立柱建物Ｐ７(南から)
12．18号掘立柱建物Ｐ８(南から)

ＰＬ．63　１．18号掘立柱建物Ｐ８土層断面(西から)
２．18号掘立柱建物Ｐ９(南から)
３．18号掘立柱建物Ｐ10(西から)
４．18号掘立柱建物Ｐ11(南西から)
５．18号掘立柱建物Ｐ12(北東から)
６．18号掘立柱建物Ｐ12土層断面(北西から)
７．18号掘立柱建物Ｐ13(南西から)
８．18号掘立柱建物Ｐ13(南東から)
９．18号掘立柱建物Ｐ14(南西から)
10．18号掘立柱建物Ｐ15(南西から)
11．18号掘立柱建物Ｐ16(南西から)
12．18号掘立柱建物Ｐ16土層断面(南東から)
13．18号掘立柱建物Ｐ17(南東から)
14．18号掘立柱建物Ｐ18(南西から)
15．18号掘立柱建物Ｐ18柱痕掘削状況(南東から)

ＰＬ．64　１．19号掘立柱建物全景(上が南東)
２．19号掘立柱建物Ｐ１・７号柱穴列Ｐ17(北から)
３．19号掘立柱建物Ｐ１土層断面(東から)
４．19号掘立柱建物Ｐ２(西から)
５．19号掘立柱建物Ｐ３(西から)
６．19号掘立柱建物Ｐ４(西から)
７．19号掘立柱建物Ｐ５(西から)
８．19号掘立柱建物Ｐ６(西から)
９．19号掘立柱建物Ｐ７(西から)
10．19号掘立柱建物Ｐ８・Ｐ16(南西から)

ＰＬ．65　１．19号掘立柱建物Ｐ８・Ｐ16土層断面(南西から)
２．19号掘立柱建物Ｐ９・Ｐ18(北東から)
３．19号掘立柱建物Ｐ10(南西から)
４．19号掘立柱建物Ｐ11・Ｐ22(北東から)
５．19号掘立柱建物Ｐ11土層断面(南西から)
６．19号掘立柱建物Ｐ12・Ｐ24(南西から)
７．19号掘立柱建物Ｐ13・Ｐ27(南西から)
８．19号掘立柱建物Ｐ14・Ｐ29(南西から)
９．19号掘立柱建物Ｐ14・Ｐ29土層断面(南西から)
10．19号掘立柱建物Ｐ15・Ｐ32(南西から)
11．19号掘立柱建物Ｐ17(南西から)
12．19号掘立柱建物Ｐ19土層断面(南東から)
13．19号掘立柱建物Ｐ20土層断面(南東から)
14．19号掘立柱建物Ｐ21(北東から)
15．19号掘立柱建物Ｐ22土層断面(南東から)

ＰＬ．66　１．19号掘立柱建物Ｐ23(南西から)
２．19号掘立柱建物Ｐ24土層断面(南西から)
３．19号掘立柱建物Ｐ25・Ｐ26(北西から)
４．19号掘立柱建物Ｐ28(北西から)
５．19号掘立柱建物Ｐ30・Ｐ31(南東から)
６．19号掘立柱建物Ｐ33(南東から)
７．19号掘立柱建物Ｐ34(北西から)
８．19号掘立柱建物Ｐ35(南東から)
９．19号掘立柱建物Ｐ36(南東から)
10．19号掘立柱建物Ｐ36土層断面(南東から)
11．19号掘立柱建物Ｐ37(北西から)
12．19号掘立柱建物Ｐ37土層断面(南東から)
13．19号掘立柱建物Ｐ38(南東から)
14．19号掘立柱建物Ｐ39(南東から)
15．19号掘立柱建物Ｐ40(北西から)

ＰＬ．67　１．２区北68号竪穴建物全景(西から)
２．68号竪穴建物土層断面(西から)
３．68号竪穴建物遺物出土状況(西から)
４．68号竪穴建物竈(西から)
５．３区69号竪穴建物全景(北東から)
６．69号竪穴建物焼土土層断面(南東から)
７．69号竪穴建物土層断面(南東から)
８．69号竪穴建物Ｐ１土層断面(南西から)

ＰＬ．68　１．70号竪穴建物全景(西から)
２．70号竪穴建物遺物出土状況(西から)
３．70号竪穴建物竈(西から)
４．70号竪穴建物焼土土層断面(南から)
５．６号竪穴状遺構全景(南から)
６．６号竪穴状遺構遺物出土状況(西から)
７．７号竪穴状遺構全景(北から)
８．７号竪穴状遺構２号土坑炭化物出土状況(北から)

ＰＬ．69　１．16号・17号掘立柱建物全景(上が北)
２．16号掘立柱建物全景(東から)
３．16号掘立柱建物Ｐ１(南西から)
４．16号掘立柱建物Ｐ２(南西から)
５．16号掘立柱建物Ｐ３(南西から)
６．16号掘立柱建物Ｐ４(南から)
７．16号掘立柱建物Ｐ５(南西から)
８．16号掘立柱建物Ｐ６(南西から)

ＰＬ．70　１．16号掘立柱建物Ｐ７(南西から)
２．16号掘立柱建物Ｐ８(南西から)
３．17号掘立柱建物全景(東から)
４．17号掘立柱建物Ｐ１(南西から)
５．17号掘立柱建物Ｐ２(南東から)
６．17号掘立柱建物Ｐ３(南東から)
７．17号掘立柱建物Ｐ３土層断面(南西から)
８．17号掘立柱建物Ｐ４(南東から)

ＰＬ．71　１．20号掘立柱建物全景(東から)
２．20号掘立柱建物Ｐ１(南から)

３．20号掘立柱建物Ｐ３(南から)
４．20号掘立柱建物Ｐ４土層断面(南から)
５．20号掘立柱建物Ｐ７(南から)
６．20号掘立柱建物Ｐ10(南から)
７．20号掘立柱建物Ｐ14土層断面(南から)
８．20号掘立柱建物Ｐ18(南から)

ＰＬ．72　１．14号溝全景(南から)
２．14号溝土層断面(南から)
３．15号溝検出状況(西から)
４．16号溝全景(南から)
５．37号溝全景(東から)
６．37号溝土層断面(東から)
７．17号溝全景(南から)
８．16号・17号溝土層断面(南から)

ＰＬ．73　１．20号溝全景(南から)
２．20号・28号溝土層断面(南から)
３．28号・35号溝全景(東から)
４．35号溝土層断面(東から)
５．21号溝全景(南から)
６．21号溝底面ピットＰ４(西から)
７．22号溝全景(南から)
８．21号・22号溝土層断面(南から)

ＰＬ．74　１．27号溝全景(北から)
２．27号溝底面ピット(北から)
３．27号・36号溝全景(南から)
４．36号溝土層断面(南から)
５．23号溝全景(南から)
６．23号溝土層断面(北から)
７．13号溝全景(南から)
８．19号溝全景(南から)

ＰＬ．75　１．３・４区７号～11号・24号～26号・29号～33号溝全景(上が東)
２．24号溝全景(南から)
３．24号溝土層断面(南から)
４．25号・26号溝全景(南東から)
５．25号・26号溝土層断面(北西から)

ＰＬ．76　１．29号溝全景(南から)
２．29号溝土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３．30号溝全景(西から)
４．30号溝土層断面Ｄ－Ｄ′(東から)
５．31号溝全景(東から)
６．29号・31号溝土層断面Ｃ－Ｃ′(南から)
７．32号溝全景(西から)
８．33号溝全景(南から)

ＰＬ．77　１．３区７号溝全景(北から)
２．３区９号溝全景(南から)
３．４区７号・８号溝全景(南から)
４．４区７号・８号溝土層断面(南から)
５．４区９号溝・54号土坑土層断面(南から)
６．３区10号溝全景(南から)
７．４区10号溝全景(南東から)
８．４区10号・11号溝土層断面(南から)

ＰＬ．78　１．38号溝全景(南から)
２．38号溝土層断面(南から)
３．46号溝全景(南から)
４．46号溝土層断面(南から)
５．47号溝全景(東から)
６．47号溝土層断面(北西から)

ＰＬ．79　１．４区41号～45号・49号溝全景(上が北)
２．41号・42号溝全景(南から)
３．41号・42号溝土層断面(北から)
４．43号～45号・49号溝全景(南から)
５．43号～45号・49号溝土層断面(南から)
６．５区48号溝全景(上が北)
７．48号溝遺物出土状況(南から)
８．48号溝土層断面(北から)

ＰＬ．80　１．３区56号土坑全景(北から)
２．57号土坑全景(北から)
３．58号土坑全景(東から)
４．59号土坑全景(北から)
５．60号土坑土層断面(南東から)
６．104号土坑土層断面(南から)
７．４区53号土坑全景(南から)
８．９号溝・54号土坑土層断面(南から)
９．10号溝・55号土坑土層断面(南から)
10．61号土坑土層断面(南から)
11．62号土坑遺物出土状況(南から)
12．62号土坑土層断面(南から)
13．63号土坑全景(西から)
14．64号～66号・71号土坑全景(南から)
15．64号土坑土層断面(南から)

ＰＬ．81　１．65・66・71号土坑土層断面(南から)
２．67号土坑全景(南から)
３．68号土坑全景(南から)
４．69号土坑全景(北から)
５．70号土坑全景(東から)
６．72号土坑全景(東から)
７．72号土坑土層断面(東から)
８．73号土坑全景(南から)
９．73号土坑土層断面(東から)
10．74号土坑全景(東から)
11．75号土坑全景(東から)
12．97号・98号土坑全景(南から)
13．97号・98号土坑土層断面(南から)
14．99号土坑全景(南から)
15．99号土坑土層断面(南から)

ＰＬ．82　１．76号・77号土坑全景(南東から)
２．76号・77号土坑土層断面(南東から)
３．78号土坑全景(南から)
４．79号土坑・874号ピット全景(南から)
５．79号土坑・874号ピット土層断面(東から)
６．80号土坑全景(南西から)
７．80号土坑土層断面(南東から)
８．81号土坑全景(南東から)
９．82号土坑全景(南東から)
10．83号土坑全景(南東から)
11．84号土坑全景(南東から)
12．84号土坑土層断面(南東から)
13．85号土坑全景(南東から)
14．86号土坑全景(南から)
15．87号土坑全景(南から)

ＰＬ．83　１．88号土坑全景(南西から)
２．89号・90号土坑全景(南西から)
３．91号土坑全景(南西から)
４．92号土坑・884号ピット全景(南から)
５．92号土坑・884号ピット土層断面(南から)
６．93号土坑全景(南西から)
７．94号土坑全景(南から)
８．95号土坑土層断面(南から)
９．96号土坑全景(南東から)
10．100号土坑全景(南から)
11．101号土坑全景(南から)
12．101号土坑土層断面(南東から)
13．102号土坑土層断面(南から)
14．103号土坑全景(南から)
15．103号土坑土層断面(南から)

ＰＬ．84　１区１号・２号(１)竪穴建物出土遺物
ＰＬ．85　１区２号(２)・３～５号・７号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．86　１区６号・８号・９号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．87　１区10号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．88　１区11号・12号(１)竪穴建物出土遺物
ＰＬ．89　１区12号(２)・13号竪穴建物出土遺物

ＰＬ．90　１区14号・15号・16号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．91　１区16号（２）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．92　１区16号（３）・17号・18号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．93　１区18号（２）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．94　１区19号・20号竪穴建物・２号竪穴状遺構・７号掘立柱建物出土遺物
ＰＬ．95　１区１号方形周溝墓・１号・２号・17号土坑・256号ピット・１区遺構外出土遺物
ＰＬ．96　２区21号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．97　２区21号（２）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．98　２区22号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．99　２区23号・24号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．100　２区25号～28号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．101　２区29～34号・35号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．102　２区35号（２）・37号～39号・41号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．103　２区41号（２）・42号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．104　２区42号（２）・43号・44号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．105　２区45号～48号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．106　２区49号～51号・52号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．107　２区52号（２）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．108　２区52号（３）・53号～56号・58号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．109　２区58号（２）・59号・60号（１）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．110　２区60号（２）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．111　２区60号（３）竪穴建物出土遺物
ＰＬ．112　２区61号～65号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．113　２区66号・67号竪穴建物・５号竪穴状遺構・15号掘立柱建物・２号溝・25号土坑出土遺物
ＰＬ．114　２区27号・29号・34号・36号・38号（１）土坑出土遺物
ＰＬ．115　２区38号（２）・47号・50号土坑・390号・558号ピット・１号遺物集中（１）出土遺物
ＰＬ．116　２区１号遺物集中（２）・２区遺構外（１）出土遺物
ＰＬ．117　２区遺構外（２）・３区７号柱穴列・２区北68号竪穴建物（１）出土遺物
ＰＬ．118　２区北68号竪穴建物（２）出土遺物
ＰＬ．119　２区北68号（３）・３区70号竪穴建物・21号溝出土遺物
ＰＬ．120　３区24号溝・32号溝・３・４区９号・10号・４区49号溝出土遺物
ＰＬ．121　４区43号溝出土遺物
ＰＬ．122　４区44号溝出土遺物
ＰＬ．123　５区48号（１）溝出土遺物
ＰＬ．124　５区48号（２）溝出土遺物
ＰＬ．125　４区62号・72号土坑・837号ピット・２区北・３区・４区・５区遺構外出土遺物
ＰＬ．126　１．１区旧石器８号トレンチ石器出土状況（南西から）
２．１区旧石器８号トレンチ石器出土状況（南西から）
３．１区旧石器８号トレンチ礫集中（西から）
４．１区旧石器８号トレンチ土層セクション（西から）
５．１区旧石器９号トレンチ（南から）
６．１区旧石器10号トレンチ（南から）
７．１区旧石器11号トレンチ（南から）
８．１区旧石器12号トレンチ（南から）
ＰＬ．127　１．１区旧石器14号トレンチ拡張部（西から）
２．１区旧石器14号トレンチ拡張部の礫集中検出状況（西から）
３．１区旧石器14号トレンチ礫密集部（南から）
４．１区旧石器14号トレンチ礫密集部（南から）
５．１区旧石器14号トレンチ礫密集部（西から）
６．１区旧石器14号トレンチ礫密集部（北から）
７．１区旧石器14号トレンチ礫密集部（南から）
８．１区旧石器14号トレンチ礫密集部（西から）
ＰＬ．128　１．１区旧石器14号トレンチ礫密集部（炭化物の試料採取）
２．１区旧石器14号トレンチ礫密集部・土層セクション（南西から）
３．１区旧石器14号トレンチ・土層セクション
４．１区旧石器14号トレンチ・土層セクション（南から）
５．１区旧石器14号トレンチ西壁のAs-BPG炭化物（東から）
６．同左・拡大
７．１区旧石器14号トレンチ拡張①（西から）
８．１区旧石器14号トレンチ拡張①（AT直上炭化物検出状況）
ＰＬ．129　１．１区旧石器14号トレンチ拡張②（西から）
２．１区旧石器14号トレンチ拡張③（西から）
３．１区旧石器14号トレンチ拡張③（西から）
４．１区旧石器14号トレンチ拡張④（西から）
５．１区旧石器14号トレンチ拡張④（西から）
６．１区旧石器15号トレンチ（南から）
７．１区旧石器16号トレンチ（南から）
８．１区旧石器17号トレンチ（南から）
ＰＬ．130　１．２区旧石器20号トレンチ（南から）
２．２区旧石器20号トレンチ礫集中（南から）
３．２区旧石器20号トレンチ礫集中（西から）
４．２区旧石器20号トレンチ礫集中（南から）
５．２区旧石器20号トレンチ礫集中（西から）
６．２区旧石器20号トレンチ礫集中（西から）
７．２区旧石器20号トレンチ礫集中断割（南から）
８．２区旧石器20号トレンチ礫集中の調査
ＰＬ．131　１．２区旧石器20号トレンチ礫集中の礫（１）
２．２区旧石器20号トレンチ礫集中の礫（２）
３．２区旧石器22号トレンチ（南から）
４．２区旧石器25号トレンチ（南から）
５．２区旧石器26号トレンチ（南から）
６．２区旧石器26号トレンチ（南から）
７．２区旧石器26号トレンチの礫
８．２区旧石器28号トレンチ（南から）
ＰＬ．132　１．３区旧石器トレンチ全景（南から）
２．３区旧石器40号トレンチ（東から）
３．３区旧石器43号トレンチ（東から）
４．３区旧石器43号トレンチ（南から）
５．３区旧石器46号トレンチ（東から）
６．３区旧石器46号トレンチ（南から）
７．５区旧石器55号トレンチ（南から）
８．５区旧石器55号トレンチ（東から）
ＰＬ．133　１区・２区出土石器、１区旧石器８号・14号トレンチ礫集中（１）
ＰＬ．134　１区旧石器14号トレンチ礫集中（２）・礫密集部
ＰＬ．135　２区旧石器20号・22号トレンチ礫集中

第５章　考察

第５章　考察

第１節　囲い状遺構と多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要

２区北と３区で確認した囲い状遺構は、遺構全体の南東の部分にあたる範囲と考えられる。そこでは、遺構を区画する溝と柱穴列、その内部に位置する掘立柱建物２棟を確認したが、その北西の範囲や遺構全体の性格など、不明な点が残されている。そこで本節では、遺構の全体像をとらえるために２区北と３区で確認された遺構と共に、その北西に位置し、囲い状遺構の内側と考えられる範囲を含む多田山東遺跡第Ⅱ地点(平成11年度赤堀町教育委員会[注1]調査)の調査内容も併せて検討したい。

多田山東遺跡第Ⅱ地点の出土遺物の実測・観察と各遺構については、伊勢崎市教育委員会のご協力[注2]を得た。記して感謝の意を表したい。

１．囲い状遺構内の施設

（１）12号溝(第341図)

12号溝は、囲い状遺構を囲繞する溝と考えられるが、幅は20㎝～50㎝、深さは３㎝～12㎝である。後世の削平を考慮しても浅く幅の狭い溝である。したがって、単に区画することを目的としたのものではなく、区画内と外部とを遮蔽する目的で、溝の内側に位置する柱を支えとして設置された柵などの下部の補強のため掘削されたものと考えられる。７号柱穴列Ｐ13～Ｐ22付近と、東隅にあたるＰ27とＰ28間では溝が検出されないところがあった。これは出入り口など、構築当初から柵や溝のない構造の箇所も想定されるが、その場合も一部に限られると考えられる。溝が検出されなかったのは、後世の削平によって当時の地表面が失われていたためで、当初は連続していたものと考えられる。

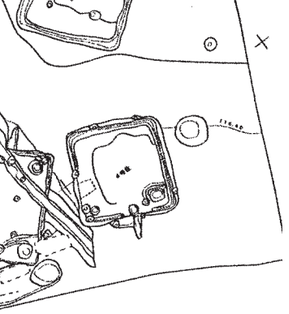
（２）７号柱穴列(第341図)

７号柱穴列の各柱穴の間隔は、他の柱穴に比べ規模の小さいＰ３・Ｐ４付近と、撹乱を受けている範囲を除き2.60m～3.55mで、いずれも12号溝の内側に接する位置で平行している。柱が溝の中ではなく内側にあることから、渋川市金井下新田遺跡の網代垣のような柱の両側を網代で挟むような構造ではなく、何らかの垣状のものを柱の外側に固定した構造であったと考えられる。更に、金井下新田遺跡の網代垣を支えていた柱の地表面からの深さはほとんどが１mを超えており、地上に立っていた柱の高さは３m程で、柱間は全て1.8mであったことが明らかになっている。一方、７号柱穴列の各柱穴の深さは１mを超えるものもあるが、多くは40㎝～80㎝程である。後世の削平があるため、実際の深さはやや深くなると考えられるが、全ての柱の深さが１mに及ぶ可能性は低い。さらに、柱間は2.60m～3.55mと長めであることから、各柱にかかる荷重の少ない構造であったと考えられる。したがって、垣状のものは、金井下新田遺跡の３mに及ぶ３層構造の網代垣と比較すると、低くシンプルな構造であった可能性が高い。

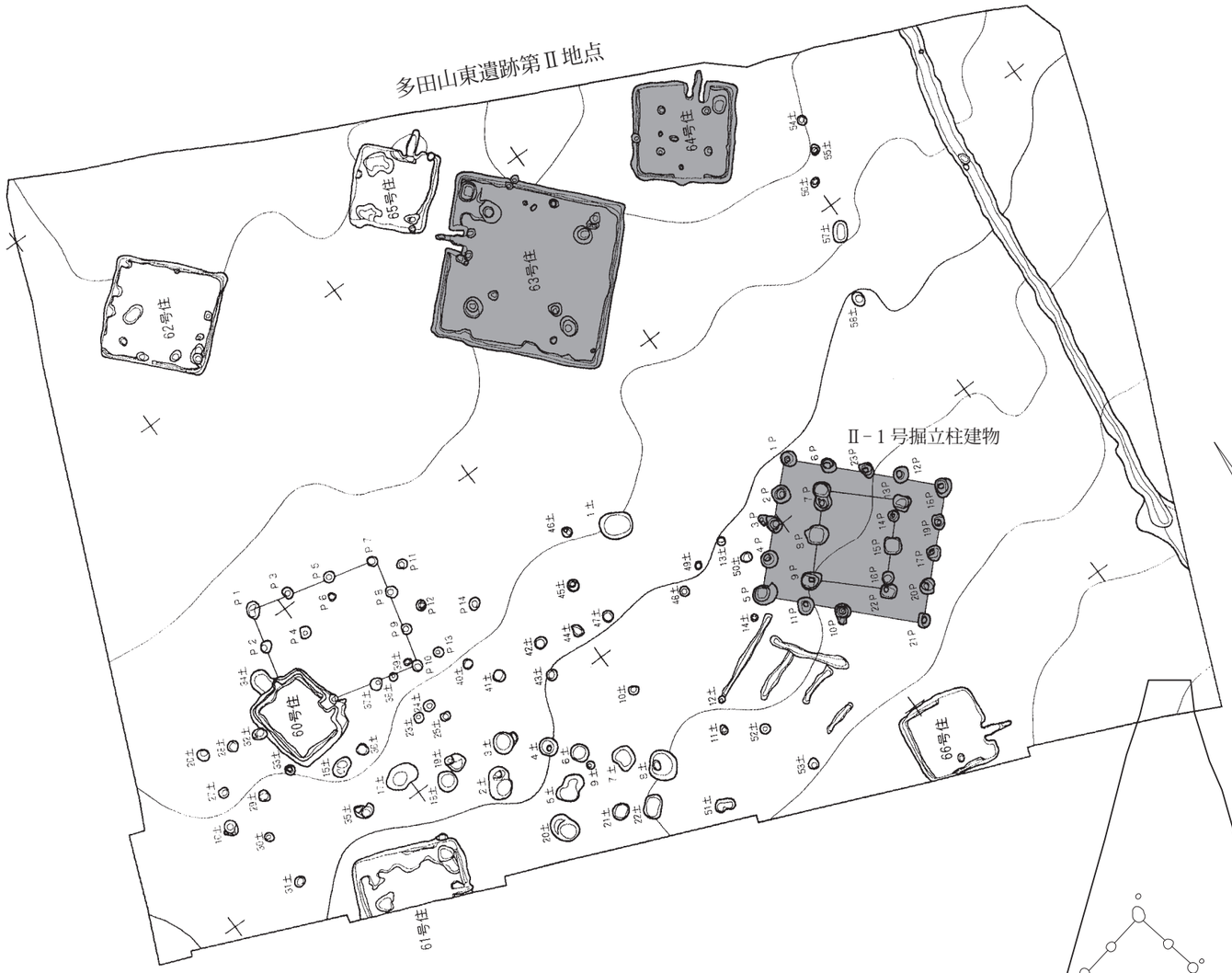
（３）18号掘立柱建物(第341・342図)

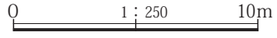
２区北に位置する18号掘立柱建物は、各柱穴の規模や位置関係から屋内棟持柱をもつ高床で寄棟の構造であると考えられる。屋内棟持柱をもつ建物の例としては、県内では伊勢崎市三軒屋遺跡39号掘立柱建物、高崎市三ツ寺Ⅰ遺跡２号掘立柱建物、県外では奈良県上之宮遺跡SB06、同県阿部丘陵中山地区遺跡SB01、島根県芝原遺跡SB01などが挙げられる。いずれも古墳時代後期の豪族居館や奈良・平安時代の豪族居宅に関わる建物、官衙施設の一部と考えられる建物である。

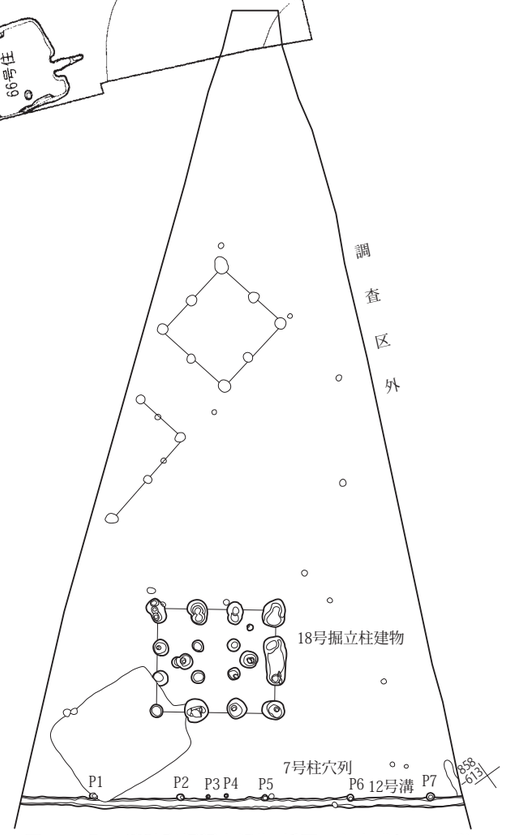
伊勢崎市三軒屋遺跡39号掘立柱建物は建物の東側が調査区外にあり、桁行の規模は不明であるが、桁行３間以上、梁行２間(6.9m)の東西に棟を取る側柱建物と考えられている。桁行の柱間は2.4mである。柱穴は80㎝×70㎝ほどの楕円形状のものを主体とし、確認面から60㎝～70㎝ほど掘り込まれている。棟持柱は建物内部で妻側中央柱筋には通っているが、平側柱延長からはややずれた位置にある。柱穴は75㎝×60㎝の楕円形で、深さ57㎝ほどである。三軒屋遺跡は伊勢崎市上植木本町に位置しており、佐位郡正倉院であることが明らかになった遺跡

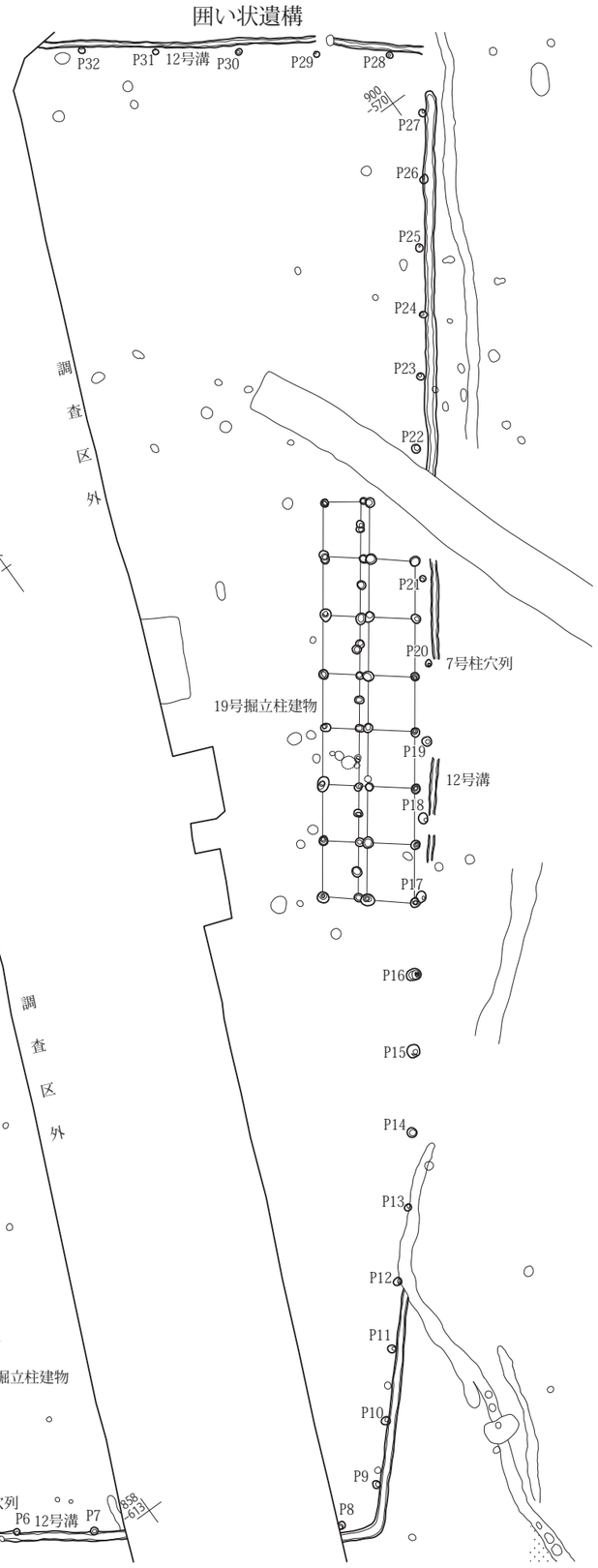


多田山東遺跡
第Ⅲ地点



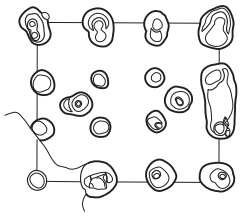




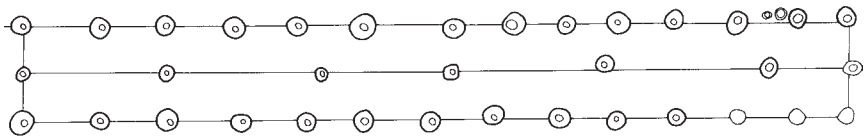


第341図　囲い状遺構と多田山東遺跡第Ⅱ地点・第Ⅲ地点（赤堀町委2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』挿図７、同2001『町内遺跡発掘調査報告』挿図９を合成して作成）

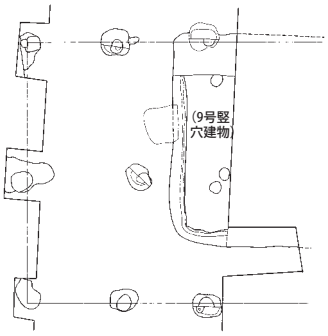
18号掘立柱建物



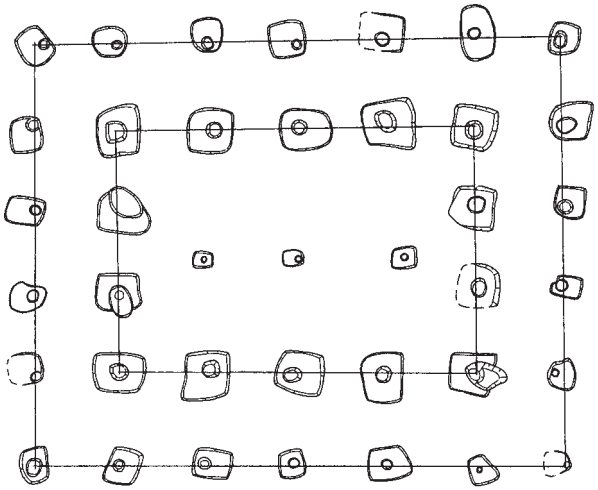
三ッ寺Ⅰ遺跡2号掘立柱建物



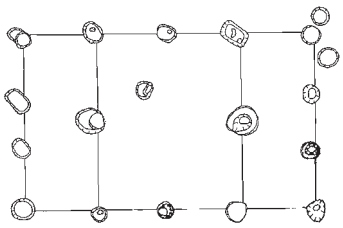
三軒屋遺跡39号掘立柱建物



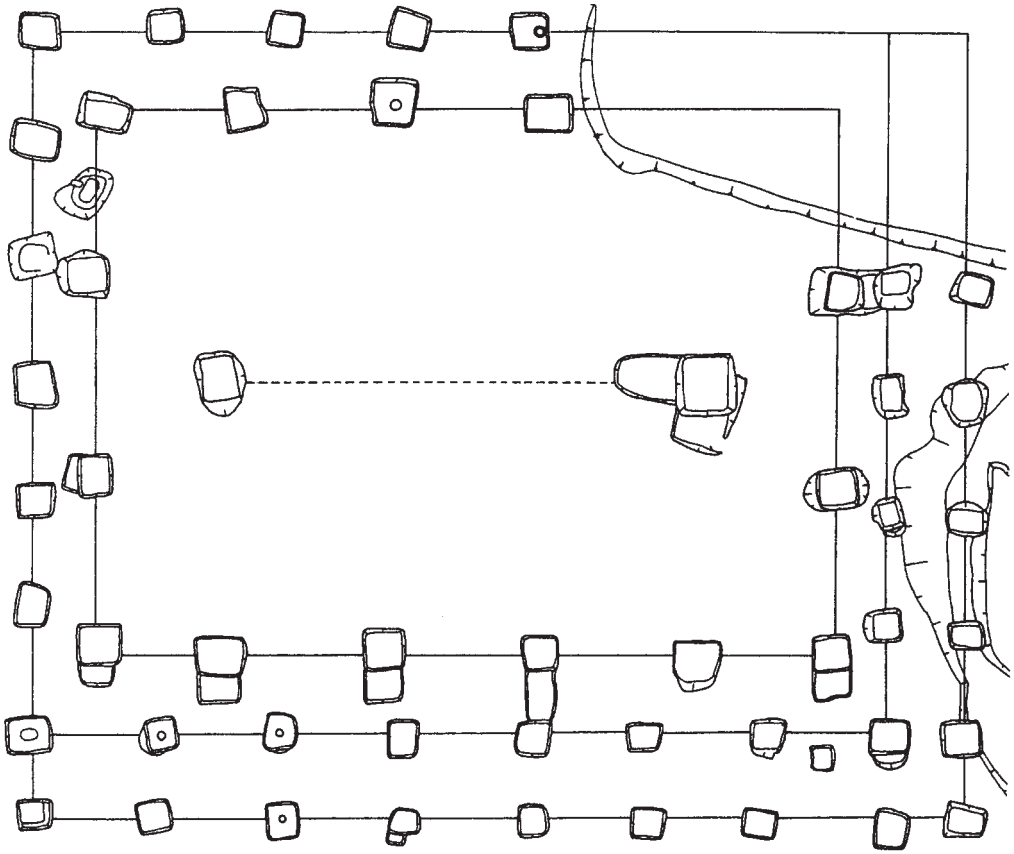
奈良県上之宮遺跡SB06



島根県芝原遺跡SB01



奈良県阿部丘陵中山地区遺跡SB01



0　1：200　5m

第342図　屋内棟持柱のある掘立柱建物

である。正倉院に関連する数多くの遺構が検出されているが、39号掘立柱建物は、正倉ではなく工房と考えられている。

高崎市三ツ寺Ⅰ遺跡２号掘立柱建物は５世紀後半から６世紀初頭の豪族居館を構成する建物で、館の外周にめぐる柵列(西辺第５列)に持たせ架けた状態で造られている。桁行13間(21.74m)、梁行２間(2.55m)で棟持柱７本をもつ細長い建物である。柱間は桁行方向1.31m～2.35m、梁行方向1.27m～1.33m、棟持柱間2.19m～4.32mである。

島根県芝原遺跡SB01は、桁行４間(7.2m)、梁行３間(4.2m)の東西に棟を取る側柱建物である。柱間は桁行1.8m前後、梁行1.15m～1.6mである。西側柱から１間目と３間目の梁間中央にそれぞれ棟持柱がある。柱穴は径35cm～60cmの円形で、深さ17cm～55cmを計る。豪族居宅に関わる建物で間仕切り壁をもつと考えられている。

18号掘立柱建物は、規模や構造が芝原遺跡SB01に近いが、柱穴の規模が大きいことや束柱を有していることなどから、屋内棟持柱のある建物の中でも稀な構造で頑強な作りと考えられる。これに対して、奈良県上之宮遺跡SB06や同県阿部丘陵中山地区遺跡SB01などの、官衙の一部と考えられている建物とは規模や構造が全く異なっている。例に挙げたそれぞれの建物の時期には差があるものの、18号掘立柱建物は、柱穴の規模や建物の構造から、古墳時代の豪族居館や奈良・平安時代の豪族居宅内の建物に見られる構造に類すると考えられる。棟持柱があることで建物の内部に柱が通る形となることから、屋内の使用の仕方に制限が出てくると考えられ、倉庫など居住以外の用途が想定される。

(４)19号掘立柱建物(第341・343～345図)

３区に位置する19号掘立柱建物も第１分冊第３章で述べたように稀な形態の建物で、東隅の撹乱を受けている範囲に１基の柱穴が存在していたと仮定して、７間×２間の総柱の建物と考えられる。全体の形状から、居住以外の目的で使用された建物と考えられる。このような規模と形状の建物の例としては、神奈川県南鍛冶山遺跡４_SI0106、静岡県横山遺跡SH223、佐賀県吉野ケ里遺跡SB0677などが挙げられる。いずれも古墳時代の豪族居館や奈良・平安時代の官衙あるいは豪族居宅に伴う厩舎と考えられているものである。

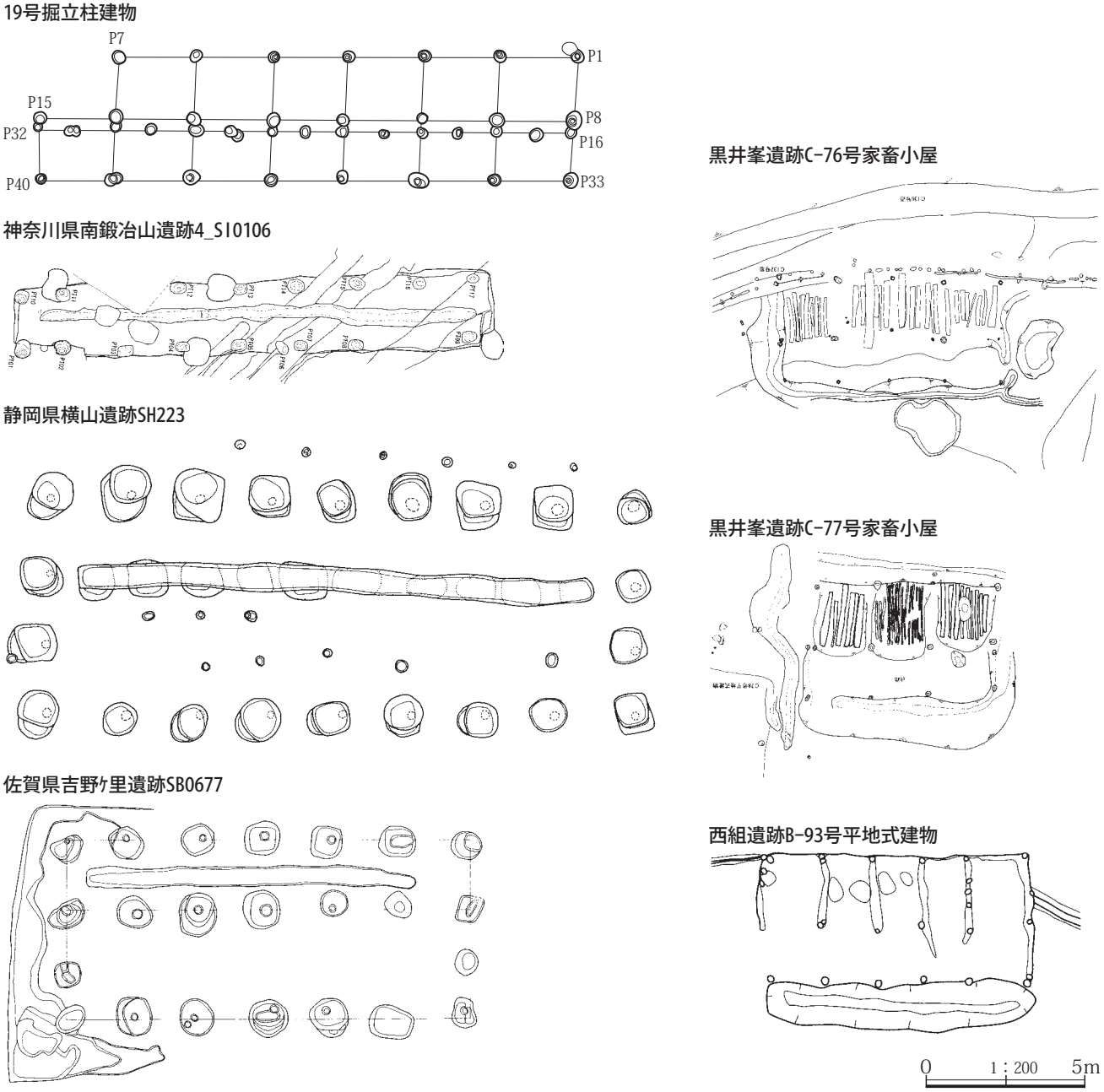
県内におけるこのような建物の例として挙げられるのが、渋川市黒井峯遺跡C-76号家畜小屋、C-77号家畜小屋、同市西組遺跡B-93号平地式建物である。黒井峯遺跡と西組遺跡は６世紀初頭のHr-FA及び６世紀中頃のHr-FPによって被災し、当時の状況を示す様々な遺構が確認された遺跡である。黒井峯遺跡C-76号家畜小屋は、桁行４間(７m)、梁行２間(3.3m)の掘立柱建物である。中央の東西に並ぶ５基の柱穴を境にして、北側は硬化した通路、南側には浅い竪穴が２基設けられている。２基の竪穴はそれぞれ２つの房に分かれており、両竪穴は西にゆるく傾斜している。４つの房の深さは、東側から22cm、12cm、25cm、12cmである。４つの房全てに板敷きが設けられているが、その下に尿溜めが設けられていた可能性が高い。C-77号家畜小屋は、桁行３間(5.9m)、梁行２間(４m)の掘立柱建物である。建物は南北に２等分され、通路と３つの房に分かれている。３つの房は深さ５cm～10cmの浅い竪穴で、すのこ状に板が敷かれている。西端の房の板敷下に80cm×40cm、深さ20cmの長楕円形の尿溜めがあることが確認された。他の房すべてにも設けられていた可能性が高い。黒井峯遺跡C-76号家畜小屋、C-77号家畜小屋、西組遺跡B-93号平地式建物は、いずれも馬の飼育が行われていたと考えられている建物である。

このような類例から19号掘立柱建物についても、その形態から用途の１つとして厩舎を挙げることができる。ただし他の厩舎と考えられる建物の例に見られないのが、建物の中央に並ぶＰ16～Ｐ32の柱穴である。近接するＰ８～Ｐ15に比べ規模が小さく、柱間が1/2である。Ｐ８～Ｐ15に近接していることから束柱の可能性は低く、建物を支えるための他の柱とは異なる設置目的と考えられ、仕切りなどの用途が想定される。

厩舎としての19号掘立柱建物の構造を考えてみると、Ｐ１～Ｐ15と、建物の東隅に存在した可能性のある１本を合わせた16本の柱によって７つの馬房、その馬房とＰ33～Ｐ40の間の範囲が通路、Ｐ16～Ｐ32は、その規模や位置から各馬房と通路を仕切る柵の柱であることが想定できる。各柱穴の位置と現代の一般的な厩舎の構造をもとに、一例として想定した柵と他の柱について、上屋などを省略しイメージしたのが第345図である。古墳時代～平安時代の馬小屋・厩舎と考えられる前述の例につい

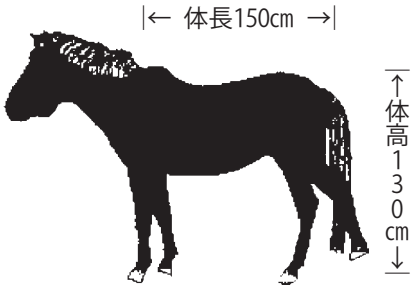
て篠崎譲治氏が『馬小屋の考古学』の中で馬小屋・厩舎の判断基準として挙げているのは、竪穴状の建物であること、床面が傾斜していること、尿溜めがあること等である。本遺構ではいずれも検出されていないが、遺跡全体において後世の削平によって当時の地表面が失われていることから、かつては床面の傾斜や尿溜めが存在していた可能性がある。

また、同書で上記判断基準に当てはまらない厩舎の例として、平城宮西方官衙の発掘調査で検出された奈良時代初期から後半の厩舎の例を挙げている。検出された厩舎に竪穴や尿溜めが見当たらない理由として、大量の糞や尿などを吸収した敷き藁は、長期間留め置かれず、短期間のうちに厩外に搬出され、清掃されたであろうということを挙げている。馬が嫌う湿気を除いて清潔さを保つと同時に、いつでも有事に備えて出撃できる態勢を整えておく、あるいはさまざまな儀式に出られるようにしておくなどの背景があったと論じている。平城宮西方官衙の厩舎とは時期や、施設の性格、規模が異なるが、19号掘立柱建物での馬の所有目的や方法において共通する点があるとすれば、後世の削平によって失われたのではなく、当初から竪穴や尿溜めなどは存在していなかったとも考えられる。



第343図　厩舎に類すると考えられる掘立柱建物

古墳時代に国内にいた馬は、現在生息している木曽馬とほぼ同等の体格[注3]であることがわかっている。木曽馬は体高130㎝、体長150㎝程の中型馬である。建物の東側を７つの馬房と考えた場合、構成するＰ１～Ｐ15の柱間は梁行方向が1.94m～2.00m、桁行方向が2.25m～



第344図　木曽馬の平均的な体格

2.50mである。また、Ｐ16～Ｐ32の柵までが馬房の範囲と考えた場合、各馬房は概ね一辺が2.4m程の正方形となり、木曽馬と同等の体格の馬に適する規模である。

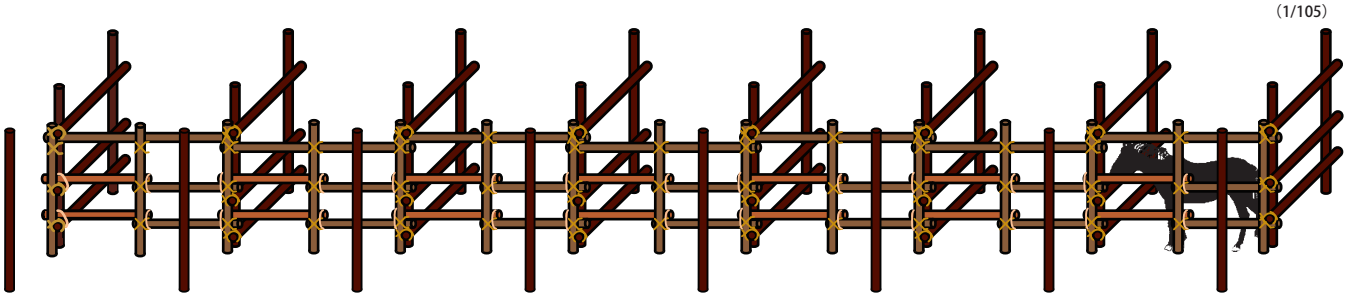
19号掘立柱建物を含む囲い状遺構と同時期に築造された周辺の古墳には、本遺跡の300m程西に位置する多田山古墳群や粕川町の白藤古墳群内の古墳があり、それぞれ複数の古墳から馬形埴輪が出土している。このうち、白藤古墳群のＶ－４号墳（５世紀後半）、同Ｐ－６号墳（５世紀末）、多田山４号墳（６世紀前半）から出土した馬形埴輪の特徴に目を向けてみると、白藤古墳群のＶ－４号墳の埴輪は作りが単純で、目が正面にあるなど、実際の馬体とはやや差がある形状であるのに対し、Ｐ－６号墳で出土した埴輪や多田山４号墳から出土した埴輪では、馬具の細かい表現が見られるなど馬形埴輪の制作技術に進化が認められる。こうした進化を伴い、５世紀後半から６世紀前半にかけて馬形埴輪が連続的に樹立されていることから、この地域においても馬が人々の目に触れる機会が増えていった時期であることが窺われる。また、榛名山北東麓の渋川市金井下新田遺跡では、６世紀初頭のHr-FAによって被災した仔馬などが出土し、それ以前から同遺跡周辺の地域で馬の飼育や生産が行われていたことが明らかになっている。こうしたことから、多田山東遺跡周辺においても馬の存在は想定し得る。

（５）囲い状遺構と２棟の建物

多田山東遺跡で検出された２棟の建物と囲いの関係について考えてみると、18号掘立柱建物の梁方向の中軸は、囲い南西辺のＰ３とＰ４のほぼ中央を通る位置関係にある。この位置関係とＰ３、Ｐ４が他の柱穴より規模や柱間が小さいことから、囲い状遺構の出入り口などの構造が想定されるが、囲い状遺構の囲いが内部と外部を遮断することを目的としていたとすれば、出入り口と18号掘立柱建物の間には、開閉時の視界を遮る施設の存在が考えられる。しかし、そのような痕跡は確認されなかったことから、出入り口と考えることは難しい。18号掘立柱建物との関りのある何らかの構造と考えられる。

19号掘立柱建物と７号柱穴列の柱間は異なるものの、19号竪穴建物の柱穴と７号柱穴列の柱穴が近接する地点のそれぞれの位置関係（19掘立Ｐ２と７柱穴列Ｐ18の位置と19掘立Ｐ７と７柱穴列Ｐ21の位置関係、19掘立Ｐ４と７柱穴列Ｐ19の位置と19掘立Ｐ５と７柱穴列Ｐ20の位置関係）はそれぞれ近似している。したがって、19号掘立柱建物の東隅にあたる位置では、撹乱によって柱穴を確認することができなかったが、19号掘立柱建物Ｐ１と７号柱穴列Ｐ17の位置関係に近似する19号掘立柱建物と７号柱穴列の柱穴が存在していた可能性がある。

また、７号柱穴列の各柱穴の位置について計測値をまとめてみた。（角にあたる位置に柱穴がないため、角に近い柱穴から角までを0.5間とした。）多少ばらつきはあるものの、南東辺が21間で62.3m、南西辺が7.5間で25.25m、北東辺が4.5間で14.25mであった。全ての柱



第345図　19号掘立柱建物　柵と柱のイメージ

間の平均は3.08mとなり、10尺間隔の規格で柱が立てられていると考えられる。その他、19号掘立柱建物の柱間は2.4m（８尺）、18号掘立柱建物の側柱の柱間は1.5m（５尺）、18号掘立柱建物と７号柱穴列の距離は3.6m（12尺）に近い計測値となっており、囲い状遺構とその内部の遺構は、１尺30㎝の規格に基づき、入念な計画によって設置されていると考えられる。

２．多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要

多田山東遺跡の本格的な調査が初めて行われたのは昭和56年度（当時は赤堀村教育委員会）である。１区・２区の西方100m程に位置する3,500㎡程の範囲の調査が行われ、縄文時代～平安時代までの竪穴建物59棟などが確認された。その後、赤堀町教育委員会による平成11年度の第Ⅱ地点の調査に続き、平成12年度に第Ⅲ地点の調査が行われた。第Ⅲ地点は第Ⅱ地点から市道を挟んだ北側に位置しており、古墳時代～平安時代の竪穴建物16棟などが確認されている。

多田山東遺跡第Ⅱ地点は、今回調査された囲い状遺構の西側に隣接する調査区である。古墳時代の竪穴建物３棟、奈良時代の竪穴建物４棟、掘立柱建物２棟などが確認された。第Ⅱ地点の調査では、囲い状遺構の区画と考えている12号溝と７号柱穴列に対応する遺構は検出されていない。一方、北側区画の西側延長上に位置する第Ⅲ地点でも区画は検出されていないことから、必然的に西側の区画は第Ⅱ地点と第Ⅲ地点の間に想定される。したがって、第Ⅱ地点で検出された遺構の多くは囲い状遺構の内部に位置していることになり、囲い状遺構を構成する施設の可能性がある。そこで伊勢崎市教育委員会の協力のもと、「平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報」で報告された各遺構について検討を行った。その内、囲い状遺構を構成する施設の可能性がある建物の概要と作成した図等は以下のとおりである。

63号住居（第341・347図、写真２・４）

調査区北側に位置する主軸方位をN-30°-Wとする正方形の建物で、規模は長軸7.60m、短軸7.50mの調査区内最大の竪穴建物である。竈は北西壁の北寄りの位置に設置しており、粘土とローム質土を用いて構築している。貯蔵穴は建物の北隅にある。規模は長径80㎝、短径65㎝の長方形、深さ53㎝である。主柱穴と考えられるピット４基と、南西側２つの主柱穴付近で小規模なピットが確認されている。建物構築材と考えられる炭化材や、焼土が検出されており、焼失した建物と考えられている。１～９の遺物が床面直上、貯蔵穴、埋没土中から出土している。この建物の時期は出土遺物から５世紀末から６世紀初頭と考えられ、囲い状遺構に伴う遺構と判断できる。

64号住居（第341・347～349図、写真２・４・５）

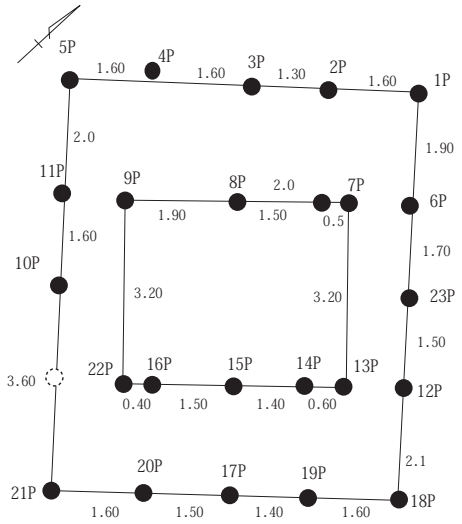
調査区北側にある。主軸方位がN-44°-Eの正方形の建物で、規模は長軸4.42m、短軸4.37mである。

竈は北東壁の東寄りの位置に設置しており、焚口に石を据えて構築している。貯蔵穴は建物の東隅にあり、長径68㎝、短径55㎝の長方形で深さ60㎝である。主柱穴は４基で床面は柱穴内部、竈前を中心に硬くしまっていた。床面直上や埋没土中から遺物が多数出土しており、これらの遺物から、この建物の時期は５世紀第４四半期から６世紀第１四半期と考えられ、囲い状遺構に伴う遺構と判断した。

Ⅱ-１号掘立柱建物（第341・346図、写真３）

調査区南側にある。平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報では「３．掘立柱建物遺構」において「66号の北側に発見した遺構」と表記され、伊勢崎市教育委員会の諸記録では「１号掘立柱建物」として扱われているため、本遺跡１区の調査でも「１号掘立柱建物」の遺構名を使用していることから、ここでは「Ⅱ-１号掘立柱建物」と表記した。

桁行方位がN-45°-Eの桁行４間：6.10m、梁行４間：7.30mの建物で、４間×４間の側柱と２間×１間の入側柱があり、桁行２間、梁行１間の身舎四面に廂がつく四面廂建物と考えられる。12号溝、７号柱穴列、18号・19号掘立柱建物とはやや方位が異なるが、７号柱穴列Ｐ16と同様な形態の須恵器模倣土師器杯が出土している64号住居と同様の方位であることから、囲い状遺構を構成する遺構の可能性が高い。



第346図　Ⅱ－１号掘立柱建物柱間模式図

赤堀町教育委員会発行「平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報」をもとにした囲い状遺構を構成する施設の可能性がある建物についての概要は以上のとおりである。各遺構について記した通り、63号住居、64号住居、Ⅱ－１号掘立柱建物は囲い状遺構の内部施設と判断できる。

この３棟を加えた建物の構成で、多田山東遺跡の囲い状遺構について検討していく必要がある。　（山中　豊）

注

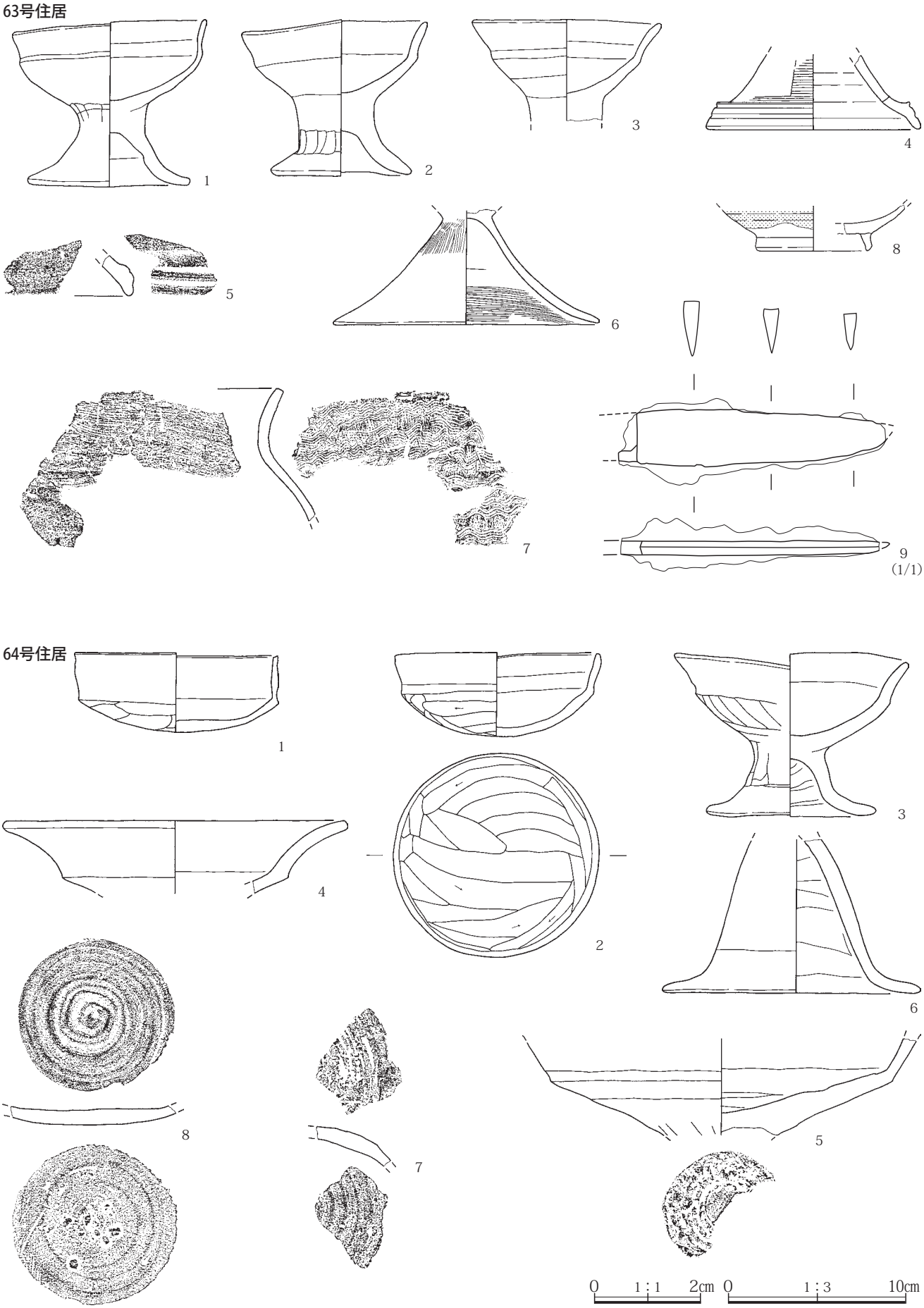
注１　平成17年１月１日の市町村合併により現在は伊勢崎市教育委員会となっているが本文中では調査時の名称を用いている。

注２　遺物の借用と実測の許可、遺構断面図・遺構写真の提供及び本報告書への掲載許可をいただいた。

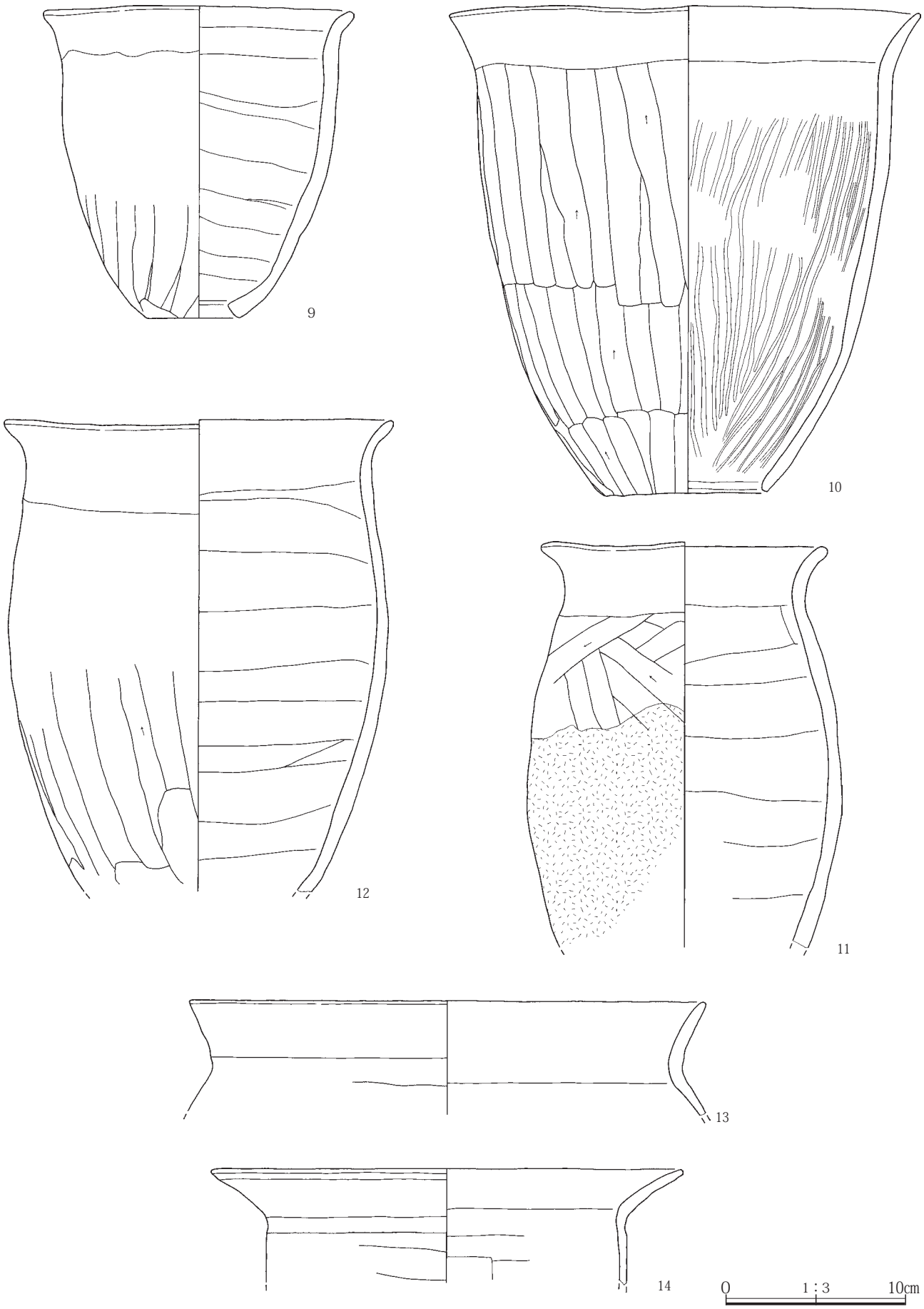
注３　渋川市白井遺跡群の発掘調査で６世紀中頃のHr-FPに埋もれた無数の馬の蹄跡が確認され、その蹄跡に基づく比較研究から、古墳時代に生息していた馬が現在長野県地方を中心に生息している日本在来馬の木曽馬に近い体格であったことが明らかになった。

参考・引用文献

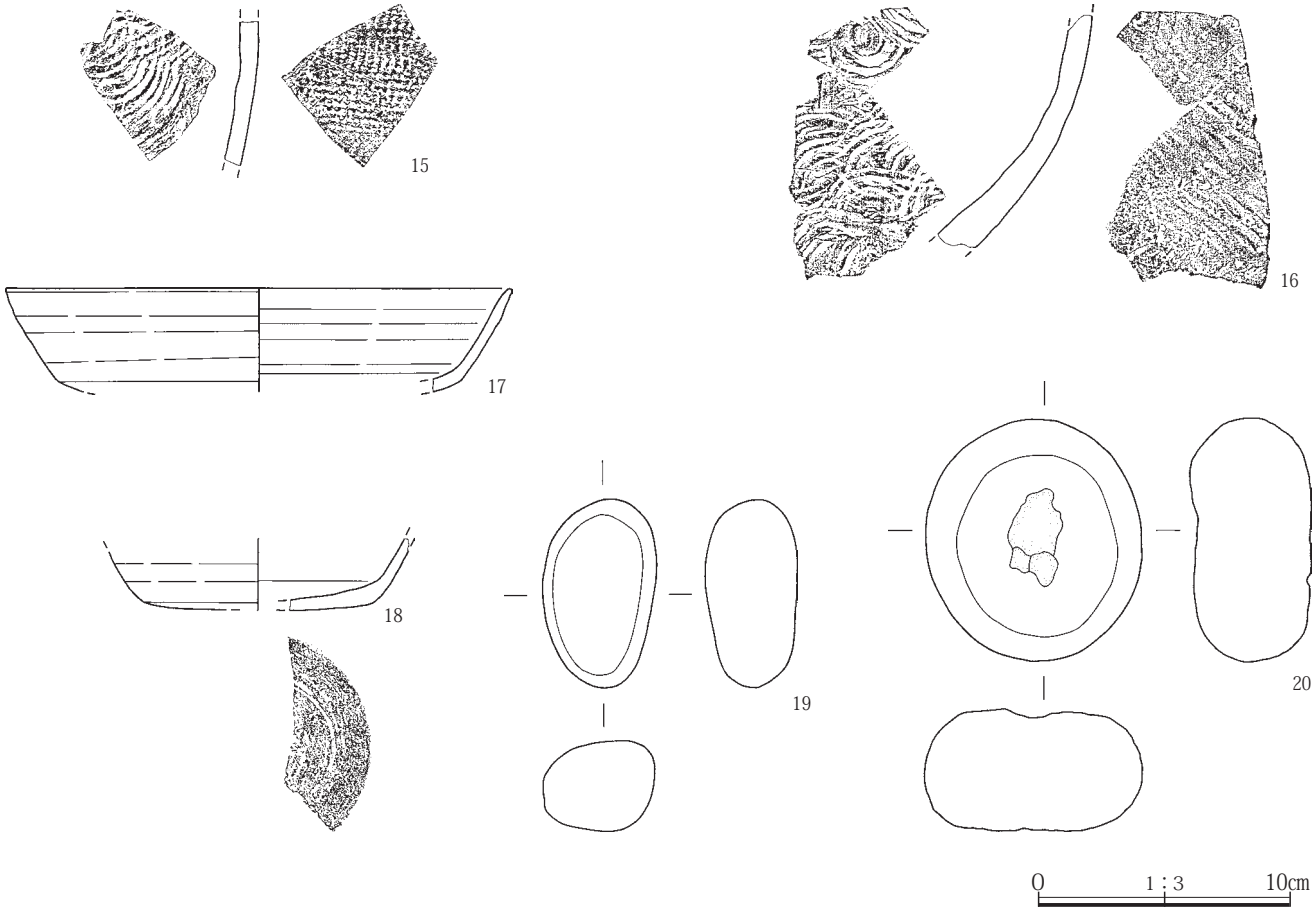
赤堀村教育委員会　1982『多田山東遺跡発掘調査概報』
赤堀町教育委員会　2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』
赤堀町教育委員会　2001『平成12年度 町内遺跡発掘調査報告』
奈良文化財研究所　2003『古代の官衙遺跡 Ⅰ遺構編』
桜井市教育委員会　1988『奈良県桜井市上之宮遺跡第三次発掘調査概報』
桜井市教育委員会　1986『阿部丘陵遺跡群・中山地区の調査』
宮本長二郎　1996『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版
伊勢崎市教育員会　2013『三軒屋遺跡－総括編－』
群馬県教育委員会　1988『三ツ寺Ⅰ遺跡』
松江市教育委員会　1989『芝原遺跡』
公益財団法人いわき市教育文化事業団　2010『根岸遺跡(第12次)』
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2021『金井下新田遺跡《古墳時代以降編》』
篠崎譲治　2010『馬小屋の考古学』
静岡市教育委員会　1984『横山遺跡』
藤沢市教育委員会　2017『南鍛冶山遺跡発掘調査報告書第13巻　古代９』
佐賀県教育委員会　1994『吉野ケ里遺跡』
北群馬郡子持村教育委員会　1990『黒井峯遺跡発掘調査報告書』
石井克己　1990「黒井峯遺跡の集落構造研究(１)―榛名火山の爆発で埋もれた西組遺跡―」『ぐんま考古学手帳 Vol.１』群馬土器観会
群馬県立歴史博物館　2017『海を渡って来た馬文化―黒井峯遺跡と群る馬―』
井上昌美・坂口　一　2004「古墳時代馬の体高推定―群馬県子持村・白井遺跡群出土のウマの蹄跡からの分析―」『研究紀要22』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2004『多田山古墳群』
勢多郡粕川村教育委員会　1989『白藤古墳群』
藤野一之　2019「群馬県における古墳時代須恵器編年」『古墳時代の須恵器と地域社会』株式会社六一書房



第347図　第Ⅱ地点63号住居・64号住居出土遺物（１）



第348図　第Ⅱ地点64号住居出土遺物（２）



第349図　第Ⅱ地点64号住居出土遺物（３）

第42表　多田山東遺跡第Ⅱ地点遺物観察表

63号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第347図 写真4	1	土師器 高杯	ほぼ完形	口 稜	10.7 10.2	脚 高	8.8 9.3	細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、体部はナデ、底部はヘラ削りか。脚部はヨコナデ。	杯部は須恵器杯蓋模倣
第347図 写真4	2	土師器 高杯	貯蔵穴底部 3/4	口 稜	10.1 9.0	脚 高	7.5 8.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、体部から底部はナデ。脚部は柱状部上半がナデ、下半はヘラナデ、裾部はヨコナデ。	杯部は須恵器杯蓋模倣
第347図 写真4	3	土師器 高杯	貯蔵穴内 杯部～脚部上位	口 稜	10.3 8.3			細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、体部から脚部はヘラナデ。	
第347図 写真4	4	須恵器 高杯	床面直上 脚部下位片	脚	11.8			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部に2条の凹線、柱部はカキメ。脚部に方形の透孔を3方に穿つ。	
第347図	5	須恵器 高杯	床面直上 脚部端部片					細砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。脚端部に2条の凹線が巡る。	
第347図 写真4	6	土師器 高杯	脚部片	脚	14.7			細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部上位にハケメ(1cm当たり7本)が残る、ハケメ下位はミガキか。内面は横方向ハケメ。	混入品、古墳時代前期
第347図 写真4	7	土師器 甕	口縁部～胴部上位片					細砂粒/良好/にぶい黄橙	残存部は口縁部から胴部に6～7段の波状文。内面はハケメ後部分的にナデ。	混入品、古墳時代前期
第347図 写真4	8	灰釉陶器 椀	底部～体部片	底 台	6.5 6.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	混入品、大原2号窯式期
第347図 写真4	9	鉄製品 ミニチュア 刀子	埋没土 4/5	長 茎 巾	(5.1) 0.9	刃 巾 厚	1.0 0.3		小型の刀子。茎が一部欠損している。実用というより祭祀用と考えたほうが良い。	

64号住居

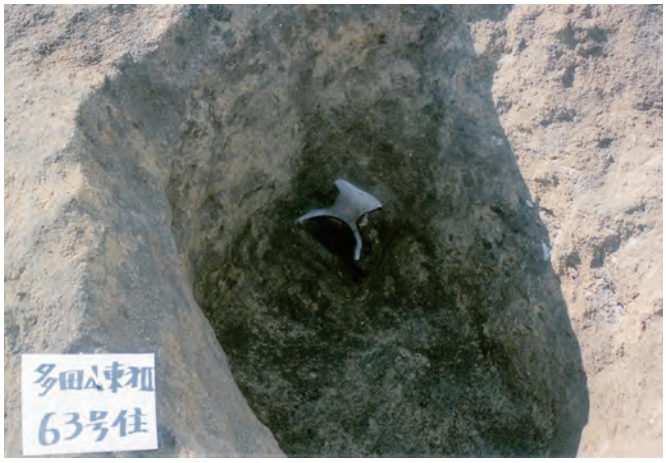
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第347図 写真4	1	土師器 杯	床面直上 4/5	口 稜	11.4 11.2	高	4.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部はヨコナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部は若干窪みをもつ平坦面を作る。	須恵器杯蓋模倣
第347図 写真4	2	土師器 杯	完形	口 稜	11.4 10.8	高	4.7	細砂粒/良好/明褐	口縁部はヨコナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部は平坦面を作る。	
第347図 写真4	3	土師器 高杯	床面直上 3/4	口 稜	12.9 10.8	脚 高	9.5 9.1	細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、体部はヘラ削り、脚部は柱状部がヘラナデ、裾部がヨコナデ。内面は脚部柱状部にヘラナデ。	
第347図 写真4	4	土師器 高杯	床面直上 杯部片	口 稜	19.0 12.6			細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ。	
第347図 写真4	5	土師器 高杯	杯部底部片	稜	19.2			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	脚部は杯部に貼付するように接合、杯部底部に線刻を数条入れる。杯部稜下はヘラ削り後ナデ。内面はヘラナデ。	
第347図 写真4	6	土師器 高杯	脚部片	脚	14.1			細砂粒/良好/明赤褐	脚部柱状部はヘラナデ、裾部はヨコナデ。内面は柱状部にヘラ削りに近いヘラナデ。	
第347図 写真4	7	須恵器 蓋杯の蓋	天井部片					細砂粒/還元焔・燻/黒	ロクロ整形、回転方向不明。天助部は回転ヘラ削り。内外面とも燻焼成。	
第347図 写真4	8	須恵器 蓋杯の身	底部					細砂粒/還元焔・燻/黒	ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転ヘラ削り。内外面とも燻焼成。	
第348図 写真5	9	土師器 甑	ほぼ完形	口 底	16.9 5.2	高	17.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り、上半は器面磨滅のため単位不明。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図 写真5	10	土師器 甑	ほぼ完形	口 底	25.8 9.0	高	27.0	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に縦方向ヘラナデ。	
第348図 写真5	11	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 胴	15.1 17.4			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り、中位から下位に粘土付着のため単位不明。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図 写真5	12	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 胴	21.0 20.8			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り、上半は器面磨滅のため単位不明。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図	13	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	28.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図 写真5	14	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	26.0			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	混入品
第349図 写真5	15	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焔/灰	胴部は叩き締め成形。外面は格子目状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第349図	16	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/酸化焔/黄灰	胴部は叩き締め成形。外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第349図 写真5	17	須恵器 杯	口縁部～体部片	口	19.8			細砂粒/良好/灰	ロクロ整形、回転は右回り。有台形態か。	混入品、7世紀末～8世紀前半。
第349図 写真5	18	須恵器 杯	底部～体部片	底	9.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	混入品、7世紀後半。
第349図 写真5	19	石製品 小型棒状礫	完形	長 幅	7.5 4.5	厚 重	3.6 157.6	粗粒輝石安山岩	左側面に擦り磨かれた痕跡が残る。	
第349図 写真5	20	石製品 凹石	完形	長 幅	9.6 8.6	厚 重	4.6 454.1	粗粒輝石安山岩	上面中央にわずかな窪みが、みられる。	

１．第Ⅱ地点調査区全景（東から）

２．第Ⅱ地点調査区より多田山丘陵を望む（東から）

１．63号住居(東から)

２．63号住居土層断面(南から)



３．63号住居遺物出土状況(南西から)

４．63号住居竈(南東から)

５．64号住居(南西から)

６．64号住居土層断面(南から)

７．64号住居遺物出土状況(南西から)

８．64号住居竈(南西から)

１．１号掘立柱建物１Ｐ土層断面

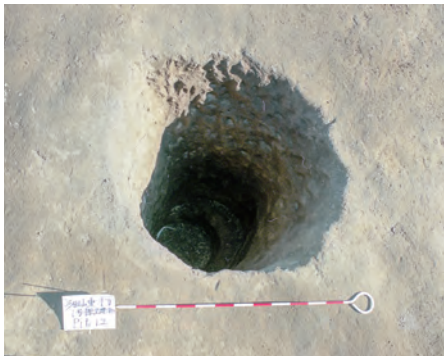
２．１号掘立柱建物２Ｐ土層断面

３．１号掘立柱建物４Ｐ土層断面

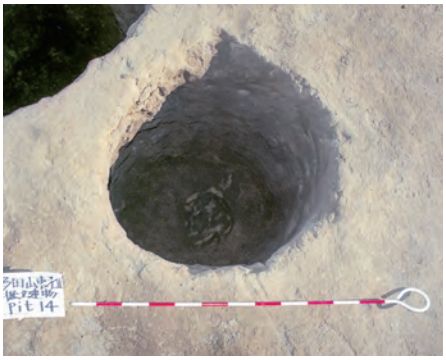
４．１号掘立柱建物６Ｐ土層断面

５．１号掘立柱建物９Ｐ土層断面

６．１号掘立柱建物10Ｐ


７．１号掘立柱建物12Ｐ

８．１号掘立柱建物13Ｐ土層断面


９．１号掘立柱建物14Ｐ

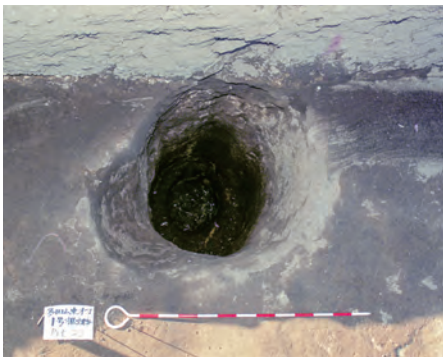
10．１号掘立柱建物17Ｐ土層断面

11．１号掘立柱建物19Ｐ土層断面

12．１号掘立柱建物20Ｐ土層断面

13．１号掘立柱建物21Ｐ土層断面

14．１号掘立柱建物22Ｐ土層断面


15．１号掘立柱建物23Ｐ

63号住居

1

2

3

4

8

6

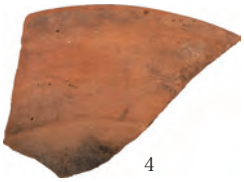
7

9

64号住居（１）

1

3


4

2

5

8

6

7

63号・64号（１）住居出土遺物

64号住居（２）

9

10

11

12

14

15

17

18

19

20

64号（２）住居出土遺物

第２節　多田山東遺跡の囲い状遺構について

１．はじめに

多田山東遺跡は赤城山小沼を水源とする粕川の右岸、多田山丘陵の東の台地に立地する。この台地の東側は粕川が形成した比較的広い低地で、西側には多田山丘陵との間に狭いながらも水田可耕地の低地が存在し、農耕集落が形成されるには適した台地である。集落の範囲はおおよそ南北500m、東西270mとみられ、古墳時代から平安時代前期にかけての竪穴建物が密な状態で展開していることが、今回の発掘調査及び赤堀町教育委員会による発掘調査[注1]によって明らかになった。その中でも特に古墳時代中期から後期にかけては竪穴建物28棟(今回の報告分)と盛行していた。そうしたなか、集落の北東にあたる場所から、柱穴列と溝による区画内部に掘立柱建物と竪穴建物が配置された囲い状遺構[注2]が検出され、首長層の居館の可能性がでてきた。ここでは赤堀町教育委員会の実施した多田山東遺跡(平成11年度、平成12年度)の成果[注3]を含めて検討を行うこととした。

２．区画施設の遺構

囲い状遺構の区画施設は、第１分冊第238図に示したように、小規模な柱穴からなる７号柱穴列と柱穴列の外側10cmほどの間隔をあけて幅20cm～50cm、深さ３cm～12cmの小規模な溝(12号溝)である。

発掘調査範囲では、北辺(第３章第４節１．囲い状遺構では北東辺と呼称しているが、ここでは北辺、南は南辺、東は東辺と同様に簡略した。)が北東角から西へ16.50m、東辺62.50m、南辺が南東角から西へ現道を挟んで28.75mを検出している。なお、12号溝からの計測ではあるが北東角は90°と直角に近い角度であるのに対して南東角は97°とやや鈍角である。これは東辺の12号溝は19号掘立柱建物の東側でわずかに屈曲し方向を変えていることによる。なお、溝は南辺と北辺ではほぼ切れ間なく確認されているが、東辺では北半は比較的良好な状態で検出されたが、南半の７号柱穴列P12からP17の間は確認されていないが、これはもともと掘り込まれていたとみられる。

柱穴列を構築している柱穴はP16～P32間が小規模な柱穴が連続しているが、全体では確認面で径22cm～63cm、深さ22cm～117cmを測る。深さの平均は65cmと比較的深い。柱穴間の間隔は0.7m～3.55mを測るが、平均では３mほどである。なお、南北角と東西角にあたる個所から柱穴は確認されていない。土層断面の観察では単一土や２～４による複数の土砂による水平堆積が確認されている。柱痕は確認できないことから抜き取られた可能性が高い。また、底面の状態から柱の断面は円形を呈し、径５cm～10cmほどの丸太材が使用されたと推定される。

区画施設の遺構の西側は平成11年度(多田山東遺跡第Ⅱ地点)と平成12年度(多田山東遺跡第Ⅲ地点)に実施された赤堀町教育委員会の発掘調査では確認されていないことから北辺は直線的に西へ延び、多田山東遺跡第Ⅱ地点調査範囲と多田山東遺跡第Ⅲ地点調査範囲の約10m間に西辺が存在すると想定できる。この想定からは北辺71m～74mほどとみられる。なお、南辺は北辺の長さと同様とみられるが、北西角が南東角と同様な角度であれば北辺と同様に71m～74m、直角であればやや短くなると想定できる。

柱穴列と溝の方位は北辺と南辺がN-54°-W、東辺N-36～42°-Eを指す。

前述のように溝は柱穴列によって構築される柵と接している箇所と10cmほどの間隔がある箇所とが存在している。こうしたことから柵を構築する柱に横木を渡してそこに網代や板など内部を遮蔽するものを取り付け、その下端を溝に埋め込んだ可能性がある。

７号柱穴列や12号溝からの出土遺物は少なく、図示できた遺物は第244図に掲載されている須恵器杯蓋模倣の土師器杯２点(１・２)、土師器杯１点(３)、土師器甑１点(４)、土師器小型甕１点(12溝-１)の５点だけであった。このうち、土師器杯(３)はその形態から８世紀末から９世紀初頭の年代観が与えられ、他の土師器とは大きく年代が離れたもので後の混入とみられる。須恵器杯蓋模倣の土師器杯(１・２)は口縁部がほぼ直立し、口唇端部が内側に傾斜する面を作っており、古い様相を呈している。しかし、２は稜下体部をヘラ削りではなくナデですませており、やや年代が下る様相がみられる。このため、７号柱穴列と12号溝の年代観は本文所見(第１分冊

289頁)にもあるように５世紀後半から６世紀初頭とやや幅広い時期に比定するに留まっている。

３．内部施設の遺構

今回の発掘調査範囲の中では柱穴列と溝に区画された内部には18号掘立柱建物と19号掘立柱建物が存在していたと考えている。両掘立柱建物とも出土遺物がほとんどなく、未掲載遺物を含めても出土遺物からの判断は躊躇せざるを得ないが、建物の方位は南辺を区画する柱穴列や溝、東辺を区画する柱穴列や溝と同様な方位であることから、区画施設と併存していたと判断した。

18号掘立柱建物は南辺の柱穴列や溝とほぼ同方位のN−52°−Wを指す桁行３間、梁行３間の掘立柱建物で、東辺から18.7m、南辺から3.6mの位置で南辺に平行して配置されている。建物についての詳細は第１分冊297〜300頁に記載されているように桁行３間、梁行３間の総柱建物で内側に配置された柱の東西に棟持柱を立てる特殊な建物である。こうした建物内部に棟持柱を立てる建物は屋内棟持柱付建物とされ、宮本長二郎氏によると縄文時代晩期末、弥生時代中期末から古墳時代にかけても類例を見ることができるが、一般的に大型の建物[注4]が多い。さらに宮本氏は「屋内棟持柱付建物」の分析を行い、棟持柱の位置から屋内中央１カ所に棟持柱を立てるＡ形式、棟通りの両妻側寄りの２カ所に棟持柱を立てるＢ形式、屋外近接棟持柱と屋内棟持柱が一体となって棟木を支持するＣ形式の三通りに区分[注5]されている。Ｂ形式の棟持柱付建物は大型建物が多く梁行３間、桁行５間を超す建物が目立つとされている[注6]。なお、古墳時代の上毛野では棟持柱付建物は三ツ寺Ⅰ遺跡２号掘立柱建物[注7]（Ｃ形式)、伊勢崎市原之城遺跡２号掘立柱建物（Ｃ形式)、３号掘立柱建物[注8]（Ｃ形式)が検出されており、18号掘立柱建物のようなＢ形式に分類される「屋内棟持柱建物」は確認されていない。

なお、18号掘立柱建物は内部の柱穴が側柱の柱穴に比べ小規模なことや棟持柱とみられる柱穴の存在から総柱の高床建物と判断できる。こうした総柱建物については倉庫としての用途が想定される。しかし、18号掘立柱建物の西側が未調査のため断定はできないが、倉庫であれば複数の同様な建物が存在していた可能性が高いことから別な用途も考慮する必要がある。

19号掘立柱建物は東辺中ほど北辺から21.2m、南辺から27.5mの間隔で東辺の柱穴列に接する位置で検出されている。規模は桁行７間、梁行２間の規模をもつ。この建物も総柱建物であるが、棟の通し柱は側の柱とほぼ同規模であり、この通し柱に付随するようにもう一列の柱穴列が検出され、このもう一列の柱穴列は通し柱の柱穴間にも柱穴が検出されている。こうした、柱の存在や建物の状態から渋川市西組遺跡[注9]や渋川市黒井峯遺跡[注10]で検出されている家畜小屋と同様な建物と想定した。特に囲い状遺構であることを考慮すると馬小屋[注11]であった可能性が高い。多田山東遺跡では当時の地表面は後の耕作によって撹拌を受けており、西組遺跡のような馬房の痕跡や糞尿ためなどを検出することはできなかった。しかし、19号掘立柱建物では東側に区画施設を設けているため、西組遺跡で復元された馬小屋のように通路の外側に糞尿ためを設けることは可能である。前節で編集者山中が指摘しているように梁行方向では東側と西側の幅が異なり馬房の前に通路を設けたとみられる。また、糞尿ためについては黒井峯遺跡の家畜小屋と報告されているものを見ると複数の設置方法がみられることから多田山東遺跡でも馬房の後ろにこだわる必要性はないとみられる。

なお、区画施設に接近した桁行の長い掘立柱建物には三ツ寺Ⅰ遺跡２〜４号掘立柱建物[注12]、栃木県宇都宮市西下谷田遺跡SB16・SB17掘立柱建物[注13]などの報告例をみることが可能であるが、平面形態での構造が異なることからここでは列挙するにとどめる。

この他、区画施設内部に位置する多田山東遺跡第Ⅱ地点[注14]では出土した土器や方位から多田山東遺跡Ⅱ−１号掘立柱建物(赤堀町教育委員会が発掘調査を実施した多田山東遺跡第Ⅱ地点は以下遺構名称の前に「Ⅱ−」のみを付けて表記する)、Ⅱ−63号住居(竪穴建物)、Ⅱ−64号住居(竪穴建物)が囲い状遺構を構成していたと想定できる。

Ⅱ−１号掘立柱建物は前記のように桁行２間、梁行１間の身舎の４面に廂を設けた四面廂建物と想定できる。この建物は、東辺から身舎中央まで36mの位置に建てられており、推定される区画では東西のほぼ中央に位置している。こうした位置関係と四面廂建物であることから主屋と想定できる。さらに南側廂の柱は東南側柱穴21Ｐ

とその西側柱穴10Ｐの間は北側廂の柱穴と比較すると柱穴１本が欠落している。Ⅱ－１号掘立柱建物の廂柱穴は身舎柱穴ほどではないが発掘調査時の土層断面図では70㎝～100㎝の深さが記録されており、調査時に見落とすことはないとみられる。こうしたことから廂柱穴10Ｐと21Ｐ間にはもともと柱穴が設けられておらず、ここが主たる出入り口であった可能性が高くこの建物が南面していたと想定できる。

Ⅱ-63号住居、Ⅱ-64号住居はともに竪穴建物である。Ⅱ-63号住居の竈は西壁、Ⅱ-64号住居の竈は北壁に構築されているなど相違点はあるが、前記のように出土遺物から同時期に存在していた竪穴建物である。なお、両竪穴建物は出土している土器からは５世紀末から６世紀第１四半期に比定できることから囲い状遺構も同様な時期まで存続時期を絞ることが可能とみられる。また、両竪穴建物の間では面積で３倍近い開きがあり、主従関係や機能的な相違が想定できる。

４.周辺の豪族居館・首長居館と囲い状遺構

多田山東遺跡周辺では古墳時代前期に大きな勢力を有していた豪族・首長の存在は窺えないが、５世紀中葉になると北西700mほどに帆立貝式古墳で全長70mほどの伊勢崎市赤堀茶臼山古墳[注15]が存在する。赤堀茶臼山古墳からは多くの形象埴輪が出土し、その中には家形埴輪８個体、囲形埴輪１個体が含まれており、家形埴輪の配置から豪族の館を表現しているとして、その後の研究[注16]に大きな影響を与えている。さらに多田山丘陵を挟むが西1.8㎞ほどには前橋市大室古墳群[注17]が存在する。その中には６世紀初頭から後半代にかけて築造された前方後円墳で全長90mほどの前二子古墳、全長111mの中二子古墳、85mの後二子古墳が存在する。

遺跡地の西側に存在していた多田山丘陵上にも６世紀～７世紀にかけて築造された中小の古墳から形成される伊勢崎市多田山古墳群[注18]、さらにその周辺には第353図に示したように多くの古墳群が存在しており、こうした古墳の存在からもこの地域には５世紀以降に多くの豪族居館や首長居館の存在を窺うことが可能である。

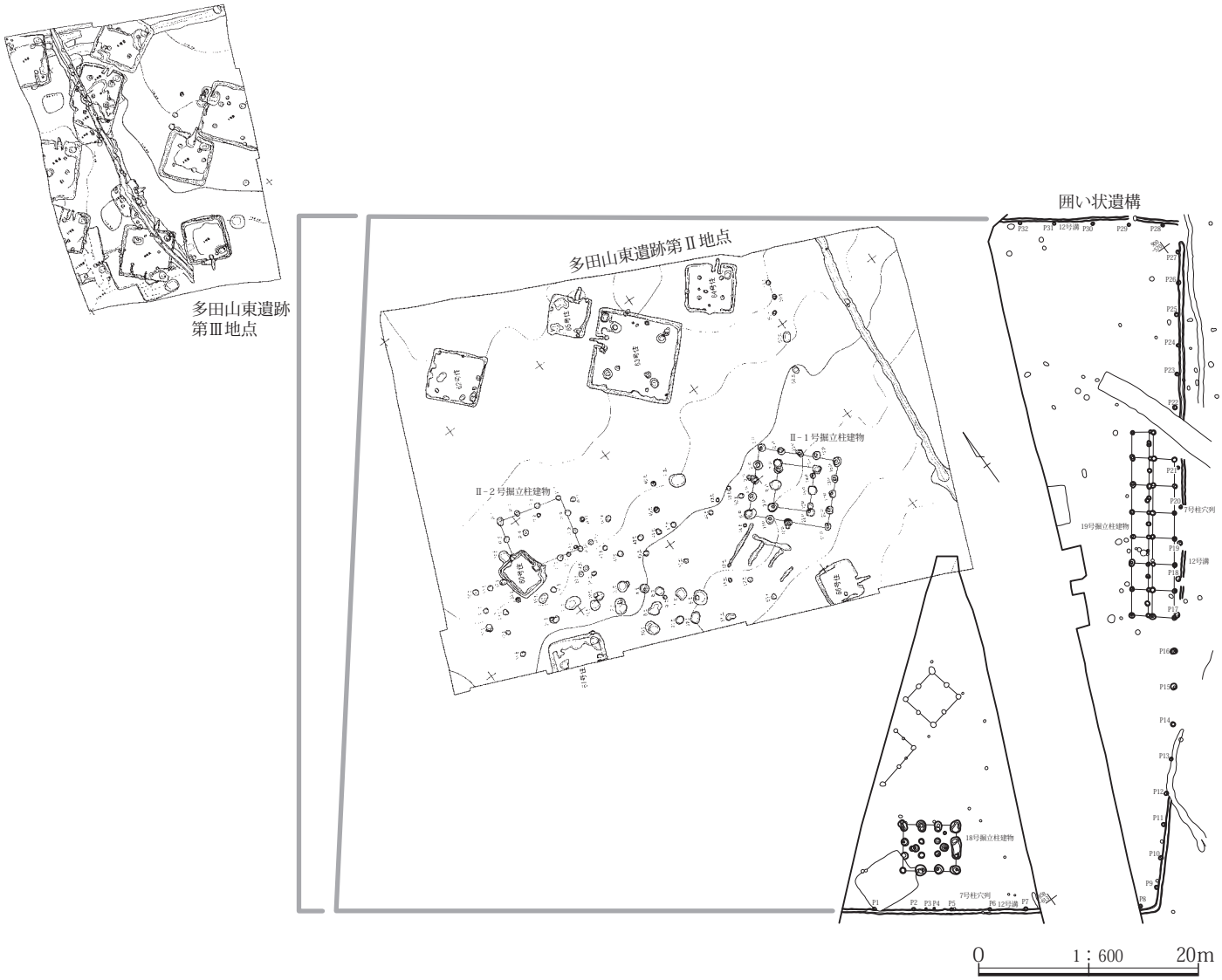
こうした状況の中で周囲・周辺では伊勢崎市毒島城跡で赤堀茶臼山古墳の被葬者の居館が存在していたと橋本博文氏によって想定されている。さらに粕川と荒砥川間では東から伊勢崎市今井学校遺跡、前橋市梅木遺跡、前橋市荒砥荒子遺跡、前橋市丸山遺跡で５世紀から６世紀前半の豪族居館・首長居館[注19]の一部が検出されている。さらに南へ５㎞には南北170m、東西110mの長方形を呈する範囲に幅10m～20m、深さ１m～1.5mの濠を巡らした６世紀後半に比定される豪族居館の原之城遺跡[注20]が存在している。

多田山東遺跡の囲い状遺構は70mほどの区画であることからこれと近い様相を呈するものや周辺の伊勢崎市毒島城跡、伊勢崎市今井学校遺跡、前橋市梅木遺跡、前橋市荒砥荒子遺跡、前橋市丸山遺跡の豪族居館・首長居館と比較検討することとした。これらの豪族居館・首長居館の概要は以下のとおりである。

毒島城跡[注21]　遺跡は多田山東遺跡の北500mに位置することから概要を記述する。この遺跡は赤城南麓に立地する独立丘に存在する。赤堀茶臼山古墳からの視認が容易であることから橋本博文氏によって赤堀茶臼山古墳の被葬者の居館と推定されている。遺跡は中世に城館が築造されているため本来の地形が改変されている。古墳時代の居館に伴う遺構は検出されていないが、赤堀茶臼山古墳と同様な５世紀代和泉式の土師器が多く出土しており居館の存在が窺えるとされている。

今井学校遺跡[注22]　遺跡は多田山東遺跡の南750mと毒島城跡と同様に至近距離にある。今井学校遺跡の立地は多田山東遺跡と同様に赤城南麓斜面地形が平野部へ移行する付近で南流する粕川右岸の台地縁辺である。そのため、南辺側は粕川の浸食によって失われた可能性がある。発掘調査は赤堀町教育委員会と新潟大学などで数次にわたって実施され、北東部側の調査が進んでいる。新潟大学の発掘調査によって居館範囲の南西角が検出され、2019年の伊勢崎市教育委員会より北辺西の堀が検出され全体の規模が把握されている。

居館は南北84m、東西90mの範囲を幅5.7m～6.6m、深さ0.8m前後を測り、断面形状が逆台形を呈する堀で囲まれている。堀は全周するとみられるが、北辺の中ほどで土橋状に残された箇所も検出されている。堀から約6.7m内側を柵で区画されているが、全周するかどうかは不明である。内部施設として13棟の竪穴建物が検出され、うち２棟は５世紀末から６世紀初頭、３棟が６世紀前半で居館に伴う存在とみられるが、配置に規則性が窺



第350図　多田山東遺跡囲い状遺構と範囲想定

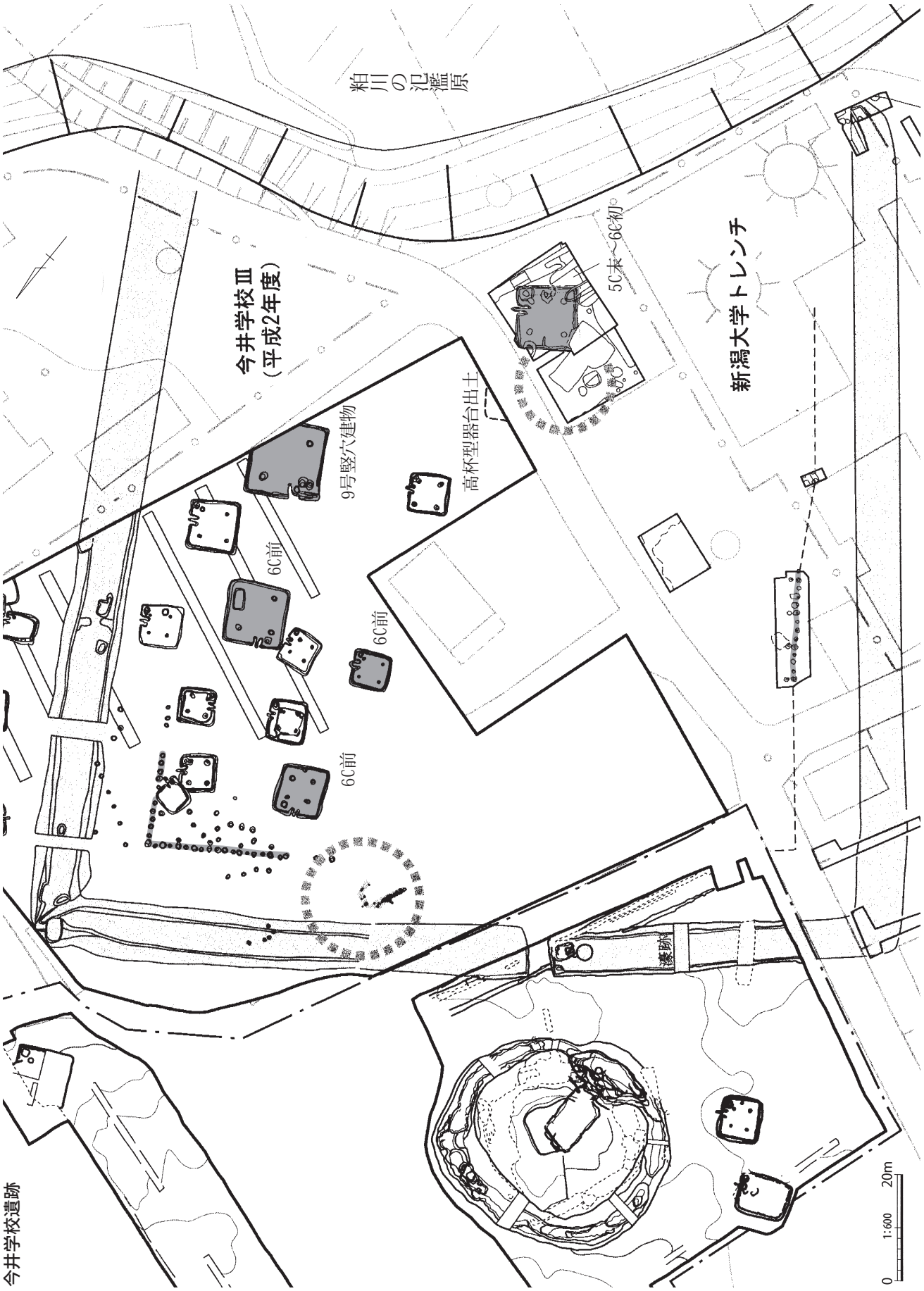
えないことからすべて同時期に存在した可能性は低い。こうしたことから検出されている竪穴建物の間には変遷が想定される。竪穴建物の中では９号竪穴建物が燃焼部から煙道がほぼ直角に曲がるＬ字状のカマドを構築し、焚口には両袖に門柱状に筒形土製品を立てその上に同様の土製品を架けたものが検出され半島の影響[注23]が窺える。

居館内では掘立柱建物や祭祀遺構は検出されていないが、平成２年度に調査された20号竪穴建物付近では須恵器大型高杯形器台が複数出土しており、調査が及んでいない箇所に祭祀遺構の存在が窺える。

居館の時期については出土している土器から５世紀末から６世紀前半の年代観が与えられている。

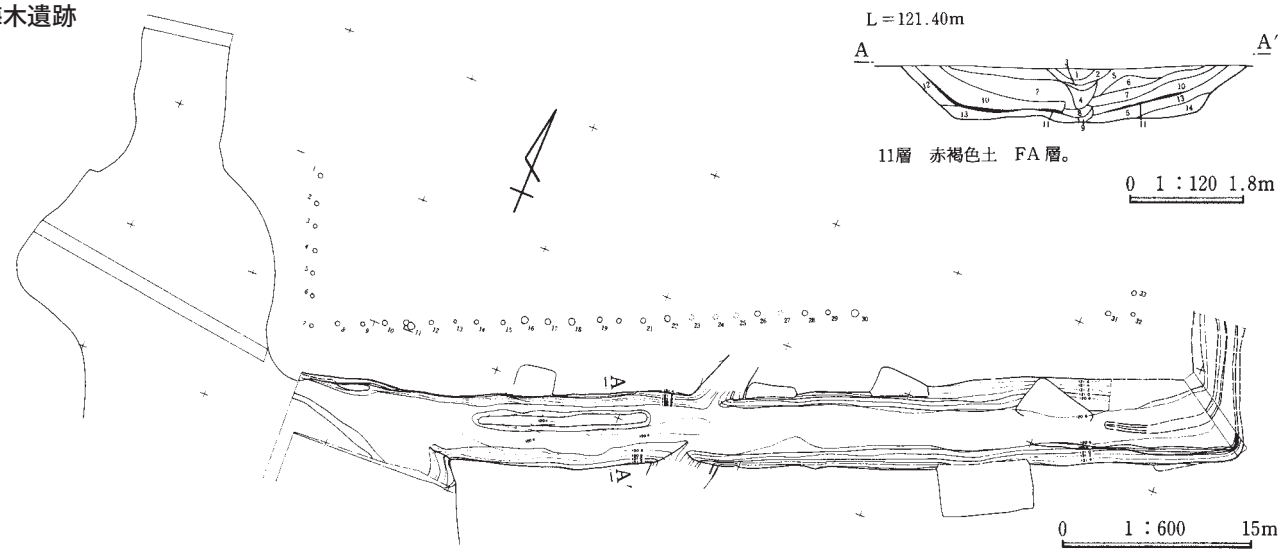
梅木遺跡[注24]　遺跡は赤城南麓が平野部に移行する付近、多田山丘陵の西側、赤城山山麓を源とする桂川右岸の微高地上に立地する。遺跡地の西側には前二子古墳をはじめとする大室古墳群が存在する。多田山東遺跡とは多田山丘陵を挟んで西北西２㎞ほどである。

居館は当初の発掘調査で南辺を区画する堀と、その内側で柵が検出されているだけであるが、その後住宅予定地や道路建設などの発掘調査、農地や民家の庭での確認調査を実施しており、その西辺に相当する堀と柵を検出し一部に張り出しが造られていることも確認している。居館の規模は不明であるが、南辺の堀は63mを測り、ほぼ東西方向の規模を表しているとみられる。堀は幅4.0m～6.6m、深さ1.0m～1.2mを測り、断面形状は逆台

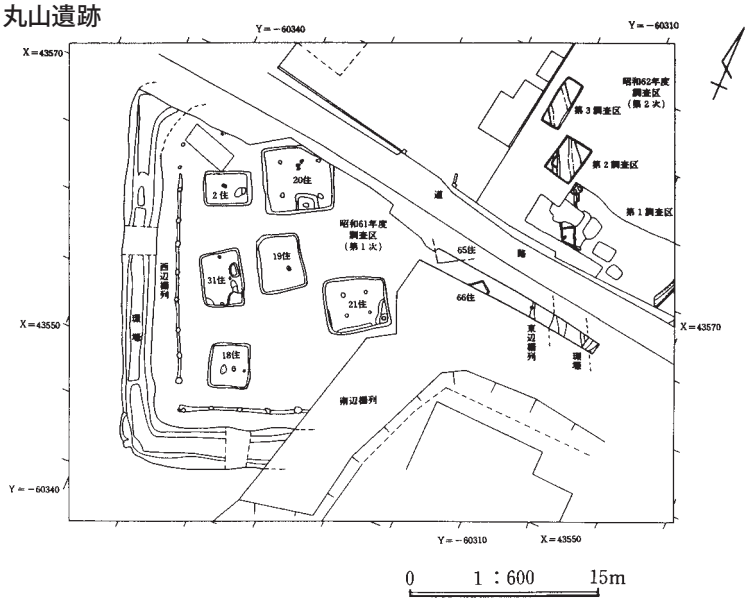


第351図　多田山東遺跡周辺の豪族居館・首長居館（1）（永井2021の図を編集）

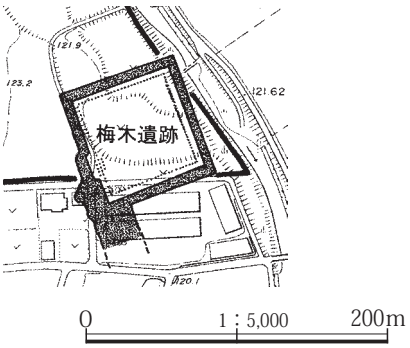
梅木遺跡



丸山遺跡

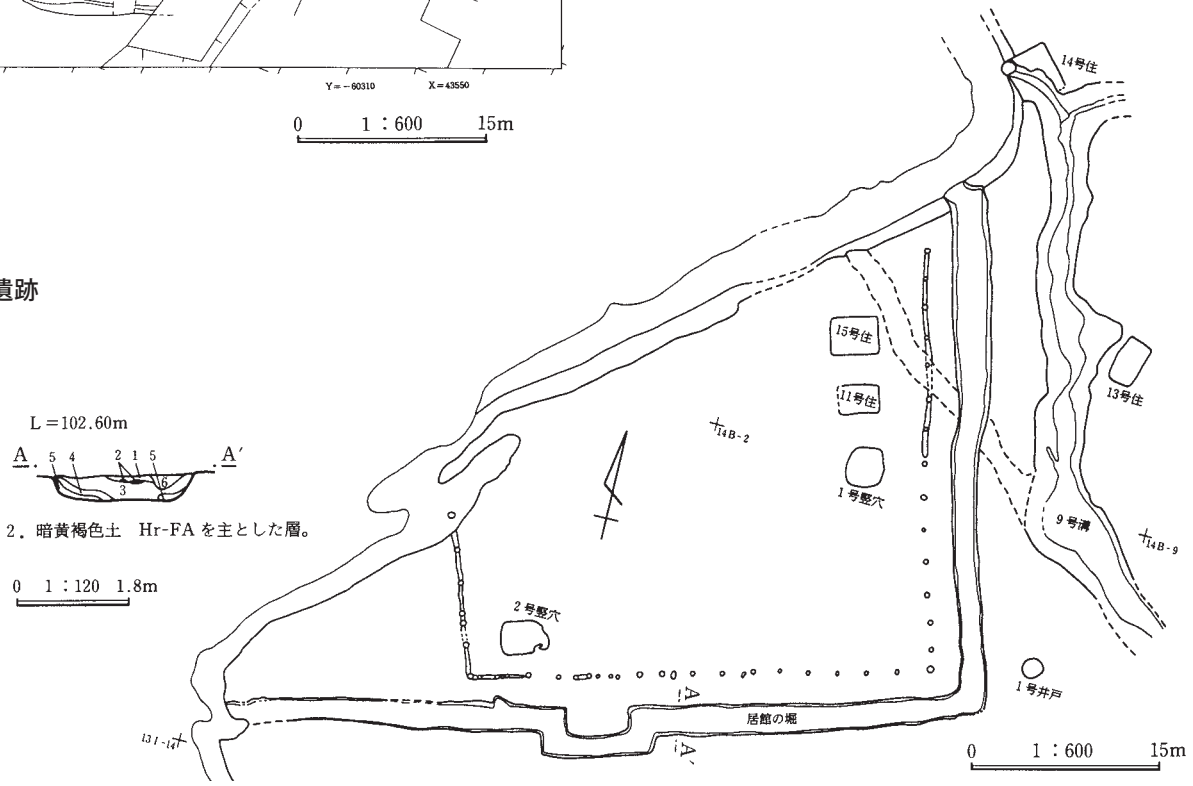


梅木遺跡全体想定図



「内堀遺跡群Ⅵ」より転載

荒砥荒子遺跡



第352図　多田山東遺跡周辺の豪族居館・首長居館（２）（中沢2000の図を編集）

形状を呈している。堀の内側3.0m～6.0mには柵が設けられている。

内部施設は検出されていない。居館の時期は堀の埋没土下位にHr-FAの一次堆積が観察できることや重複する竪穴建物が５世紀前半代のものであることから５世紀後半から６世紀初頭に比定できる。

居館内部では掘立柱建物や祭祀遺構は検出されていない。また、祭祀が行われたと想定できる遺物も内部や堀から出土していない。

なお、前述のように梅木遺跡は大室古墳群と至近距離にあり、大室古墳群の被葬者と関係する地域を掌握する豪族の居館であった可能性が高い。

荒砥荒子遺跡[注25]　遺跡は赤城山南麓が平野部に移行する付近、多田山丘陵の西側、赤城山山麓を源とする江竜川の左岸微高地上に立地するが、この地は河川による浸食が激しいところである。多田山東遺跡からは西南西へ４㎞ほどである。

居館は北側を河川による浸食で失っているが、南辺と東辺の堀、その内側に設置された柵、内部施設の竪穴建物など約1/3が検出されている。囲い状遺構・居館全体の様相は不明であるが、南北43m以上、東西59m以上の規模を有しているとみられる。

区画施設としては周囲に堀を巡らしている。南辺を区画する堀では南東角から西へ25m地点に小規模な張り出しが造られている。堀の内側2.0mに柵が設けられているが、南東角から36.5mで北へ走向を変えている。そのため、堀の内部は柵で囲繞された範囲と柵が設けられていない範囲の東と西に二分割されている。柵は一部で柱穴間が布掘り状であることから金井下新田遺跡で検出された網代垣や塀が設けられていたことが窺える。

柵で囲まれた範囲には竪穴建物２棟が存在していたとみられるが、柵で囲まれていない範囲では遺構は検出されていない。

堀からは多くの土師器が出土しており、100点近い土器が図示されている。図示されている土器の９割以上は５世紀前半代の年代観が与えられることから居館も同時期に比定される。また、出土土器の器種のうちでは高杯31点、坩10点、甑１点、手捏ね土器１点がみられ、高杯には垂下突帯付高杯(三ツ寺型高杯)[注26]が２点含まれている。こうした出土遺物の多くは東辺から南辺の張り出しにかけて多く出土しており居館南東部で祭祀が行われたことが窺える。

丸山遺跡[注27]　遺跡は赤城山南麓が平野部に移行する付近、多田山丘陵の西側、赤城山山麓を源とする荒砥川の左岸微高地上に立地する。多田山東遺跡からは西北西5.5㎞ほどである。

居館は西辺側を中心に発掘調査が行われているが、東辺側もトレンチ調査で検出している。その結果、居館の範囲は南北36.7m、東西30.5mであることが判明している。この範囲に幅2.7m前後、深さ0.8m～1.2mを測る堀が巡らされ、その内側1.0m～1.5mに柵が設けられている。

内部施設としては竪穴建物６棟が存在していたとみられる。これらの竪穴建物は火処が炉であり、出土している土器は５世紀前半の年代観が与えられる。

居館の時期は堀の上層にHr-FPやHr-FAを含む土層が堆積しており、６世紀前半代にはほぼ埋没したとみられる。内部の竪穴建物は出土土器から５世紀前半の年代観が与えられることから、居館も同様の５世紀前半代に比定できる。

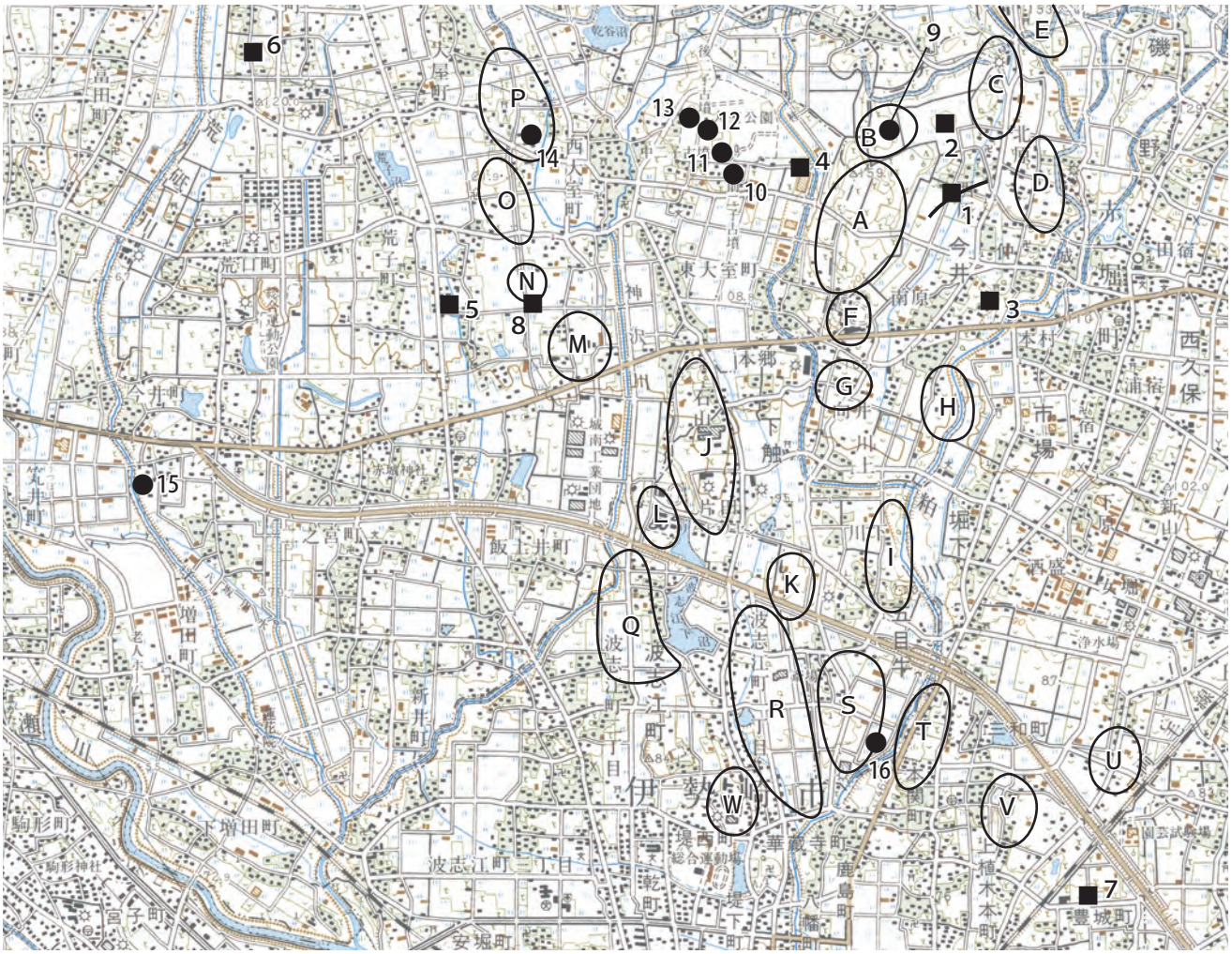
居館内部では掘立柱建物や祭祀遺構は検出されていない。また、祭祀が行われたと想定できる遺物も内部や堀から出土していない。

５．豪族居館・首長居館・囲い状遺構の比較・検討

多田山東遺跡周辺での５世紀前半から６世紀前半にかけての豪族居館・首長居館を列挙したが、毒島城跡は居館の遺構が検出されていないため、ここでは今井学校遺跡以下４遺跡を比較・検討の対象とする。梅木遺跡と荒砥荒子遺跡は隣接する河川の浸食により規模や全貌が不明である。多田山東遺跡を含めた５遺跡では今井学校遺跡の南北84m、東西90m、多田山東遺跡の南北62m、東西71m～74m、次いで梅木遺跡の東西65m、荒砥荒子遺跡の南北43m+α、東西59m+α、丸山遺跡の南北25m、東西36mであり、面積比では今井学校遺跡は丸山遺跡の８倍、多田山東遺跡と比べると1.5倍となる。囲い状遺構・居館の占有する面積の違いが階層差や財力などを表現するかは判然としないが、５世紀前半の囲い状遺構・居館に比べ６世紀代では規模が大きくなった傾向が窺える。

区画施設は多田山東遺跡を除く４遺跡とも堀と柵によって囲繞されている。堀の規模は丸子遺跡2.7m、荒砥荒子遺跡1.8m～３m、梅木遺跡４m～6.6m、今井学校遺跡5.7m～6.6mとそれぞれ異なる。さらに柵の位置も今井学校遺跡では堀の内側から6.7m、梅木遺跡３m～６m、荒砥荒子遺跡2.2m～2.4m、丸山遺跡１m～1.5mほど堀と柵の間隔がある。堀と柵の間隔からみると今井学校遺跡と梅木遺跡では堀と柵の間の間隔から土塁を設けていた可能性が窺える。また、このことは梅木遺跡の堀土層断面で内側からの土砂流入が多いことからも裏付けられる。堀と柵の間隔が狭い荒砥荒子遺跡と丸山遺跡では柵の柱穴間に布掘り状の浅い溝が確認されており、丸太だけで構築した柵ではなく、丸太に板などを取り付けて外と内とを遮蔽するための塀であった可能性が高い。

内部施設は梅木遺跡では調査範囲での掘立柱建物や竪



１.多田山東遺跡　２.毒島城跡　３.今井学校遺跡　４.梅木遺跡　５.荒砥荒子遺跡　６.丸山遺跡　７.原之城遺跡
８.西大室丸山遺跡(祭祀)　９.赤堀茶臼山古墳　10.前二子古墳　11.中二子古墳　12.後二子古墳　13.小二子古墳
14.伊勢山古墳　15.今井神社古墳　16.五目牛二子山古墳
Ａ.多田山古墳群　Ｂ.三騎堂古墳群　Ｃ.吉ヶ峯・轟山古墳群　Ｄ.北原古墳群　Ｅ.神社丘古墳群　Ｆ.田向古墳群　Ｇ.向山古墳群　Ｈ.南原古墳群　Ｉ.洞山古墳群　Ｊ.石山片田・庚塚古墳群　Ｋ.八幡林古墳群　Ｌ.牛伏古墳群　Ｍ.天神山古墳群　Ｎ.丸山古墳群　Ｏ.阿久山古墳群　Ｐ.伊勢山古墳群　Ｑ.波志江沼西古墳群　Ｒ.蟹沼東古墳群　Ｓ.地蔵山古墳群　Ｔ.関山古墳群　Ｕ.書上古墳群　Ｖ.高山古墳群　Ｗ.台所山古墳群

第353図　周辺の古墳時代中・後期遺跡の分布図(国土地理院地図５万分の１『前橋』(平成10年３月１日発行)を使用)

穴建物の検出に至っていないが、今井学校遺跡、荒砥荒子遺跡、丸山遺跡ではそれぞれ竪穴建物を複数伴っている。その中で今井学校遺跡では半島の影響を受けたカマドの構築や付随する土製品が出土している竪穴建物が検出されており朝鮮半島の影響が窺える。荒砥荒子遺跡では堀から多く祭祀に使用されたとみられる高杯を中心とした土師器が出土しており、居館内、その中でも柵で囲繞された内部で祭祀が執り行われていたことが想定される。

多田山東遺跡と周辺の居館を比較すると区画された施設があること、梅木遺跡以外では竪穴建物を併存していることなど大雑把な点が共通しているが、区画施設では多田山東遺跡に堀が設けられておらず、直接柵・塀で囲われている点が大きく異なるが、今井学校遺跡や梅木遺跡では比較的広い堀と堀の内側に土塁が想定され防御性の高い設備で囲まれている。これに対して荒砥荒子遺跡と丸山遺跡では塀とみられる柵が設けられていたとすれば多田山東遺跡の内部を遮蔽していた点では共通するが、今井学校遺跡や梅木遺跡より小規模な堀ではあるが堀の存在は大きな相違点である。

しかし、区画施設では多田山東遺跡以外の４遺跡で堀と柵を併設させているのに対して多田山東遺跡では極小規模な溝は検出されているものの基本的に柵に伴うものであり、外観では他の遺跡に比べ劣る可能性がある。しかし、内部施設では四面廂の建物が存在しており他の遺跡より優位な点もみることができ、簡単に優劣は決められない。

なお、多田山東遺跡周辺の古墳分布を概観すると律令期に多田山丘陵を境界として佐位郡と勢多郡を区分した郡域[注28]と異なり、東西は粕川から荒砥川の領域が地域首長の領域とみることができる。この領域での首長墓とみられる古墳をその規模から概観すると５世紀前半に墳長125m、長持型石棺が使用されたとみられる前方後円墳の伊勢崎市お富士山古墳[注29]、５世紀前半～中頃に赤堀茶臼山古墳[注30]、墳長71mの前方後円墳である前橋市今井神社古墳[注31]、６世紀前半から後半には大室古墳群の前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳、この３古墳は墳長93m、104m、85mの前方後円墳である。そして６世紀後半には原之城遺跡の居館の首長が埋葬されたと想定される墳長100mの前方後円墳である伊勢崎市五目牛二子山古墳[注32]がみられる。

こうした古墳の様相をみると６世紀前半代の地域首長は大室古墳群周辺に存在したと想定され、実際、大室古墳群の東に梅木遺跡が存在している。こうした状態から多田山東遺跡の囲い状遺構の居住者は大室古墳群の首長に従属する立場にあったことが想定される。

なお、多田山東遺跡囲い状遺構の居住者であるが、出土遺物には地位や権威を示すものはみられないが、囲い状遺構の区画施設が方形を呈していることや内部の掘立柱建物に四面廂建物や棟持柱建物がみられる点では農民層との階層差[注33]が窺われる。

６．まとめ

多田山東遺跡で検出した囲い状遺構は赤堀町教育委員会が発掘調査した分を含め約２分の１の範囲のため全貌解明には至らないが、囲い状遺構内部に馬小屋を設けている点は注目される。古墳時代の馬小屋については西組遺跡や黒井峯遺跡でみつかっている。さらに西組・黒井峯遺跡では一世帯と想定される農民世帯が複数みつかっており、その中には馬小屋を併設する世帯が複数ある。このうち馬小屋での馬房数が最も多いのが西組遺跡でみつかっているB-77号竪穴建物などを中心とする世帯である。ここでは大型の竪穴建物とその北西に南北36m、東西40mの範囲を不正形ではあるが垣根で囲み、その内部に複数の平地建物、円形平地建物、高床建物と馬小屋と想定されているB-93号平地建物が存在する。この馬小屋を含めた平地建物や高床建物を囲繞する垣根は完全に遮蔽するものではないようである。

こうした西組遺跡や黒井峯遺跡の馬小屋を伴う世帯と同じ馬小屋を併設する囲い状遺構では囲い状の範囲規模や囲いの構造などとともに主屋となる建物が異なる。

これは、今まで首長層が農民に馬の飼育を行わせていたとみられていたのが、小範囲を統治する首長が囲い状遺構内部に馬小屋を設け、直接飼育していたことが想定できる。こうした馬については騎乗や埴輪馬にみられる儀礼用の装飾を施す馬であった可能性が想定できる。しかし、今回の調査範囲や赤堀町教育委員会による発掘調査で馬具の出土は確認されていないことから断定までには至らない。なお、馬具については囲い状遺構の主が亡くなり、古墳に埋葬されるときに副葬されたことは容易

に想像されるが、副葬される馬具は19号掘立柱建物の馬房で飼育されていた馬全ての分ではなく、儀礼用の馬具など一部に限定され、残りの馬具は次世代の主に引き継がれていったと想定される。

多田山東遺跡の囲い状遺構では今まで発見されている囲い状遺構・居館で見られた政・祭、居住の要素以外の馬飼育の可能性が確認された。今まで馬の飼育は西組遺跡や黒井峯遺跡で検出されている家畜小屋の様相から農民による飼育だけでなく、首長の囲い状遺構で直接行っていた可能性が窺えたことは大きな成果である。

また、多田山東遺跡で検出した囲い状遺構が首長層の居住に関わる施設であるとすれば、当然死後の埋葬施設としての古墳が注目される。地域首長が埋葬された古墳については前述したとおりであるが、多田山東遺跡周辺では西の多田山丘陵上に存在する多田山古墳群、北に吉沢峯・轟山古墳群、北東に北原古墳群など多くの古墳群が存在している。そのうち、６世紀前半代に築造され70m四方を有する囲い状遺構の規模の首長が埋葬されるのに相応しい古墳は轟山古墳群や多田山古墳群で確認されている。

轟山古墳群では轟山Ａ古墳[注34]が石室の形態が無袖型横穴石室であることから６世紀前半代に築造されたとみられ、全長36mの前方後円墳で時期や規模から首長層が埋葬された古墳にふさわしいとみられる。なお、轟山Ａ号古墳の発掘調査は実施されているが詳細は不明で、多田山東遺跡の囲い状遺構からも至近距離にあり、前方後円墳である点から後述する多田山古墳群19号墳とともに埋葬地としての可能性は高い。

多田山古墳群は丘陵全体が開発により発掘調査されており22基の古墳が発掘されている。そのうち、６世紀代に比定される古墳は12基[注35]である。そのうち、馬形埴輪や馬具が出土している古墳は多田山２号墳、４号墳、６号墳、９号墳、19号墳の５基を上げることができる。これらの古墳は初期群集墳に位置付けられており、２号墳、４号墳、６号墳、９号墳の埋葬施設は竪穴式石室（石槨）や木棺、粘土床であるのに対して19号墳は無袖横穴式石室である。こうした状態から報告者は前者と後者の間では時間差があることを指摘している。

多田山東遺跡の囲い状遺構の年代を５世紀後半から６世紀初頭に比定していることからみると、多田山古墳群を埋葬地と仮定するなら19号古墳が最も適していると想定される。

以上、多田山東遺跡の囲い状遺構について検討を行ったが、今まで報告されている囲い状遺構や居館ではみることができなかった施設内での馬の飼育が想定された。このことは律令期に官衙で馬を飼育しているように地域首長のもとで、配下の首長は様々な業務を分担していたことが想定される。

多田山東遺跡の囲い状遺構については全体の発掘調査に至っていないため解明できていない点もあるが、古墳時代中期から後期前半にかけての広域を統治する首長の配下で中小規模地域を統治する首長の在り方を提示するものと考える。（神谷佳明）

注

注１　赤堀町教育委員会が３次にわたり発掘調査を行っている。その結果、古墳時代～平安時代の竪穴建物73棟、掘立柱建物２棟を検出し調査している。赤堀村教育委員会1982『多田山東遺跡発掘調査概報』、赤堀町教育委員会2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』、赤堀町教育委員会2001『町内遺跡発掘調査概報

注２　囲い状遺構の名称は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『金井下新田遺跡　古墳時代以降編』本文編１の235頁に「囲繞する網代垣および内部施設を含めた遺構群で一連の構造物として把握できるものをいう。」と定義されているもので、豪族居館、首長居館とは防御機能が乏しいなど異なる点がある施設である。多田山東遺跡でも網代垣ではないが金井下新田遺跡と同様に防御機能に乏しい垣（柱穴列）、小規模な溝で遮蔽された内部に複数の掘立柱建物と竪穴建物が併存することが確認されていることからこの遺構名称を使用している。

注３　赤堀町教育委員会2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町文化財調査報告56による。

注４　宮本長二郎1996「第５章第５節　棟持柱」『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版による。

注５　宮本長二郎1996「第５章第５節　棟持柱　屋内棟持柱」『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版による。同書184頁11表に屋内棟持柱建物遺構の一覧が掲載されており、これを引用した。

注６　Ｂ形式の棟持柱を持つ大型掘立柱建物には奈良県桜井市阿部丘陵遺跡群SB01掘立柱建物や静岡県袋井市古新田遺跡SB3-1掘立柱建物、SB3-4掘立柱建物などがあげられている。これらは豪族の邸宅や富豪農民の居住施設を構成する建物とされている。

注７　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『三ツ寺Ｉ遺跡』、２号掘立柱建物は梁行３間、桁行13間の長大な建物で、内部に５本の柱穴を有している。宮本長二郎氏はこの柱穴を棟持柱と指摘している。

注８　伊勢崎市教育委員会1987『原之城遺跡』、２号掘立柱建物は梁行４間、桁行４間の建物で、内部５号住居（竪穴建物）と重複する柱穴が棟持柱とみられる。３号掘立柱建物は梁行２間、桁行２間の身舎に梁行４間、桁行５間の廂？を持つ建物で、身舎内部のピットが棟持柱とみられる。

注９　石井克己1990「黒井峯遺跡の集落構造研究（１）―榛名火山の爆発で埋もれた西組遺跡―」『群馬考古学手帳Vol.１』群馬土器観会による。

注10　石井克己1990「Ⅶ発掘された遺構と遺物　２.昭和60～62年度発掘調査ＡⅠ・Ⅵ家畜飼いの家単位群」『黒井峯遺跡』子持村教育委員会。

注11　深沢敦仁2017「「群れる馬」の姿を追う」『海を渡って来た馬文化―黒井峯遺跡と群れる馬―』群馬県立歴史博物館などによる。

注12　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『三ツ寺Ⅰ遺跡』、２号掘立柱建物は梁行３間、桁行13間の長大な建物で、Ⅱ期西辺柵（報告書では柵列と呼称）から２ｍほどで５号柵に持たせ架けた状態で建てられている。

注13　宇都宮教育委員会2007『西下谷田遺跡―古代編Ⅰ―』、南北157m、東西85m以上を柵で区画し、その内部を南北に３分割している施設、内部には複数の掘立柱建物や大型竪穴建物が検出されている。梁行２間、桁行６間の長大な掘立柱建物SB16・17が東辺の柵から２～３ｍの位置で存在する。

注14　赤堀町教育委員会2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』群馬県佐波郡赤堀町調査報告56、本報告書487～497頁「第５章第１章２.多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要」による。

注15　後藤守一1933『上野国佐波郡赤堀村今井茶臼山古墳』帝室博物館による。

注16　後藤守一1933『上野国佐波郡赤堀村今井茶臼山古墳』帝室博物館、小笠原好彦1985「家形埴輪の配置と古墳時代の居館」『考古学研究』第31号４号　考古学研究会などによる。

注17　前橋市教育委員会1992『後二子古墳・小二子古墳』、1993『前二子古墳』、前橋市教育委員会2015『古代東国文化シンポジウム　東アジアから見た前二子記録集・資料集』による。

注18　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『多田山古墳群　今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―古墳時代編―』、深沢敦仁2004「多田山の唐三彩が語る歴史」『群馬の遺跡４　古墳時代Ⅰ古墳』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

注19　「豪族居館」という用語は三ツ寺Ⅰ遺跡の発掘調査によって広まっている。明確な定義はされていないようであるが、橋本博文氏によると「濠、柵などの外郭施設に守られ、あるいは区画された方形を基調とした平面形をもった敷地内に、大型の建物や祭祀遺構を配置し、時には内部で手工業生産活動を伴う、有力者の居住の場、兼地域支配の拠点」とされている。しかし、すべての遺構がこの定義に当てはまらないことから「首長居宅」・「首長居館」の用語が使用されているとある。橋本博文2018「古墳時代豪族居館研究総論」『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

注20　豪族居館は南北170m、東西110mの範囲を幅10～20mの濠で囲繞しており、居館の南北辺には三ツ寺Ⅰ遺跡の居館のような張り出し部が造られている。内部には複数の竪穴建物や掘立柱建物が存在し、須恵器大型高杯形器台や手捏ね土器、石製模造品などが出土しいることから祭祀が行われたことが想定されている。伊勢崎市教育委員会1987『原之城遺跡』、加部二生2018「原之城遺跡」『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会　シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

注21　橋本博文1987「古墳時代における首長層の居宅と奥津城」『考古学雑誌』第72巻４号 日本考古学会、加部二生1998「毒島遺跡」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、橋本博文他2007「毒島城遺跡発掘調査報告」『新潟大学考古学研究室調査研究所』７　新潟大学人文学部、加部二生2018「毒島遺跡」『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会　シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

注22　赤堀町教育委員会1991『平成２年度埋蔵文化財発掘調査概報』、加部二生1998「今井学校遺跡」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、新潟大学考古学研究室2008『新潟大学考古学研究室調査研究所』８　、新潟大学考古学研究室2009『新潟大学考古学研究室調査研究所』９　新潟大学人文学部新潟大学考古学研究室2010『新潟大学考古学研究室調査研究所』10　新潟大学人文学部、加部二生2018「今井学校遺跡」『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会　シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会山下工業株式会社2021『今井学校遺跡７―古墳時代後期「豪族居館と集落」・終末期古墳の調査―』伊勢崎市文化財調査報告書

注23　大塚昌彦2017「居館内大型竪穴住居の特異なカマド構造―今井学校遺跡９号住居のＬ字形カマド構造―」『利根川』39号利根川同人で刊行にて分析、考察を行っている。

注24　前橋市文化財発掘調査団1986『梅木遺跡』、前橋市教育委員会1988『内堀遺跡群』、加部二生1998「梅木遺跡」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、加部二生2018「梅木遺跡」『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会　シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

注25　加部二生1998「荒砥荒子遺跡」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、加部二生2018「荒砥荒子遺跡」『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会　シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『荒砥荒子遺跡』

注26　高杯のなかで杯部の稜から口縁部が上位に立ち上がる形態の稜に断面三角形の小凸帯が造られているもの。主に三ツ寺Ⅰ遺跡をはじめ祭祀遺構でみることができる。前原豊2020「三ツ寺型高杯について―榛名山東南麓に集中する垂下突帯高杯を探る―」『利根川』42.利根川同人会

注27　群馬県教育委員会1994『丸山・北原』、群馬県教育委員会1988『丸山・北田下・中畑・村主・中山Ｂ遺跡』、加部二生1998「丸山遺跡」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、加部二生2018「丸山遺跡」『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会　シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

注28　古代、郡郷（評里）制が施行されて以降では多田山丘陵は佐位郡に属していたと想定されている。これは多田山丘陵に築造されている終末期古墳が檜前部氏の奥津城と想定されることからである。このことは深沢敦仁2004「多田山の唐三彩が語る歴史」『群馬の遺跡４　古墳時代Ⅰ古墳』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団に詳しい。

注29　広瀬川の右岸、伊勢崎台地に立地する。周辺にはお富士山古墳群が形成されていたが現在は消滅している。

注30　注15と同じ

注31　荒砥川の左岸低台地に立地する。主体部は竪穴で組み合わせ式石棺が使われている。

注32　五目牛二子山古墳は戦後に造成され消滅しており調査が行われていないが、『上毛古墳総覧』に記録が残る。赤堀村教育委員会1977『赤堀村地蔵山の古墳１』赤堀村文化財調査報告７，白石太一郎1992「関東の後期大型前方後円墳」『国立歴史民俗博物館研究報告』第44集 国立歴史民俗博物館

注33　黒井峯遺跡や西組遺跡で見つかっている農民層の竪穴建物や平地建物を囲む垣根で構成される遺構群を石井克己氏は一世帯ととらえている。ここでは不正形の範囲を垣根で囲んでいる。

注34　群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』148頁499に轟山A号墳について全長36m、前方後円墳で主体部は袖無横穴式石室との記載、赤堀村教育委員会1986『吉沢峯古墳群発掘調査概報』赤堀村文化財報告21にも記載あり。

注35　深沢敦仁2004「結び」『多田山古墳群　今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―古墳時代編―』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によると古墳の築造は４期に区分されている。各期の年代観は明示されていないがⅠ期・Ⅱ期は６世紀代と判断できる。

参考・引用文献

阿部義平1990「宮殿と豪族居館」『古墳時代の研究』２雄山閣出版

石井克己1990「黒井峯遺跡の集落構造研究（１）―榛名火山の爆発で埋もれた西組遺跡―」『群馬考古学手帳Vol.１』群馬土器観会

大熊久貴2020「『首長居館』研究の課題と展望」『考古学集刊』第16号 明治大学文学部考古学研究室

大熊久貴2021「古墳時代『四面廂建物』の平面設計と伝播」『考古学集刊』第76号 明治大学文学部考古学研究室

小笠原好彦・阿部義平他1991「特集古代の豪族居館」『季刊考古学』第36号 雄山閣出版

加部二生・橋本博文1996「上野の前方後円墳」『第１回東北・関東前方後円墳会東北・関東における前方後円墳の編年と画期　発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

中沢悟2000「荒子・丸山・梅木遺跡の居館について」『荒砥荒子遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

永井智教2018「勢多郡と佐位郡ができる頃の赤城南麓～神沢川と桂川地域の遺跡と古墳の動向を中心に～」『大室古墳の教室　考古学講演会・講座の記録３』前橋市教育委員会

永井智教2021「第Ⅳ章総括　第１節『豪族居館』を構成する遺構群」『今井学校遺跡７―古墳時代後期「豪族居館と集落」・終末期古墳の調査―』山下工業株式会社

橋本博文1985「古墳時代首長層居宅の構造とその性格」『古代探叢Ⅱ―早稲田大学考古学会創立35周年記念論集―』早稲田大学出版部

橋本博文2007「古墳時代の首長居館からみた古代豪族居宅」『古代豪族居宅の構造と機能』独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

深沢敦仁2011「豪族居館」『季刊考古学　別冊』第17号 雄山閣出版

右島和夫監修、青柳泰介・諫早直人・菊池大樹・中野咲・深沢敦仁・丸山真人編集2019『馬の考古学』雄山閣

宮本長二郎1996『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版

樺沢真一2016「古墳時代の豪族の館」『大室古墳の教室　考古学講演会・講座の記録２』前橋市教育委員会

赤堀村教育委員会1982『多田山東遺跡発掘調査概報』赤堀村文化財調査報告７

赤堀町教育委員会1991『平成２年度埋蔵文化財発掘調査概報』

赤堀町教育委員会1998『町内遺跡発掘調査概報』群馬県佐波郡赤堀町文化財調査報告50

赤堀町教育委員会2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町文化財調査報告56

赤堀町教育委員会2001『町内遺跡発掘調査概報』群馬県佐波郡赤堀町調査報告58

伊勢崎市教育委員会1985『原之城遺跡―古墳時代の環濠跡―』

伊勢崎市教育委員会1988『原之城遺跡』

かみつけの里博物館1999『よみがえる５世紀の世界　かみつけの里博物館常設展示解説書』

かみつけの里博物館2011『第20回特別展　馬と共に生きる～馬具から見た古墳時代～』

子持村教育委員会1990『黒井峯遺跡』

群馬県教育委員会1994『丸山・北原』

群馬県教育委員会1988『丸山・北田下・中畑・村主・中山Ｂ遺跡』

群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』

群馬県立歴史博物館2017『海を渡って来た馬文化―黒井峯遺跡と群れる馬―』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『三ツ寺Ⅰ遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『荒砥荒子遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『多田山古墳群　今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―古墳時代編―』

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『金井下新田遺跡　古墳時代以降編』

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『金井下新田遺跡　古墳時代以降編　分析・論考編』

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所2012『第15回古代官衙・集落研究会報告書　四面廂建物を考える』

新潟大学考古学研究室2007『新潟大学考古学研究室調査研究所』７　新潟大学人文学部

新潟大学考古学研究室2008『新潟大学考古学研究室調査研究所』８　新潟大学人文学部

新潟大学考古学研究室2009『新潟大学考古学研究室調査研究所』９　新潟大学人文学部

新潟大学考古学研究室2010『新潟大学考古学研究室調査研究所』10　新潟大学人文学部

東北・関東前方後円墳研究会2018『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会　シンポジウム古墳と『豪族』発表要旨資料』

東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所1998『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』

前橋市文化財発掘調査団1986『梅木遺跡』

前橋市教育委員会1988『内堀遺跡群』

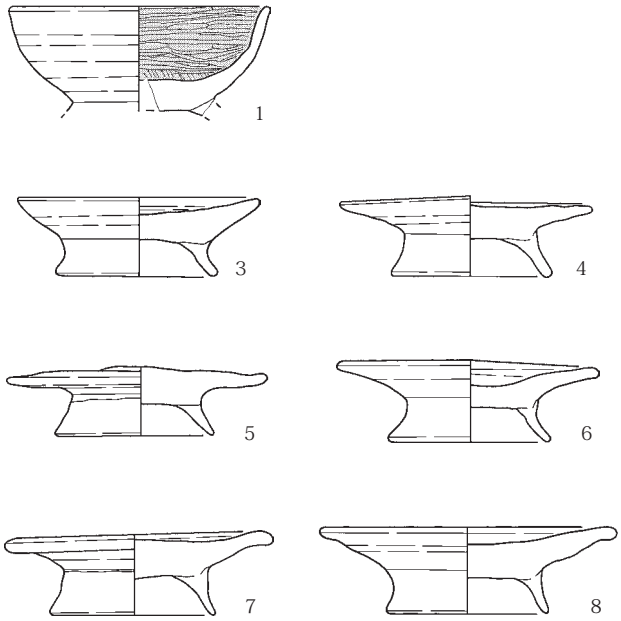
前橋市教育委員会1994『内堀遺跡群Ⅵ』

山下工業株式会社2021『今井学校遺跡７―古墳時代後期「豪族居館と集落」・終末期古墳の調査―』伊勢崎市文化財調査報告書

第３節　多田山東遺跡２号竪穴建物出土遺物について

１．はじめに

多田山東遺跡は、伊勢崎市北東部に位置する集落遺跡である。発掘調査では竪穴建物、掘立柱建物、柵、溝、土坑など多くの遺構が検出され、なかでも古墳時代中期末の首長居館とみられる囲い状遺構や掘立柱建物等は注目されている。竪穴建物は５世紀から９世紀までの時期に比定できるが、発掘調査区内では継続性は確認できていない。こうした状況の中、10世紀代の竪穴建物が皆無であるが、11世紀前半に突然２号竪穴建物が単独で構築されている。この２号竪穴建物からは、生活一般で使用される須恵器椀や鉢、甕、羽釜などの土器の他に口縁部が小径の須恵器小型有台皿が６点出土している。この土器は第12図３～８に図示したものであるが、その形態から日常の食膳具としては用途を想定することは難しい。特に内面が底面から口縁部まで平坦であることや浅いことから所謂「かわらけ」とは異なり液体を入れての使用は困難であるとみられ、１の黒色土器小型椀を載せる台や供物を載せる器として使用されたと想定することができ、非日常の器が想定できる。



第354図　多田山東遺跡２号竪穴建物出土小型椀・皿

この須恵器有台皿は大きさが口径9.2㎝～10.6㎝、底径5.2㎝～5.7㎝、高台径6.0㎝～6.2㎝、器高2.7㎝～3.3㎝とほぼ近いしい値を示す。形態は高台がややハの字に開くように貼付され、皿部の状態からＡ・Ｂの二形態に分類できるＡ形態とするのは皿底部から体部口縁部がわずかに傾きを持って立ち上がる。Ｂ形態は底部から口縁部がほぼ水平なものである。Ａ形態とするのは３・６・８，Ｂ形態とするのは４・５・７が該当する。

なお、２号竪穴建物からは小型有台皿の上に載せることが可能とみられる椀は１の黒色土器有台椀が該当する。椀は高台部が欠損しているが、比較的残存率がよい。大きさは口径10.0㎝、底径4.0㎝、椀の器高は3.2㎝である。整形はロクロ整形で内面のみ黒色処理が施され、内面は全面ヘラミガキが施されている。

こうした須恵器小型皿や黒色土器小型椀は一見すると密教法具の六器を窺わせるが、六器は本来なら金属器によって作られ、代替品も青白磁や施釉陶器であった。今回の多田山東遺跡から出土した粗製の須恵器や黒色土器によるものが代替品としてあり得るかを含め検討を行うことにした。

２．須恵器小型有台皿の類例・集落

10世紀後半、特に第４四半期から11世紀代にかけての食膳具は、それ以前より小型化が進むとともに出土量が減少傾向にある。小型化の要因については明確でないが、減少については木器の供給量増加が想定されるが、木器は集落が営まれる乾燥した場所では腐食が進み残存が難しいため断定には至っていない。また、10世紀後半から11世紀代の竪穴建物は10世紀前半に比べ減少傾向にあり、奈良時代や平安時代初期から継続する遺跡にあってもその割合は低い、さらに10世紀後半以降に新たに営まれている集落遺跡はごくわずかである。

こうした条件の中で、多田山東遺跡２号竪穴建物出土の須恵器有台皿と同様なものは極僅かしか出土例を見ることができない。今日、群馬県内でも発掘調査は各地で実施され、それに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書も約4,000冊が公表されており、すべてを網羅することは難しいため、10世紀後半以降の竪穴建物が数多く検出されている遺跡などを中心に検索した。

その結果、10世紀後半以降に新たに集落が営まれた吉岡町沼南遺跡、渋川市万蔵寺廻り遺跡や８世紀後半から新たに集落が営まれ、９世紀から10世紀かけて繁栄した吉岡町清里・陣場遺跡、吉岡町十日町遺跡、前橋市荒砥上川久保遺跡では多田山東遺跡２号竪穴建物から出土した須恵器小型有台皿の出土を確認することはできなかった。

須恵器小型有台皿の出土を確認できた集落遺跡は前橋市鳥羽遺跡と前橋市荒砥天之宮遺跡がある。

鳥羽遺跡は前橋市の西部、上野国府域の西に隣接しており、神社や大規模な鍛冶遺構が検出され官衙関連遺跡と想定されている。

須恵器小型有台皿は、Ｋ20号竪穴建物(報告では住居跡を使用、本文では住居跡、竪穴住居は竪穴建物と表記する)から１点(報告書図Fig296-2)出土している。大きさは口径8.7㎝、底径5.6㎝、器高3.0㎝と多田山東遺跡より出土したもの小型である。なお、載せたと想定できる小型有台椀は出土していない。

荒砥天之宮遺跡は前橋市の東部、赤城山南麓末端の荒砥川と宮川に挟まれた低台地に立地している。

須恵器小型有台皿は、Ｆ区12号竪穴建物、Ｆ区39号竪穴建物、Ｄ区22号土坑から出土している。

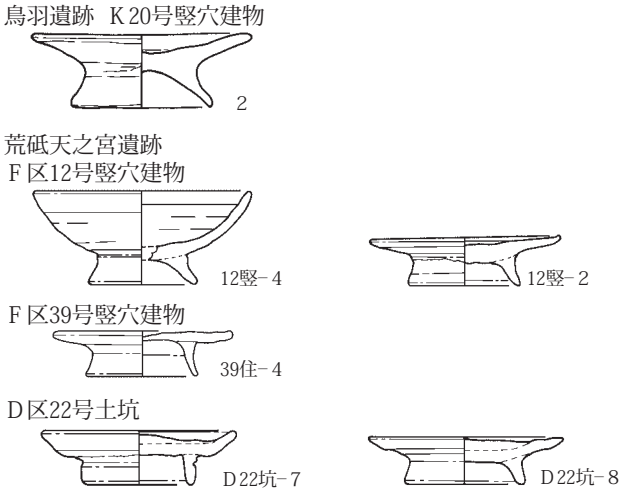
Ｆ区12号竪穴建物とＦ区39号竪穴建物からは各１点、Ｄ22号土坑からは２点が出土している。

Ｆ区12号竪穴建物の１点(報告書図237図２)の大きさは口径10.1㎝、器高2.2㎝で、底部から口縁部は僅かに情報に向けて開く。この竪穴建物からは有台皿に載せることが可能な椀(報告書図237図４)が出土している。

Ｆ区39号竪穴建物の１点(報告書図267図39住-４)の大きさは口径9.2㎝、器高2.3㎝で、底部から口縁部までほぼ水平である。

Ｄ区22号土坑の２点(報告書図292図７・８)の大きさは№７が口径10.0㎝、器高2.5㎝、№８が口径10.1、器高2.4㎝である。掲載№７は底部と口縁部の間でわずかに屈曲してやや上方に開く、№８は底部から口縁部にかけてほぼ水平である。

このように集落遺跡からの須恵器小型皿の出土例は単独または２点の出土しか確認できず、多田山東遺跡の例はやや特異な事例と言える。



第355図　集落遺跡から出土した須恵器小型皿・椀図

３．須恵器小型有台皿・椀の類例・寺院

そうしたなか、寺院跡である前橋市宇通遺跡からまとまった出土をみることができる[注1]。

宇通遺跡は赤城南麓の粕川(左岸)と大猿川間の標高670m～700mの尾根上に立地する。遺跡は12棟の礎石建物と多くの竪穴建物が検出されている。竪穴建物は９世紀後半に構築が始まるが、礎石建物は10世紀になってから構築され、12世紀には廃絶したとされている。礎石建物のなかには八角形の建物や東西方向に長い主屋に南北方向の細長い建物が付随する特殊な建物が存在する。遺跡の性格は検出した礎石建物や出土遺物から山岳寺院と想定されている。須恵器小型皿や須恵器・黒色土器小型椀の出土は礎石建物Ａ，礎石建物Ｉ、Ａ－１号竪穴建物、Ａ－２号竪穴建物、Ｆ－１号竪穴建物、平成２年度調査東尾根地区第５トレンチ１号竪穴建物からである。

礎石建物Ａは３間×３間(桁行9.76m、梁行8.1m)の建物で基壇は簡易な版築が行われている。出土遺物には小金銅女神像・経軸端、塑像片、須恵器杯・椀・羽釜・甕・把手付壺、緑釉陶器稜皿(黒笹90号窯式期)・段皿(黒笹14号窯式期か)、灰釉陶器皿・椀・小瓶・長頸壺・花瓶、鞴羽口と多くの瓦などがある。このうち、須恵器羽釜や鞴羽口は下層で確認されている鍛冶遺構に伴うものと判断されている。

須恵器小型有台皿(報告書では盤と表記)は８点(報告書図43-1741・1083・1836・184・1084・133・882・ 図49-一括17)、須恵器・黒色土器小型有台椀は７点(図43-一括３・1863・13・303・1330・1337・図49-一括13、アンダーラ

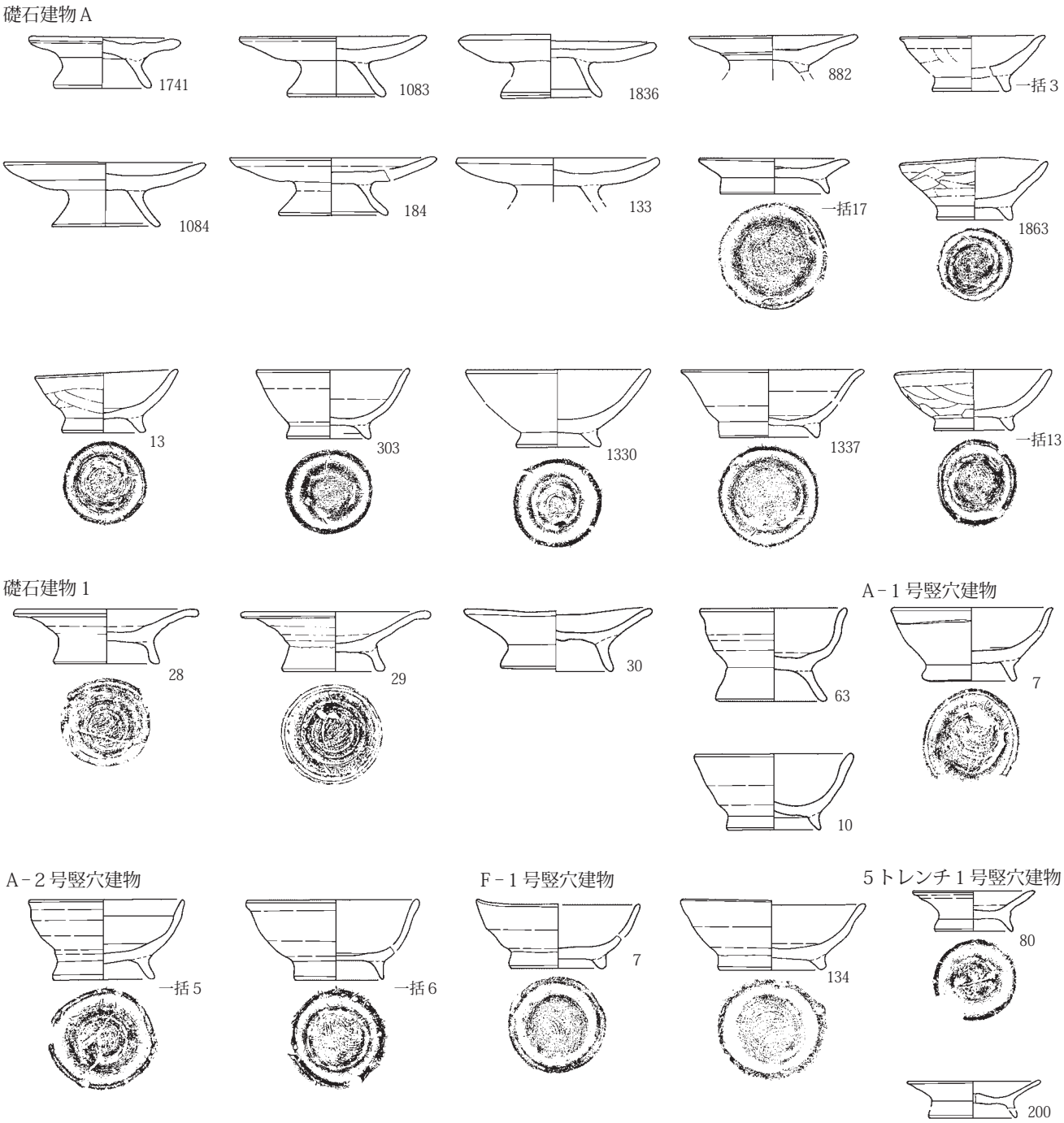
イン付は黒色土器)をみることができる。

礎石建物Ｉは５間×４間(桁行13.8m、梁行11.6m)の建物で、基壇は斜面を造成したものである。建物の周囲では雨落溝が検出され、間層を挟んで浅間Ｂ軽石の堆積が確認されている。出土遺物には須恵器皿、杯、椀、灰釉陶器椀(大原２号窯式期)、鞴羽口、釘をはじめとする金属器、瓦片などがある。

このうち、須恵器小型有台皿は３点(報告書図６-28・29・30)、須恵器小型有台椀２点(図６-10・63)をみることができる。

Ａ-１号竪穴建物は礎石建物Ａの東に隣接して検出されている。出土遺物には須恵器杯・椀・羽釜、灰釉陶器小瓶、長頸壺、緑釉陶器三足段皿(黒笹14号窯式期)、瓦、釘などがある。出土遺物は９世紀前半から11世紀前半まで幅広い年代のものが見られるが、須恵器羽釜は10世紀前半の年代観が与えられることから竪穴建物の年代もこの時期と想定できる。

須恵器小型有台椀は１点(報告書図36-７)をみること



第356図　宇通遺跡出土の小型皿・小型椀図

ができる。

Ａ－２号竪穴建物はＡ－２号竪穴建物の東で検出されている。出土遺物には須恵器杯・椀・羽釜、土師器甕、瓦などがある。出土遺物はおおむね11世紀前半にまとまりが見られることから、竪穴建物の時期も同様の年代と想定できる。

このうち、須恵器小型有台椀は２点(報告書図41-一括５・一括６)をみることができる。

Ｆ－１号竪穴建物は礎石建物Ｆの身舎に取り付く廊下状の建物が廃絶した後に構築されている。埋没土中位に浅間Ｂ軽石の堆積が確認されている。出土遺物には須恵器杯・椀、土師器甕、瓦などがある。出土遺物のうち、瓦は礎石建物Ｆに伴うものとみられるが、出土した土器類はおおむね10世紀後半から11世紀前半の年代観が与えられる。

このうち、須恵器小型有台椀は２点(報告書図55-７・134)をみることができる。

東尾根地区第５トレンチ１号竪穴建物は長辺6.5m、短辺4.6mとこの時期としてはやや大型の竪穴建物で、壁溝が南辺を除き巡る。東辺に２基のカマドが検出されているが、掘り込み粘土による構築カマドから石組カマドに変化したとされている。また、埋没土下位に浅間Ｂ軽石の堆積が確認されている。出土遺物には須恵器杯・椀・長頸壺・羽釜、土師器杯甕、瓦、金属器などがある。出土した土器類はおおむね10世紀後半から11世紀前半の年代観が与えられる。

このうち、須恵器小型有台皿は２点(報告書図70-80・200)をみることができる。

宇通遺跡から出土した須恵器小型有台皿は11点、須恵器または黒色土器小型有台椀は13点である。これらの大きさは皿が口径9.3～11.3㎝、平均10.3㎝、椀は口径9.3～11.9㎝、底径(高台径)4.8～7.0㎝、平均5.3㎝を測り、多田山東遺跡２号竪穴建物出土の須恵器小型有台皿・黒色土器小型有台椀と同様の大きさである。なお、皿の形態は口縁部が水平なＢ形態は礎石建物Ａから出土している43図1741だけでその他は口縁部がやや上方に開くＡ形態である。

４．密教法具六器について

密教法具は大きく４種類に区分されている[注2]。１として煩悩の賊を打ち滅ぼすことを象徴する金剛杵・羯磨・輪宝。２として振り鳴らし、音を発することによって諸尊を驚覚・歓喜させるとともに人間が本来持っている仏性を呼び醒ます金剛鈴など。３として身にこびりついた俗塵を焼き払うことによって、本来の清浄な心身を表し示すことを象徴とする護摩壇・護摩炉・護摩杓などの護摩具。４として供養具がある。供養具は金剛杵をもって煩悩を打ち切り、金剛鈴で人間の本来持っている仏性を呼び醒まし、護摩によって清浄な心身を保つための修法に際し、道場を浄めて荘厳し、そこに降臨する諸尊を供養するための多彩な法具。この法具に火舎・六器・花瓶・飲食器・灑水器(しゃすいき)・塗香器があり、これらの供養具に供物を盛って諸尊を供養する。

六器は高台付鋺に台皿を備えて六個を一具として使用するため「六器」と呼称されている。壇上では火舎香炉の左右両側に３個ずつ配置し、閼伽・塗香・花鬘を盛って仏や菩薩を供養するものとされている。

なお、六器の成立は平安時代後期の経塚の遺物に確認されているのが最も古いとみられ、成立もこれに近い時期と想定されている。

５．六器の土器・陶器への代替

仏具としての金属器を土器に移す行為は７世紀を前後する頃には行われている。その代表的なものとして食膳具を中心にその形態を土師器杯や須恵器杯、椀、盤などが写したものに変化している[注3]。その中で、仏具として金属器を写したものとしては８世紀代の香炉[注4]や仏鉢などが知られている。六器はその成立が平安時代後期と想定されているが、施釉陶器の中には平安時代前半には六器を彷彿させる形態や六個体ではないが複数の個体を揃えた状態での出土をみることができる。

施釉陶器の中でも緑釉陶器を密教法具の代用として使用されている例としては前川　要氏や高橋昭彦氏、大西遼氏によって指摘[注5]されている。さらに灰釉陶器については桐原　健氏によって指摘[注6]されている。

こうした施釉陶器による密教法具六器の代用の出土例は県内でも山王廃寺から出土した緑釉陶器、町田十二原遺跡、神戸宮山遺跡から出土した灰釉陶器に見ることができる。

山王廃寺

山王廃寺[注7]は前橋市総社町山王地区に所在する白鳳寺院である。六器の代用とみられる緑釉陶器は山王廃寺の寺域東南部から出土している。この方向は寺域の巽の方向にあたることから祭祀遺構と推定されている。出土状態は遺構の中央に据えた円盤状の台石の周りに小礫を配し、さらにその周囲を方形に小礫を配している。そして台石上に緑釉陶器椀３点を入れ子状に重ね、さらに銅鋺を上から重ねて伏せた状態で置き、その周囲から緑釉陶器水注１点、段皿２点、皿２点と須恵器有台椀(酸化焔焼成、報文中は椀)２点、無台椀(酸化焔焼成、報文中は坏)２点が置かれていた。このうち、緑釉陶器段皿と緑釉陶器小型椀各２点は緑釉陶器による六器の代用品として使用されていたものの一部が祭祀に転用されたことが窺える。

神戸宮山遺跡

神戸宮山遺跡[注8]は高崎市神戸町字宮山に所在する平安時代10世紀後半から11世紀前半にかけての小規模な集落遺跡である。六器の代用とみられる灰釉陶器は８号竪穴建物から出土している。この竪穴建物からは黒色土器椀、須恵器杯・椀、土師器小型甕、須恵器小型羽釜・羽釜などの日常具とともに灰釉陶器段皿３点、椀４点、小瓶、花瓶各１点が出土している。このうち、やや小型の灰釉陶器椀１点(第357図３)と段皿３点(第357図７～９)は丸石２号窯式期、やや大型の椀３点(第357図４～６)は虎渓山１号窯式期の製品である。小瓶は胴部が細くなる形態から虎渓山１号窯式期～丸石２号窯式期とみられる。花瓶は生産地での出土も少なく、変遷の推移をみることができないが、形態から10世紀以降[注9]と判断できる。

こうした灰釉陶器の出土から８号竪穴建物には在野の僧侶が居住したとみられ、仏事に際して灰釉陶器を祭祀具として使用したと想定できる。

六器の代用と使用された灰釉陶器は小型の椀、段皿、花瓶、小瓶が想定できる。

町田十二原遺跡

町田十二原遺跡[注10]は沼田市町田町字十二原・小沢に所在する集落遺跡である。発掘調査はほ場整備事業に伴って行われたため道路敷が対象範囲のため限定されているが、周辺の戸神諏訪遺跡他の成果[注11]から８世紀後半から11世紀前半にかけて開発された比較的規模の大きな集落の一角を占めている。

六器の代用とみられる灰釉陶器は16号竪穴建物から出土している。この竪穴建物からは須恵器椀や鉄鏃・鉄製紡錘車とともに灰釉陶器段皿１点、皿２点、輪花段皿１点、椀７点、小瓶１点が出土している。なお、これらの灰釉陶器は形態や椀内面口唇部に凹線が巡ることから虎渓山１号窯式期のものと判断できる。また、図示されていないが、皿や椀の小片が多数出土しているのも特徴である。

こうした灰釉陶器の出土から16号竪穴建物には戸神諏訪遺跡で検出された「宮田寺」[注12]は10世紀前半に廃絶しているが、隣接地には別な堂宇[注13]が存在していたとみられ、この寺院に帰属する僧侶が在野に居住したと想定され、日常の仏事に際して灰釉陶器を祭祀具として使用したと想定できる。

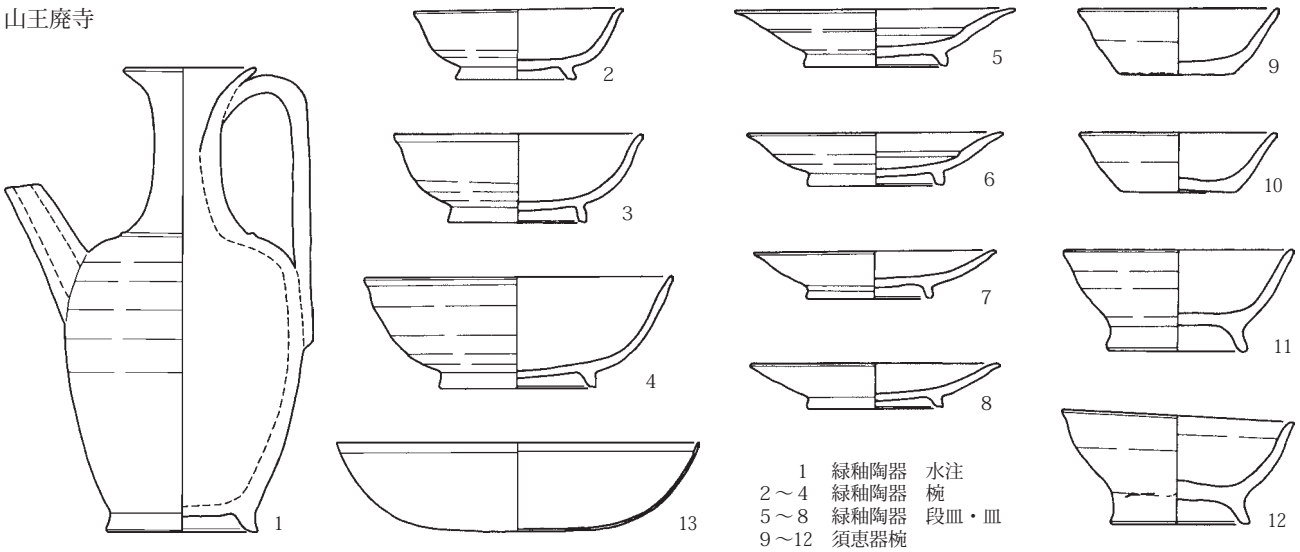
六器の代用と使用された灰釉陶器は皿・段皿(第357図９～12)、大型の深椀(第357図２・４・５・７・８)などを除く椀(第357図３・６)、小瓶(第357図１)が想定できる。

以上、３遺跡から本来金属器が使用されるべき六器に代わって緑釉陶器や灰釉陶器が使用されている例をみることができたが、これら施釉陶器は比較的金属器を写しているのと上級貴族層の関心の薄れたとはいえ以前高級食器として位置付けは変わるものではないことから、仏事に使用する六器として使用されることは納得がいくことである。

そこに多田山東遺跡２号竪穴建物や宇通遺跡から出土した一般的には雑器に近い須恵器有台皿や小型椀が六器として使用されることには疑問が生じる。

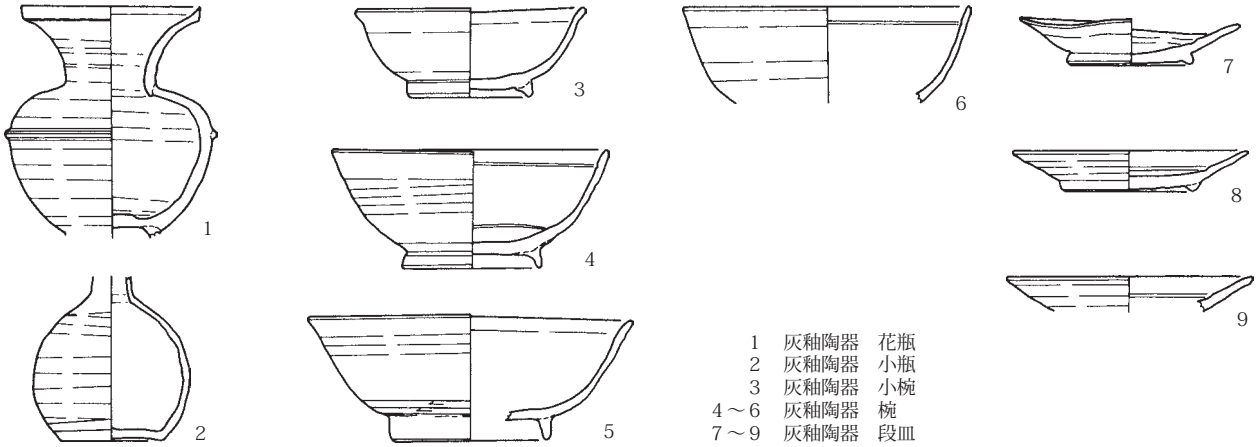
こうした、背景として想定できることは灰釉陶器の搬入量が大幅に減少することがあげられる。灰釉陶器の古代上野国への搬入は東濃古窯跡群での生産が始まる９世紀後半代の光ヶ丘１号窯式期から急激に増加し、10世紀前半代の大原２号窯式期に最も増加がみられ、その後の10世紀後半から11世紀初頭の虎渓山１号窯式期にやや減少、そして11世紀前半の丸石２号窯式には大幅に減少していることがわかっている[注14]。こうした11世紀前半代の灰釉陶器の搬入が大幅に減少は生産地での生産量の激減が大きな要因である。そのため、10世紀後半に施釉陶器が六器の代替品として入手可能であったのが困難にな

山王廃寺



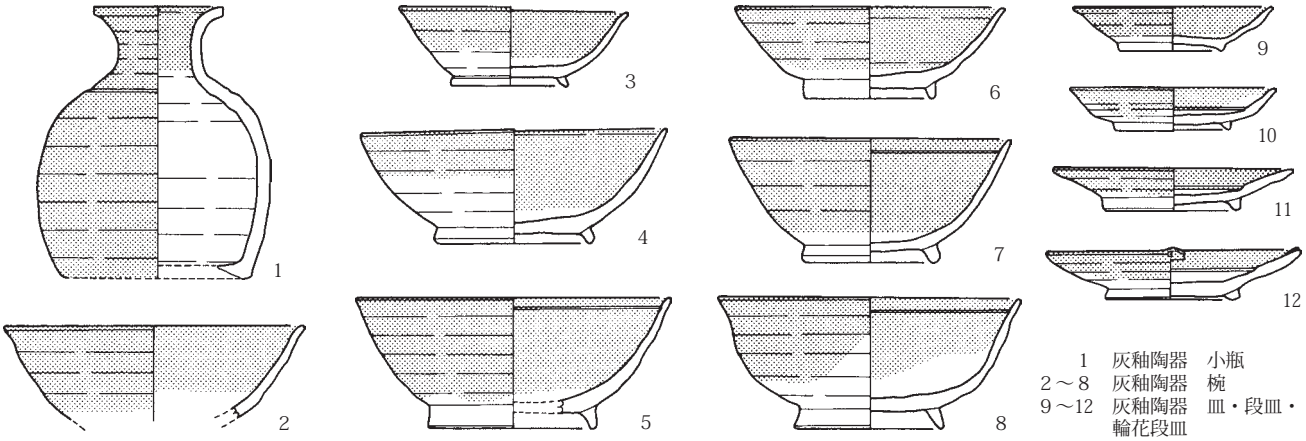
1　緑釉陶器　水注
2～4　緑釉陶器　椀
5～8　緑釉陶器　段皿・皿
9～12　須恵器椀
13　銅椀

神戸宮山遺跡



1　灰釉陶器　花瓶
2　灰釉陶器　小瓶
3　灰釉陶器　小椀
4～6　灰釉陶器　椀
7～9　灰釉陶器　段皿

町田十二原遺跡



1　灰釉陶器　小瓶
2～8　灰釉陶器　椀
9～12　灰釉陶器　皿・段皿・輪花段皿

第357図　山王廃寺・神戸宮山・町田十二原の施釉陶器の図

り須恵器に代替えを求めたとみられる。その代替えにあたっても須恵器工人に対して大きさや形態などの注文がなされ、日常食器として使用に向かない形態のものが生産されたことが窺える。

６．おわりに

以上のように多田山東遺跡２号竪穴建物から出土した須恵器有台皿、小型椀について検討を行ってきた。その結果、当初より想定していた密教法具六器の代替え品として使用されたものの一部が残存したことが窺えた。また、県内の出土状況から赤城山麓に展開した古代山岳寺院であった宇通遺跡との繋がりも想定され、宇通遺跡での寺院で修業した僧侶が在野で布教活動の拠点としてこの地に居を構えた可能性が強いとみられる。しかし、今回の多田山東遺跡や南に隣接する柳田遺跡、西に隣接する今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡[注15]では、２号竪穴建物が存在した時期の竪穴建物の存在が確認されておらず、布教する対象が存在していないことなど解決を必要とする事項もある。

今回の多田山東遺跡の事例は遺構や遺物の検出及び出土例が少なくなる11世紀代の様相を考える上では重要な調査例であり、今後さらなる調査成果が増えることでこの時期の仏事の様相や社会様相が解明されることを期待する。（神谷佳明）

注

注１　宇通遺跡については粕川村教育委員会より1985年～1991年に発掘調査が行われ、1991年に「宇通遺跡―発掘調報告書　資料編―」が刊行されている。多田山東遺跡２号竪穴建物から出土した須恵器小型皿や椀については宇通遺跡の発掘調査担当の小島純一氏より胎土、形態が近いものであるとのご教示を受けた。

注２　阪田宗彦 1989『密教法具』日本の美術№282 至文堂発行、31～75p「密教法具の種類」より引用

注３　６世紀末葉からの畿内での土器の変化については西弘海により「新たに出現した土師器杯Ｃ類や須恵器台付椀の形態から明らかなように、六世紀末葉、朝鮮三国の仏教文化の一要素としてわが国に将来された、佐波理鋺を主とする金属製容器の直接的模倣によって成立したものであった。」（西弘海 1986『土器様式の成立とその背景』真陽社）とされている。この機内での土器変化は７世紀中頃には東国の土器にも影響を与え、それ以前の須恵器杯模倣から畿内の金属製容器模倣土器を写した形態に変化をみせている。

注４　神奈川県横浜市東耕地遺跡から土師器香炉が出土している。出土した遺構は８世紀後半の竪穴建物でこれに共伴するものとみられている。また、香炉蓋には「岡本寺」と墨書されており、香炉はこの岡本寺にかかわるものと想定されている。

注５　前川要 1987「平安時代における東海系緑釉陶器について」『中近世土器の基礎研究』Ⅲ 日本中近世土器研究会刊行、高橋照彦 1994「近江産緑釉陶器をめぐる諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集国立歴史民俗博物館刊行にて指摘、代表例として静岡県修善寺町修善寺裏山で発見された一括遺物に金銅製独鈷杵、香炉、花瓶とともに緑釉陶器輪花椀と段皿含まれていた。修善寺裏山については望月董弘 1981「伊豆修善寺発見の密教法具」『三浦古文化』第26号に報告されている。最近では、大西遼 2022「平安のやきもの400年のうつろい」『平安のやきもの―その姿、うつろいゆく―』愛知県陶磁美術館刊行でも平安前期に大いに発展した緑釉・灰釉陶器は平安時代中期以降、量産による粗製化や平安京の上級貴族層の関心の薄れから器形や装飾の豊富さを失っていった。・・・中略・・・一方で、祭祀や儀礼などでは不可欠な器として、施釉陶器需要対象や形を変えて継続していった。例えば平安時代前期に空海や最長によってもたらされた密教の祭祀において緑釉陶器が使用されることがあったと指摘されている。

注６　桐原健 1976「土壙出土の緑釉陶器の性格」『信濃』第38巻９号 信濃史学会のなかで長野県内の出土例や『永久五年祈雨日記』などの史料をもとに指摘している。

注７　山王廃寺については1976～1980「山王廃寺第２次～第７次調査報告概報」前橋市教育委員会、2007『山王廃寺-平成18年度調査報告書』・2009『山王廃寺-平成19年度調査報告書』・2010『山王廃寺-平成20年度調査報告書』・2012『山王廃寺-平成22年度調査報告書』などの概報、報告書が刊行されている。

注８　神戸宮山遺跡については北陸新幹線建設に伴って発掘調査が行われ、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000『高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸岩下遺跡』として刊行されている。

注９　灰釉陶器花瓶の出土例は少なく、年代観を与えるのは難しいが、奈良県薬師寺西僧房出土の９世紀後半代に比定されている花瓶に比べ、胴部が短くなることから10世紀代の年代観が与えられる。

注10　調査報告は沼田市教育委員会 1993『沼田北部地区遺跡群Ⅱ（町田十二原遺跡）』として刊行されている。発掘調査の成果では54棟の竪穴建物が検出され、縄文時代や古墳時代の竪穴建物も検出されているが、ほとんどが９世紀から10世紀の竪穴建物である。

注11　関越自動車道に伴う戸神諏訪遺跡、石墨遺跡の発掘調査以降、隣接地の工業団地造成、周辺のほ場整備事業などで広範囲に多くの遺跡が発掘調査されている。

注12　関越自動車道と工業団地造成に伴う戸神諏訪遺跡で区画溝に囲まれた中に堂宇とみられる掘立柱建物と複数の掘立柱建物が検出され、「宮田寺」、「造佛」などと墨書された土器や鴟尾が載った瓦葺期の建物を線刻した紡錘車が出土しており、寺院名が判明している数少ない古代寺院である。

注13　戸神諏訪遺跡では「南院」と墨書された須恵器椀も出土しており、別院が存在した可能性も窺える。

注14　竪穴建物が10世紀後半から11世紀前半に最盛期を迎える万蔵寺廻り遺跡や沼南遺跡では丸石２号窯式期の製品が多く出土しているが、古代上野国全体的では虎渓山１号窯式期の製品の３割以下に減少していることが筆者の今までの出土灰釉陶器の分析からわかっている。1998「下東西清水上遺跡出土の施釉陶器について」『下東西清水上遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、1999「出土施釉陶器について」

『下芝五反田遺跡―奈良平安時代以降編―』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団他。

注15　柳田遺跡は古墳時代を主体とした集落、現在、整理が進められている。今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡では古代の遺構は７世紀から９世紀にかけての竪穴建物、炭窯、製鉄関連の竪形炉・精錬鍛冶遺構、火葬墓が調査され 2005『今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―歴史時代編―』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団として報告されている。なお、今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡が立地する多田山丘陵の西側には11世紀の集落である荒砥上川久保遺跡が存在している。

引用文献

愛知県陶磁美術館 2022『平安のやきもの―その姿、うつろいゆく―』

磯部武男 2006「密教法具「六器」をめぐる問題」『考古学の諸相Ⅱ』坂詰秀一先生古希記念会編

梅沢重昭 2012「前橋市総社町山王出土の緑釉陶器と共伴遺物」『山王廃寺～平成22年度調査報告～』前橋市教育委員会

大西遼 2022「平安のやきもの400年のうつろい」『平安のやきもの―その姿、うつろいゆく―』愛知県陶磁美術館

桐原健 1976「土壙出土の緑釉陶器の性格」『信濃』第38巻９号 信濃史学会

考古学から古代を考える会 2000『古代仏教系遺物・関東―考古学の新たなる開拓をめざして―』

古代の土器研究会 1994「東国の施釉陶器」『古代の土器研究―律令的土器様式の西・東３施釉陶器―』古代の土器研究会

阪田宗彦 1989『密教法具』日本の美術№282 至文堂

高橋照彦 1994「近江産緑釉陶器をめぐる諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集 国立歴史民俗博物館

斎藤孝正 2000『越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器』日本の美術６ №409 至文堂

帝京大学山梨文化財研究所・山梨県考古学協会 2003『遺跡の中のカミ・ホトケ　資料集』

西弘海 1986『土器様式の成立とその背景』真陽社

前川要 1987「平安時代における東海系緑釉陶器について」『中近世土器の基礎研究』Ⅲ 日本中近世土器研究会

三浦京子 1993「『宮田寺』について」『戸神諏訪Ⅲ遺跡』沼田市教育委員会

横浜市歴史博物館 2008『古代のムラの神と・仏』

神谷佳明 1998「下東西清水上遺跡出土の施釉陶器について」『下東西清水上遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

神谷佳明 1999「出土施釉陶器について」『下芝五反田遺跡―奈良平安時代以降編―』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

神谷佳明 2001「緑釉陶器にみる古代上野国」『研究紀要』19号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

神谷佳明 2021「施釉陶器」『米山遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

神谷佳明 2022「糸井宮ノ前遺跡出土の灰釉陶器について」『糸井宮ノ前遺跡』昭和村教育委員会

粕川村教育委員会 1991『宇通遺跡』

神奈川県立埋蔵文化財センター 1989『東耕地遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981『清里・陣場遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982『荒砥上川久保遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988『荒砥天之宮遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988『鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ区』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990『戸神諏訪遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999『沼南遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000『高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸岩下遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―歴史時代編―』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011『阿久津遺跡・万蔵寺廻り遺跡・桑原田遺跡・十二廻り遺跡・中町遺跡・半田常法院遺跡』

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013『十日町遺跡・住遺跡・千代開南遺跡・千代開北遺跡・舞台遺跡』

奈良文化財研究所 1987『薬師寺発掘調査報告書』

沼田市教育委員会 1990『町田小沢遺跡』

沼田市教育委員会 1992『沼田北部地区遺跡群１：戸神諏訪II遺跡』

沼田市教育委員会 1993『沼田北部地区遺跡群２：町田十二原遺跡』

沼田市教育委員会 1993『戸神諏訪３遺跡』

前橋市教育委員会 2007『山王廃寺-平成18年度調査報告書』

前橋市教育委員会 2009『山王廃寺-平成19年度調査報告書』

前橋市教育委員会 2010『山王廃寺-平成20年度調査報告書』

前橋市教育委員会 2012『山王廃寺-平成22年度調査報告書』

２号竪穴建物から出土した須恵器有台Ⅲ、小型椀

第４節　古墳時代以降の集落の変遷

多田山東遺跡において確認された古墳時代以降の竪穴建物と囲い状遺構について、調査区ごと、時期ごとの分布に着目し、集落の変遷について検討する。なお、縄文時代前期の67号竪穴建物が検出されているが、ここでは記述の対象からはずした。

１．集落の概要

１区で調査した竪穴建物は20棟で、時期は古墳時代から平安時代である。調査区のほぼ全域で確認されたが、古墳時代の建物は７棟で、調査区西側北寄りの範囲に集中している。７棟のうち６棟は全て６世紀代の建物であるが、１棟のみ３世紀末～４世紀初頭と考えられる建物があり、完形に近い弥生土器も出土した。奈良・平安時代の建物は広い範囲に分布しているが、13棟のうち８棟は調査区の中央よりやや北側に集中している。８世紀～９世紀前半の建物がほとんどであるが、11世紀前半の建物を１棟確認した。規模には幅があり、最大は一辺６ｍ余りの正方形、最小は一辺が３ｍ未満の長方形である。

２区で調査した古墳時代から平安時代までの竪穴建物は46棟で、調査区のほぼ全域で確認された。古墳時代の建物の大半は、１区同様に調査区の西側に位置しており、６世紀後半の建物が多い。奈良・平安時代の建物は広範囲に分布しているが、調査区の南側に特に多く、８世紀後半の建物が目立っている。規模や形状は１区同様に、一辺が７ｍ程の正方形の建物から、短軸が３ｍに満たない小規模な長方形の建物まで様々である。

２区北～３区の北西部にわたる範囲で、コの字状に並ぶ溝と柱穴列、その内部の掘立柱建物２棟で構成される囲い状遺構が確認された。５世紀後半～６世紀初頭の遺構と考えられる。

２区北から５区において調査した竪穴建物は３棟である。全て２区北と３区に位置しており、４区・５区では検出されなかった。時期は３区西側の１棟が６世紀後半で、同調査区東側の１棟と２区北の１棟は８世紀代である。規模はいずれも一辺４ｍ前後の小規模な建物である。

本遺跡の竪穴建物は囲い状遺構周辺以南の範囲に分布し、２区南西部に最も多く見られる。大型の建物が存在するのもその周辺である。

２．集落の変遷

本遺跡の１区～３区で確認した竪穴建物と囲い状遺構の時期について、Ⅰ期～Ⅵ期に別けてまとめたのが第43表、時期ごとの遺構の位置を色分けして示したのが第358～360図である。

本遺跡で確認されたⅠ期の建物は、３世紀末～４世紀初頭の10号竪穴建物に限られているが、10号竪穴建物の南方40ｍでは３世紀末～４世紀初頭の方形周溝墓が確認されている。本遺跡周辺地域に、この時期の集落が存在していた可能性がある。その後、古墳時代後期のⅡ期に入ると、２区北と３区、さらにその西側の調査区外へと続く囲い状遺構が出現し、この時期から徐々に建物の数が増加していき、奈良時代のⅣ期にかけて最多となる。しかし、平安時代のⅤ期、更にⅥ期へと時期が進むにつれて、その数は急激に減少していき、12世紀以降の建物は確認されなかった。

この竪穴建物の分布状況について考えてみると、囲い状遺構の構築された５世紀後半～６世紀初頭という時期は、集落の形成において大きな転機であったということが言えそうである。囲い状遺構の構築以降と考えられるⅡ期の建物は、１区の北西部と２区の南西部で５棟が確認されている。５棟の内、２棟（44号・59号竪穴建物）は囲い状遺構とほぼ同時期の建物で、他の３棟（７号・33号・52号竪穴建物）はその後に建てられた建物である。59号竪穴建物は本遺跡最大の建物と考えられ、その付近に点在する他の４棟は中～小規模で、５棟の規模は様々である。その後、Ⅲ期に入ると一気に建物の数が増加しているが、その多くはⅡ期の５棟付近で、その範囲が建物の密集する地域となっている。数棟の建物は、やや離れた地点に位置しているが、いずれも小規模な建物で、大規

第43表　時期別竪穴建物集計表

時期		1区	2区	2区北	3区	計
Ⅰ	4世紀以前	1				1
Ⅱ	5世紀後半～6世紀前半	1	4	※囲い状遺構		5
Ⅲ	6世紀後半～7世紀後半	5	17		1	23
Ⅳ	7世紀末-8世紀後半	8	20	1	1	30
Ⅴ	8世紀末～9世紀	4	4			8
Ⅵ	10世紀～11世紀	1	1			2
計		20	46	1	2	69

（棟）

模な建物はその密集する範囲内にある。

Ⅱ期からⅢ期にかけては、建物の規模の違いだけでなく、竈の作りや出土遺物、作業の痕跡など、特徴のある建物も見られるようになっている。建物を使用した人物や、その使用の仕方も様々であったと考えられる。また、西側が調査区外にある建物が数多くあり、本遺跡の西側にも集落が続いていたと考えられる。その集落の範囲は不明であるが、150m程西に位置する昭和56年度赤堀村教育委員会調査の多田山東遺跡でも同時期と考えられる建物が多数確認されており、その範囲を含めた大集落の存在も想起される。少なくとも、５世紀後半から７世紀後半にかけて、２区の南西部及びその西側にあたるこの地域で集落が成立していたと考えられる。囲い状遺構の出現以降、このように集落が継続していったと考えると、囲い状遺構の存在はこの地域にとって特別な意味を持ち、その後、様々な立場の人々がこの地に集住したと考えられる。

一方、本遺跡西の多田山丘陵に位置する多田山古墳群には、この時期に多くの古墳が築造されている。これらの古墳の築造との関りは明らかではないが、西方の丘陵に古墳が築造されていく姿を、集落に住む多くの人々が目の当たりにしていたことが想起される。前節において神谷が仮定したように、囲い状遺構の居住者の埋葬地が多田山古墳群内にあるとすれば、集落内の多くの人々が直接その築造に関わっていたとも考えられる。上記のように特徴のある建物が見られるようになっていることから、この時期に古墳の築造に関わる作業が行われていた可能性もあると考える。

Ⅳ期に入り、遺跡内の建物の数は更に増加するが、その様相は変わっていく。２区南西部に集中していた建物が、１区の北側から２区の中央よりやや北の範囲まで、ほぼ全域に広がっている。また、規模は中～小規模の建物が多く、比較的規模の大きい建物は１区北側の東寄りの地点で確認した３棟のみである。集落の範囲が東方へと広がり、その中心は１区の北側あるいは、その南東方向へと移動した可能性がある。５世紀後半から続いてきた２区南西部周辺を中心にした集落の形成に、何らかの変化が起こったことが伺われる。そして、Ⅴ期、Ⅵ期へと時期が進むにつれて、集落がさらに南側に移動していくことで、建物の数が急激に減少していったと考えられる。

Ⅴ期以降の急激な建物の減少は、自然災害との関係も考えられる。西暦818年（弘仁９年）に群馬県・埼玉県を中心とした関東地方に大地震が起こっている。この地震によるものと考えられる地割れや噴砂の痕跡が本遺跡周辺の多くの地域で確認されており、本遺跡68号竪穴建物でもこの時期に起こった可能性のある地割れを検出している。この地震と集落の関係については、本遺跡の周辺地域を含む各地において、９世紀前半に急激に竪穴建物の棟数が減少し、９世紀後半には再び増加[注1]している状況が明らかになっている。本遺跡においては、９世紀後半以降に再び増加する状況は見られないが、この地震がその後の集落の形成に大きく影響したと考えることもできる。

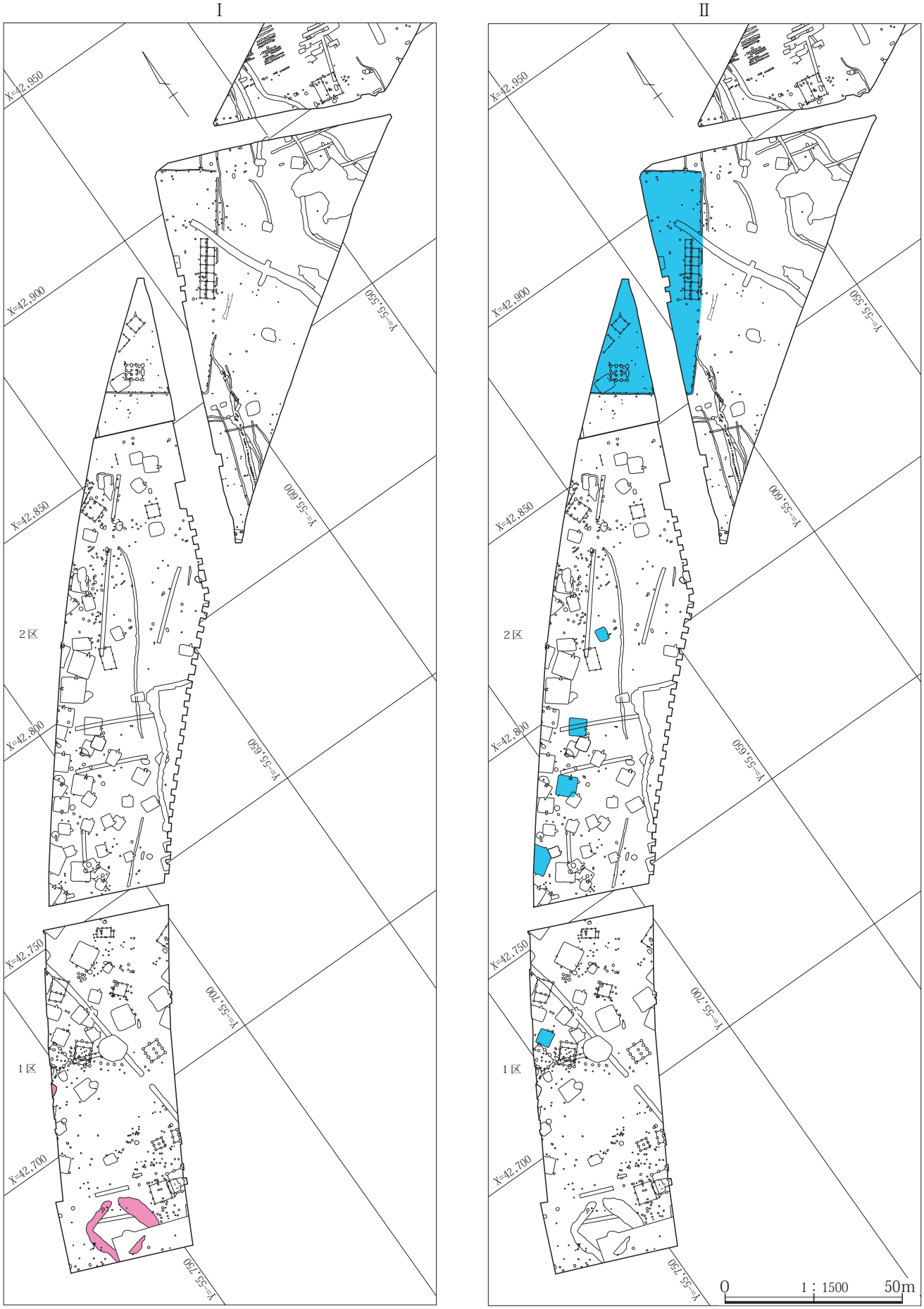
このように本調査は、赤城山南麓、多田山丘陵東側の集落の形成を考える上で貴重な資料となった。今後更に調査成果が増えることで、本遺跡を含む周辺地域の様相がより明らかになることを期待する。（山中　豊）

注

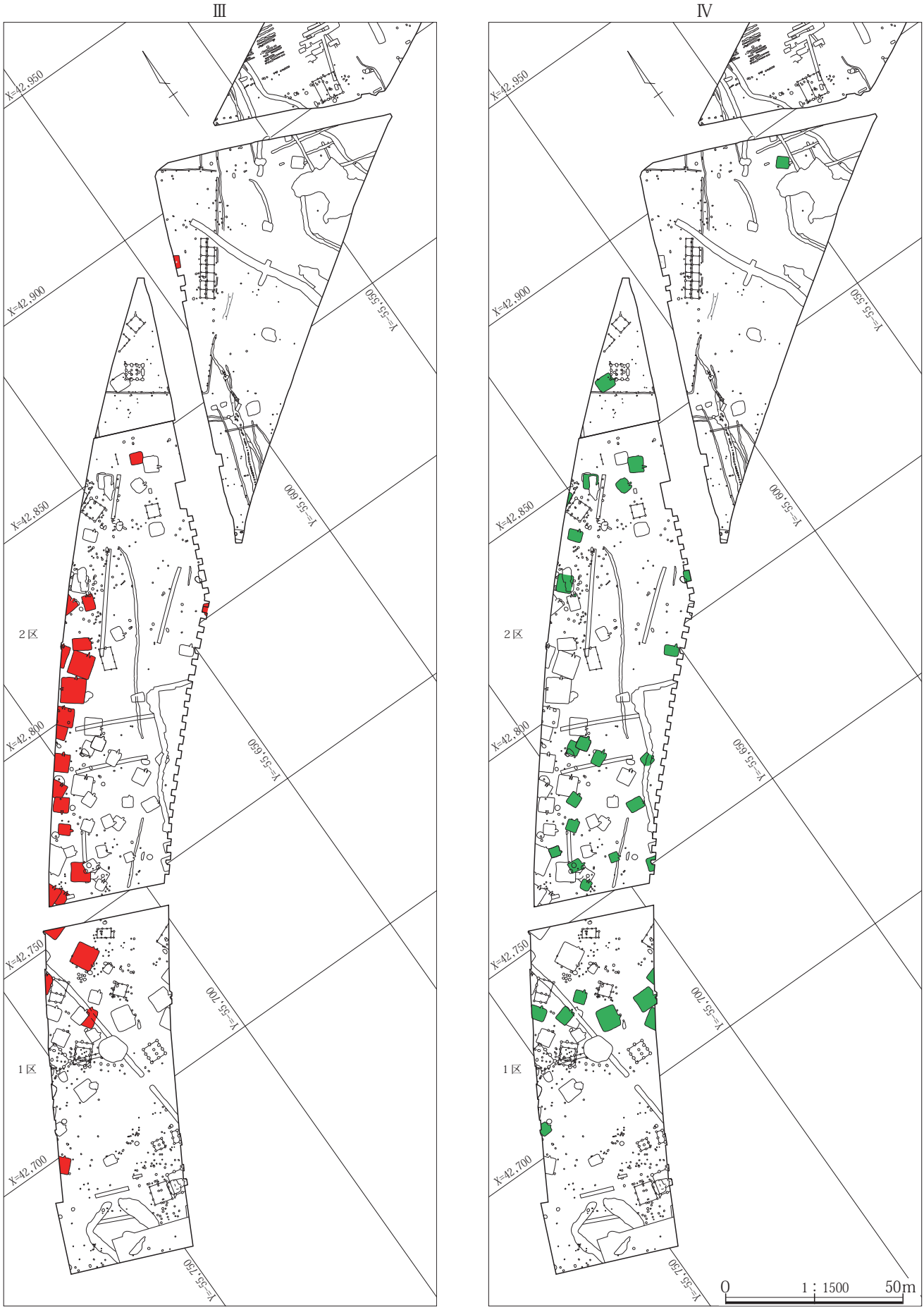
注１　桜岡正信氏が下記文献の中で、荒砥地域、国府・国分寺周辺、渋川市周辺、尾島・堺地域を集計したグラフと共に芳賀東部団地遺跡（前橋市）の例を挙げ、「９世紀前半に突如として竪穴住居棟数が減少し、９世紀後半には再び増加しているのである」と論じている。

参考・引用文献

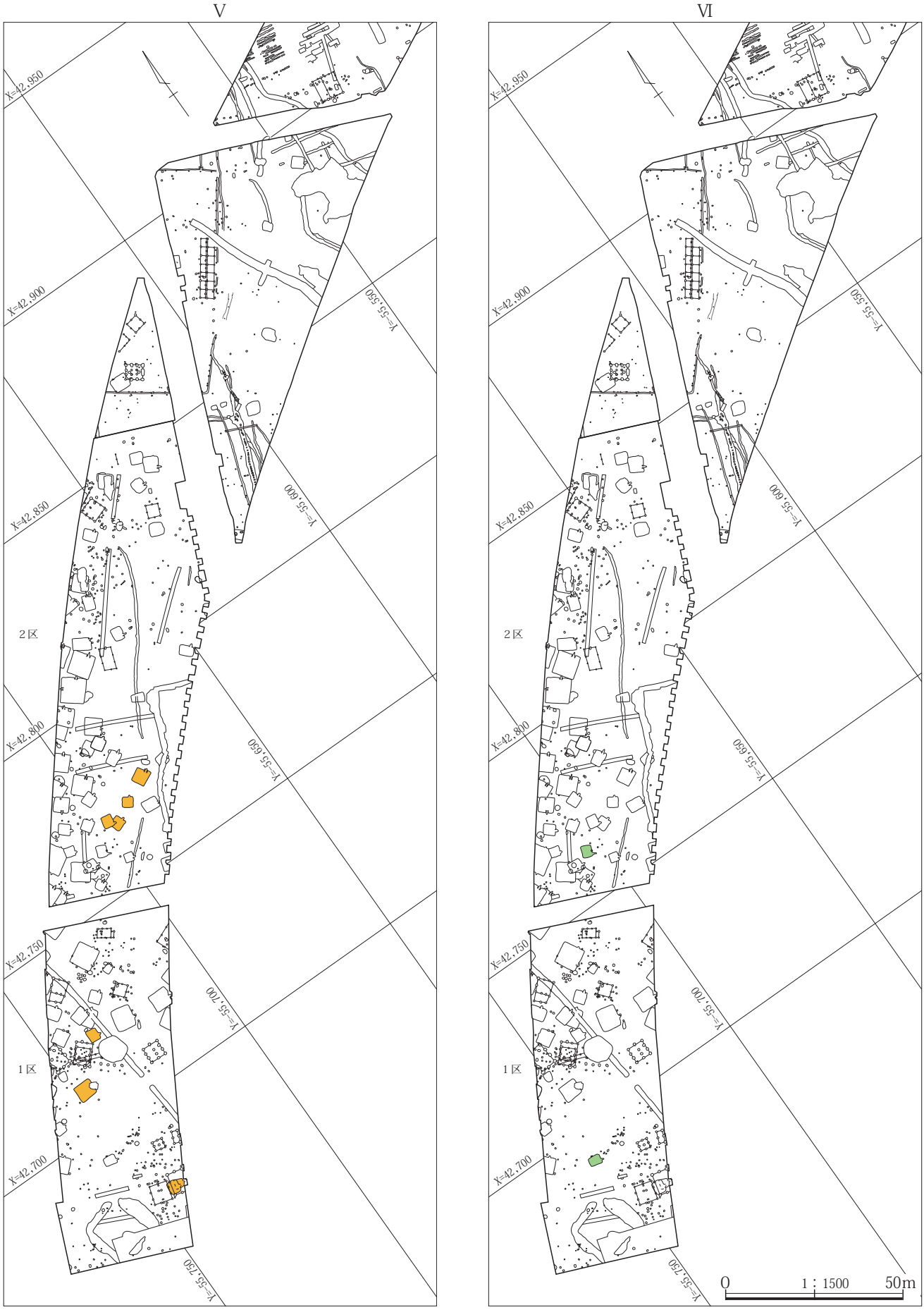
赤堀村教育委員会　1982『多田山東遺跡発掘調査概報』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2004『多田山古墳群』
桜岡正信　2013「弘仁の大地震・赤城山麓の地震災害」
『自然災害と考古学』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



第358図　時期別竪穴建物・囲い状遺構分布図（１）



第359図　時期別竪穴建物・囲い状遺構分布図（２）



第360図　時期別竪穴建物・囲い状遺構分布図（３）

写 真 図 版

1区

1．1区調査区全景（上が西）

2．1号竪穴建物全景（南西から）

3．1号竪穴建物土層断面（北東から）

4．1号竪穴建物竈（南西から）

5．1号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）

1．２号竪穴建物全景(西から)

2．２号竪穴建物土層断面(東から)

3．２号竪穴建物遺物出土状況(西から)

4．２号竪穴建物遺物出土状況(西から)

5．２号竪穴建物遺物出土状況(西から)

6．２号竪穴建物竈(西から)

7．３号竪穴建物全景(西から)

8．３号竪穴建物竈(西から)

1．４号竪穴建物全景(西から)

2．４号竪穴建物土層断面(西から)

3．４号竪穴建物竈(西から)

4．５号竪穴建物全景(西から)

5．５号竪穴建物土層断面(南から)

6．５号竪穴建物遺物出土状況(南から)

7．５号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

8．５号竪穴建物竈(西から)

1．６号竪穴建物全景（西から）

2．６号竪穴建物土層断面（南から）

3．６号竪穴建物貯蔵穴付近土層断面（西から）

4．６号竪穴建物粘土・遺物出土状況（西から）

5．７号竪穴建物全景（南西から）

6．７号竪穴建物土層断面（北西から）

7．７号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

8．７号竪穴建物遺物出土状況（南から）

1．７号竪穴建物竈(南西から)

2．７号竪穴建物旧竈土層断面(東から)

3．８号竪穴建物全景(西から)

4．８号竪穴建物土層断面(西から)

5．８号竪穴建物竈(西から)

6．８号竪穴建物貯蔵穴(西から)

7．８号竪穴建物Ｐ１(西から)

8．９号竪穴建物全景(南西から)

1．９号竪穴建物掘方全景（南西から）

2．９号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

3．９号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）

4．10号竪穴建物全景（北東から）

5．10号竪穴建物掘方全景（北東から）

6．10号竪穴建物土層断面（東から）

7．10号竪穴建物遺物出土状況（北東から）

8．10号竪穴建物遺物出土状況（南東から）

1．11号竪穴建物全景(北西から)

2．12号竪穴建物全景(北西から)

3．12号竪穴建物遺物出土状況(西から)

4．12号竪穴建物遺物出土状況(北西から)

5．12号竪穴建物竈(西から)

6．13号竪穴建物全景(西から)

7．13号竪穴建物遺物出土状況(西から)

8．13号竪穴建物竈(西から)

1．13号竪穴建物旧竈土層断面(西から)

2．14号竪穴建物全景(西から)

3．14号竪穴建物竈(西から)

4．14号竪穴建物Ｐ２(北西から)

5．15号竪穴建物全景(西から)

6．15号竪穴建物掘方全景(西から)

7．15号竪穴建物竈(西から)

8．15号竪穴建物貯蔵穴(西から)

1．15号竪穴建物遺物出土状況(西から)

2．15号竪穴建物Ｐ４(南西から)

3．16号竪穴建物全景(南西から)

4．16号竪穴建物土層断面(北西から)

5．16号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

6．16号竪穴建物竈(南西から)

7．16号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)

8．17号竪穴建物全景(北から)

1．17号竪穴建物掘方全景（北から）

2．17号竪穴建物遺物炭化材出土状況（西から）

3．17号竪穴建物鎌出土状況（南から）

4．18号竪穴建物全景（南西から）

5．18号竪穴建物土層断面（南西から）

6．18号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

7．18号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）

8．18号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況（東から）

1．18号竪穴建物貯蔵穴(西から)

2．18号竪穴建物Ｐ１(南から)

3．18号竪穴建物Ｐ４(南から)

4．19号竪穴建物全景(南西から)

5．19号竪穴建物竈(南西から)

6．19号竪穴建物竈掘方(南西から)

7．19号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)

8．19号竪穴建物貯蔵穴(西から)

1．20号竪穴建物全景(西から)

2．20号竪穴建物遺物出土状況(西から)

3．20号竪穴建物遺物出土状況(北から)

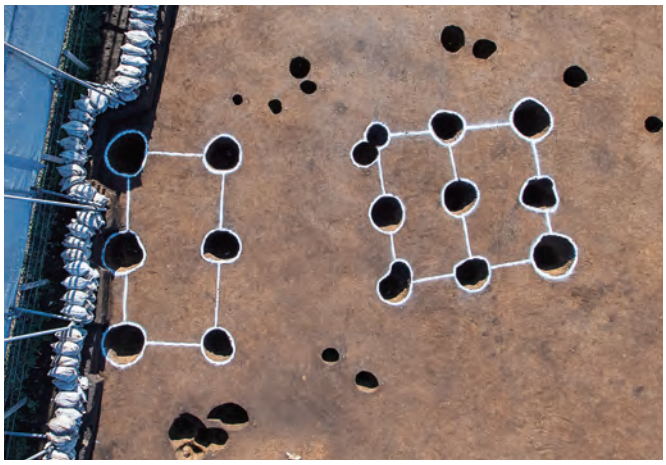
4．１号竪穴状遺構全景(北から)

5．１号竪穴状遺構土層断面(北西から)

6．２号竪穴状遺構全景(北東から)

7．３号竪穴状遺構全景(東から)

8．４号竪穴状遺構全景(南西から)



1．１号・２号掘立柱建物全景(上が南)

2．１号掘立柱建物全景(西から)

3．１号掘立柱建物Ｐ７(西から)

4．１号掘立柱建物Ｐ８(西から)

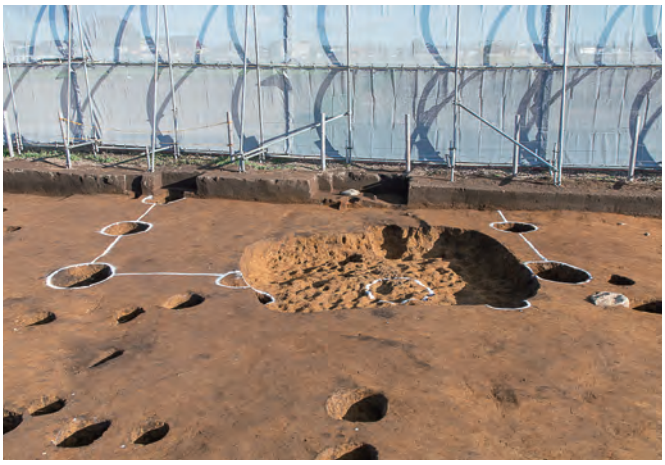
5．２号掘立柱建物全景(西から)

6．２号掘立柱建物Ｐ１(南西から)

7．２号掘立柱建物Ｐ４(南西から)

8．２号掘立柱建物Ｐ６(西から)

1．３号・４号掘立柱建物全景(上が南)



2．３号掘立柱建物全景(西から)

3．３号掘立柱建物Ｐ１(北西から)

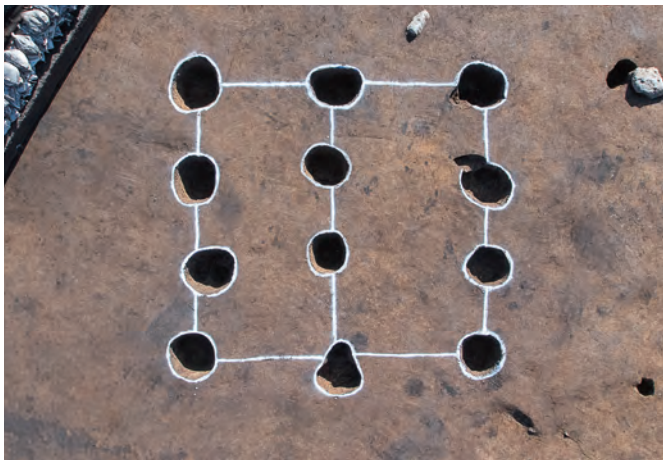
4．３号掘立柱建物Ｐ６(南から)

5．４号掘立柱建物全景(北から)

6．４号掘立柱建物Ｐ１(南から)

7．４号掘立柱建物Ｐ５(西から)

8．４号掘立柱建物Ｐ10（南西から）



1．５号掘立柱建物全景（上が南）

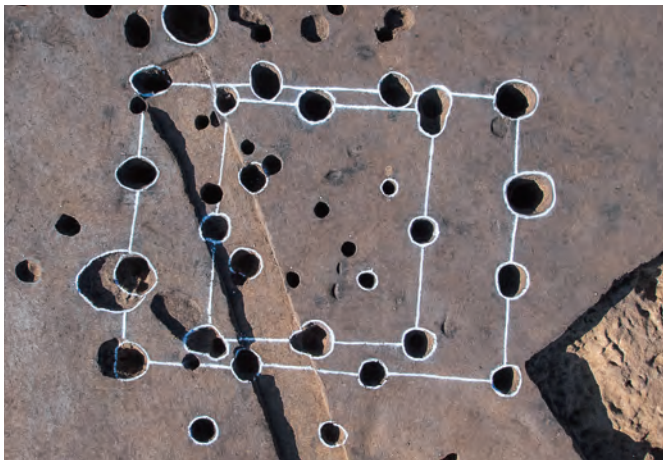
2．５号掘立柱建物柱痕掘削状況全景（北西から）

3．５号掘立柱建物Ｐ３土層断面（西から）

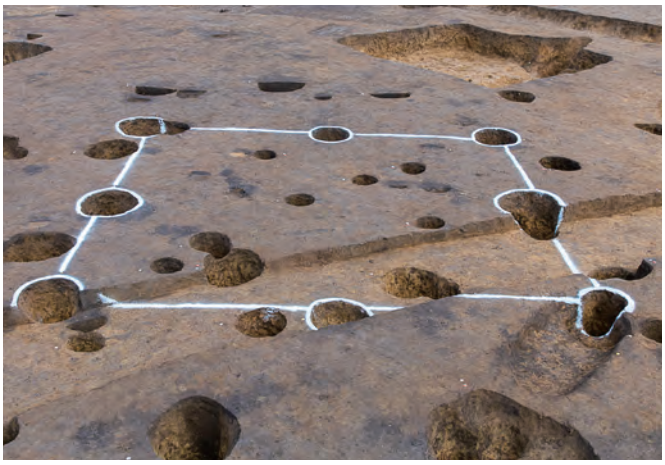
4．５号掘立柱建物Ｐ８土層断面（西から）

5．５号掘立柱建物Ｐ８掘削状況（西から）

6．５号掘立柱建物Ｐ11土層断面（西から）



7．６号・７号掘立柱建物全景（上が北西）



8．６号掘立柱建物全景（南西から）

1．６号掘立柱建物Ｐ１（南西から）

2．６号掘立柱建物Ｐ５（南西から）

3．７号掘立柱建物全景（南東から）

4．７号掘立柱建物Ｐ１（南から）

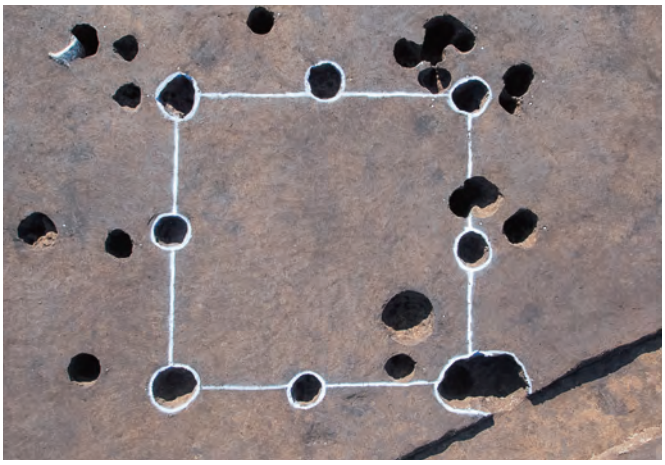
5．７号掘立柱建物Ｐ11遺物出土状況（南から）

6．８号掘立柱建物全景（上が東）

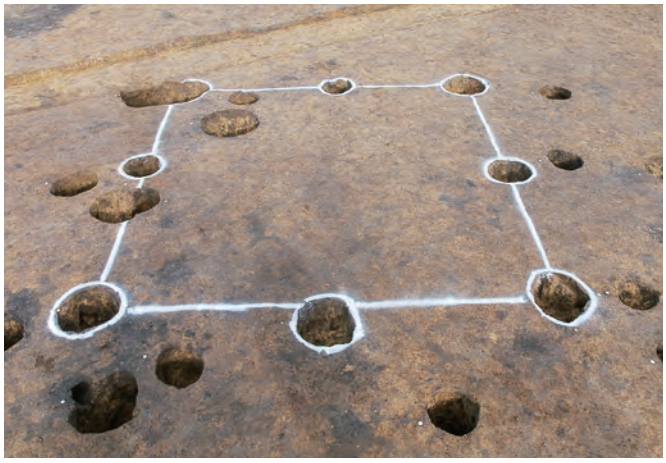
7．８号掘立柱建物全景（南から）

8．８号掘立柱建物Ｐ３（南東から）

1．８号掘立柱建物Ｐ４（南から）

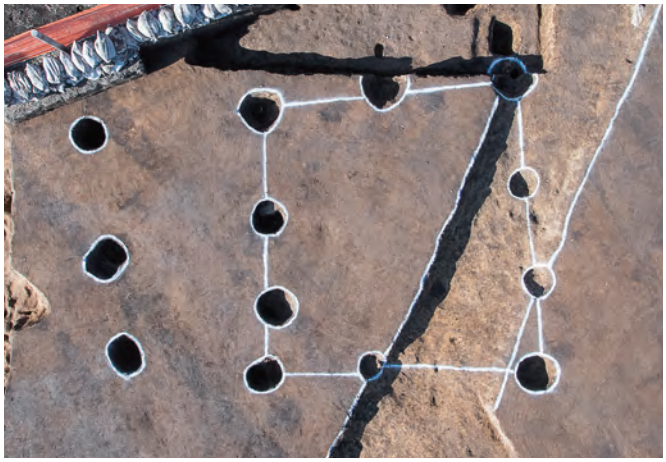


2．９号掘立柱建物全景（上が南西）



3．９号掘立柱建物全景（南西から）

4．９号掘立柱建物Ｐ５（南西から）

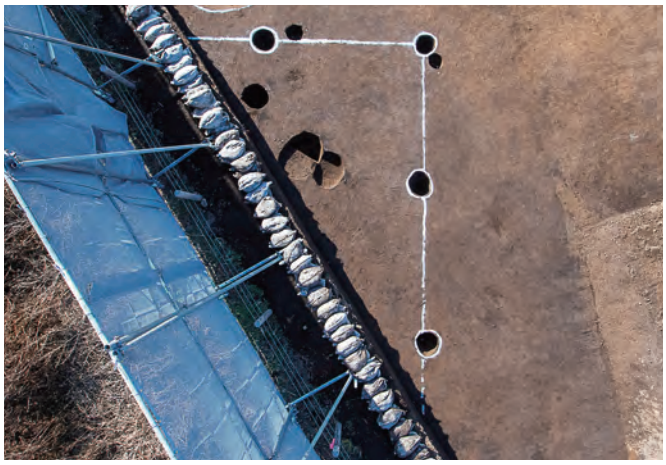


5．10号掘立柱建物全景（上が北西）

6．10号掘立柱建物全景（南東から）

7．10号掘立柱建物Ｐ８（南西から）

8．10号掘立柱建物Ｐ９（南西から）

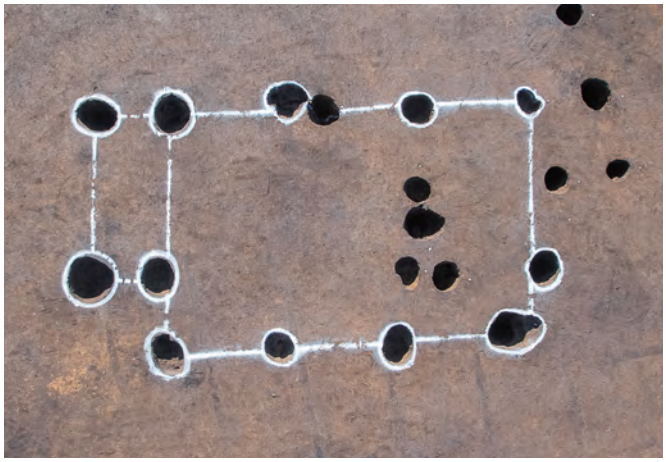


1．11号掘立柱建物全景(上が南西)

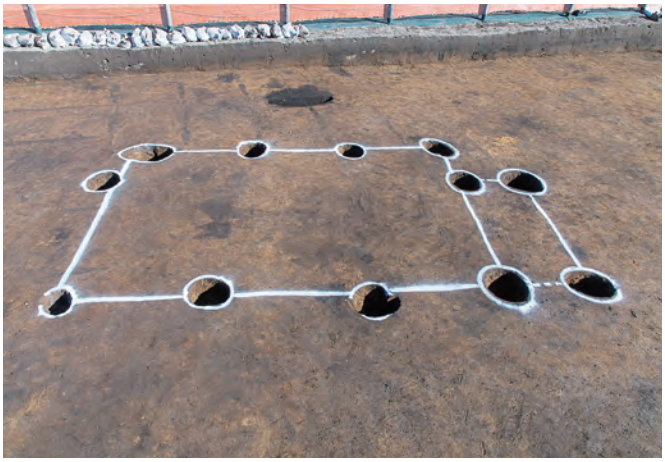
2．11号掘立柱建物全景(北から)

3．11号掘立柱建物Ｐ１(南西から)

4．11号掘立柱建物Ｐ４(南西から)



5．12号掘立柱建物全景(上が南西)



6．12号掘立柱建物全景(南西から)

7．12号掘立柱建物Ｐ７(北西から)

8．12号掘立柱建物Ｐ８(北東から)

1．１号方形周溝墓全景(北東から)

2．１号方形周溝墓全景(上が西)

3．１号方形周溝墓土層断面Ａ－Ａ′（南から）

4．１号方形周溝墓土層断面Ｂ－Ｂ′（西から）

5．１号方形周溝墓土層断面Ｃ－Ｃ′（南から）

1．１号方形周溝墓土層断面Ｄ－Ｄ′（西から）

2．１号方形周溝墓遺物出土状況（南から）

3．１号方形周溝墓遺物出土状況（南西から）

4．１号方形周溝墓遺物出土状況（北西から）

5．１号方形周溝墓遺物出土状況（南から）

6．１号方形周溝墓遺物出土状況（西から）

7．１号方形周溝墓遺物出土状況（西から）

8．１号方形周溝墓作業風景（南から）

1．１号溝全景(上が北)

2．１号溝全景(北から)

3．１号溝土層断面Ａ－Ａ′（南から）

4．１号溝土層断面Ｂ－Ｂ′（南から）

5．１号溝土層断面Ｃ－Ｃ′（南から）

6．１号溝土層断面Ｄ－Ｄ′（南から）

1．１号土坑全景(南東から)

2．２号土坑全景(南から)

3．３号土坑全景(南から)

4．６号土坑土層断面(東から)

5．７号土坑全景(南から)

6．８号土坑全景(南西から)

7．９号土坑全景(北から)

8．９号土坑土層断面(南から)

9．10号土坑全景(北から)

10．11号土坑土層断面(南東から)

11．12号土坑全景(南から)

12．13号土坑・７号掘立柱Ｐ５全景(南東から)

13．14号土坑土層断面(南東から)

14．15号土坑全景(南西から)

15．16号土坑・９号掘立柱Ｐ７全景(南西から)

1．17号土坑全景(西から)

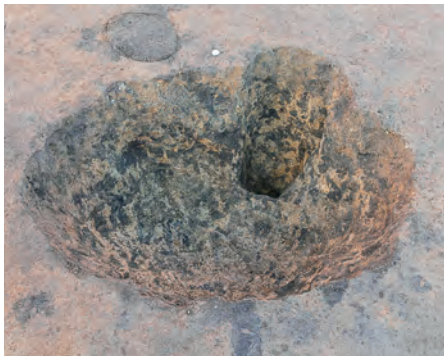
2．17号土坑土層断面(西から)

3．18号土坑全景(西から)

4．19号土坑全景(北西から)

5．20号土坑遺物出土状況(南東から)

6．20号土坑全景(南東から)



7．21号土坑・347号ピット全景(南から)

8．22号土坑全景(北西から)

9．22号土坑土層断面(南から)

10．97号ピット全景(南から)

11．278号ピット遺物出土状況(南から)

12．256号ピット全景(南から)

13．293号ピット全景(南から)

14．299号ピット全景(南から)

１．２区調査区北東側全景（上が西）

２．２区調査区南西側全景（上が北西）

１．21号竪穴建物全景（北西から）

２．21号竪穴建物遺物出土状況（北西から）

３．21号竪穴建物竈（北西から）

４．21号竪穴建物竈遺物出土状況（北西から）

５．21号竪穴建物旧竈土層断面（北西から）

６．22号竪穴建物全景（北西から）

７．22号竪穴建物遺物出土状況（北西から）

８．22号竪穴建物竈（北西から）

1．22号竪穴建物竈土層断面(北西から)

2．22号竪穴建物竈・貯蔵穴遺物出土状況(北西から)

3．23号竪穴建物全景(西から)

4．23号竪穴建物土層断面(北から)

5．23号竪穴建物遺物・礫出土状況(西から)

6．23号竪穴建物竈(西から)

7．24号竪穴建物全景(南西から)

8．24号竪穴建物土層断面(南西から)

１．24号竪穴建物遺物出土状況（西から）

２．24号竪穴建物竈（南西から）

３．25号竪穴建物全景（北西から）

４．26号竪穴建物全景（南東から）

５．27号竪穴建物全景（南から）

６．27号竪穴建物土層断面（東から）

７．27号竪穴建物遺物出土状況（南から）

８．27号竪穴建物竈土層断面（東から）

１．28号竪穴建物全景（西から）

２．28号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

３．28号竪穴建物竈（西から）

４．29号竪穴建物全景（南西から）

５．29号竪穴建物土層断面（西から）

６．29号竪穴建物竈（南西から）

７．29号竪穴建物Ｐ３（南西から）

８．29号竪穴建物Ｐ４（南西から）

１．30号竪穴建物全景（北西から）

２．30号竪穴建物竈（西から）

３．31号竪穴建物全景（南から）

４．31号竪穴建物土層断面（南東から）

５．31号竪穴建物竈土層断面（南から）

６．31号竪穴建物貯蔵穴（南西から）

７．32号竪穴建物全景（南西から）

８．32号竪穴建物土層断面（南東から）

1．33号竪穴建物全景(西から)

2．33号竪穴建物遺物・礫出土状況(西から)

3．33号竪穴建物竈土層断面(南から)

4．34号竪穴建物全景(北西から)

5．34号竪穴建物遺物出土状況(北西から)

6．35号竪穴建物全景(南西から)

7．35号竪穴建物遺物出土状況(北西から)

8．35号竪穴建物竈遺物出土状況(南東から)

１．36号竪穴建物全景（北西から）

２．37号竪穴建物全景（西から）

３．37号竪穴建物竈土層断面（南から）

４．38号竪穴建物全景（西から）

５．38号竪穴建物竈土層断面（南から）

６．39号竪穴建物全景（西から）

７．40号竪穴建物全景（南西から）

８．40号竪穴建物土層断面（南西から）

１．41号竪穴建物全景（南東から）

２．41号竪穴建物掘方全景（南東から）

３．41号竪穴建物遺物出土状況（南東から）

４．41号竪穴建物遺物出土状況（南東から）

５．41号竪穴建物遺物出土状況（南東から）

６．41号竪穴建物１号竈土層断面（南から）

７．41号竪穴建物２号竈全景（南東から）

８．41号竪穴建物貯蔵穴（南西から）

１．41号竪穴建物Ｐ１（南西から）

２．41号竪穴建物Ｐ２（南東から）

３．41号竪穴建物Ｐ３（南東から）

４．41号竪穴建物Ｐ４（南東から）

５．42号竪穴建物全景（南西から）

６．42号竪穴建物土層断面（南から）

７．42号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）

８．42号竪穴建物Ｐ２遺物出土状況（南西から）

1．43号竪穴建物全景(南西から)

2．43号竪穴建物土層断面(南東から)

3．44号竪穴建物全景(北西から)

4．44号竪穴建物遺物出土状況(北西から)

5．44号竪穴建物竈(北西から)

6．44号竪穴建物１号貯蔵穴土層断面(北西から)

7．44号竪穴建物２号貯蔵穴土層断面(北西から)

8．45号竪穴建物全景(南西から)

１．45号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

２．45号竪穴建物竈（南西から）

３．46号竪穴建物全景（南西から）

４．46号竪穴建物竈土層断面（南東から）

５．47号竪穴建物全景（南西から）

６．47号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

７．47号竪穴建物竈焚口前土層断面（南から）

８．47号竪穴建物貯蔵穴（南西から）

1．48号竪穴建物全景(南西から)

2．48号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

3．48号竪穴建物竈(南西から)

4．48号竪穴建物竈石組み状況(南西から)

5．49号竪穴建物全景(北東から)

6．49号竪穴建物掘方全景(北東から)

7．49号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

8．49号竪穴建物竈(北東から)

１．50号竪穴建物全景（南西から）

２．50号竪穴建物掘方全景（南西から）

３．50号竪穴建物竈（南西から）

４．50号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況（南西から）

５．51号竪穴建物全景（西から）

６．51号竪穴建物掘方全景（西から）

７．51号竪穴建物遺物出土状況（西から）

８．51号竪穴建物竈（西から）

1．52号竪穴建物全景(南西から)

2．52号竪穴建物掘方全景(南西から)

3．52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)

4．52号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

5．52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)

6．52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)

7．52号竪穴建物竈(南西から)

8．52号竪穴建物竈袖石周辺確認状況(南西から)

１．52号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）

２．52号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）

３．52号竪穴建物貯蔵穴（南西から）

４．52号竪穴建物Ｐ１（南西から）

５．53号竪穴建物全景（南西から）

６．53号竪穴建物土層断面（南西から）

７．53号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

８．53号竪穴建物竈（南西から）

1．54号竪穴建物全景(北西から)

2．54号竪穴建物土層断面(南東から)

3．54号竪穴建物掘方全景(北西から)

4．54号竪穴建物竈(北西から)

5．55号竪穴建物全景(南西から)

6．55号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

7．55号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

8．55号竪穴建物竈(南西から)

１．56号竪穴建物全景(西から)

２．56号竪穴建物掘方全景(西から)

３．56号竪穴建物遺物出土状況(北から)

４．56号竪穴建物竈(西から)

５．57号竪穴建物全景(南西から)

６．57号竪穴建物掘方全景(南西から)

７．57号竪穴建物竈(南西から)

８．58号竪穴建物全景(北西から)

1．58号竪穴建物遺物出土状況(北西から)

2．58号竪穴建物遺物出土状況(北西から)

3．58号竪穴建物竈(北西から)

4．58号竪穴建物竈遺物出土状況(北西から)

5．59号竪穴建物全景(南西から)

6．59号竪穴建物遺物出土状況(東から)

7．59号竪穴建物遺物出土状況(東から)

8．59号竪穴建物１号竈(北東から)

１．59号竪穴建物２号竈（南西から）

２．59号竪穴建物１号貯蔵穴（北から）

３．59号竪穴建物２号貯蔵穴（南西から）

４．59号竪穴建物Ｐ１（西から）

５．60号竪穴建物全景（南西から）

６．60号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

７．60号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

８．60号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

1．60号竪穴建物遺物出土状況(南から)

2．60号竪穴建物竈(南西から)

3．60号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)

4．60号竪穴建物貯蔵穴(南西から)

5．61号竪穴建物全景(南西から)

6．61号竪穴建物遺物出土状況(南西から)

7．61号竪穴建物遺物出土状況(南から)

8．61号竪穴建物竈(南西から)

１．62号竪穴建物全景（西から）

２．62号竪穴建物土層断面（東から）

３．62号竪穴建物遺物出土状況（北から）

４．62号竪穴建物竈（西から）

５．63号竪穴建物全景（南西から）

６．63号竪穴建物掘方全景（南西から）

７．63号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

８．63号竪穴建物遺物・炭化材出土状況（南西から）

１．63号竪穴建物竈(南西から)

２．63号竪穴建物Ｐ１(北西から)

３．64号竪穴建物全景(北西から)

４．64号竪穴建物竈遺物出土状況(北西から)

５．65号竪穴建物全景(西から)

６．65号竪穴建物土層断面(南から)

７．65号竪穴建物遺物出土状況(西から)

８．65号竪穴建物竈(西から)

１．66号竪穴建物全景（南西から）

２．66号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

３．66号竪穴建物遺物・礫出土状況（南西から）

４．66号竪穴建物竈（南西から）

５．66号竪穴建物竈土層断面（東から）

６．67号竪穴建物全景（南から）

７．67号竪穴建物土層断面（南から）

８．67号竪穴建物Ｐ２（南から）

１．67号竪穴建物炉土層断面（南から）

２．67号竪穴建物遺物出土状況（南から）

３．67号竪穴建物遺物出土状況（東から）

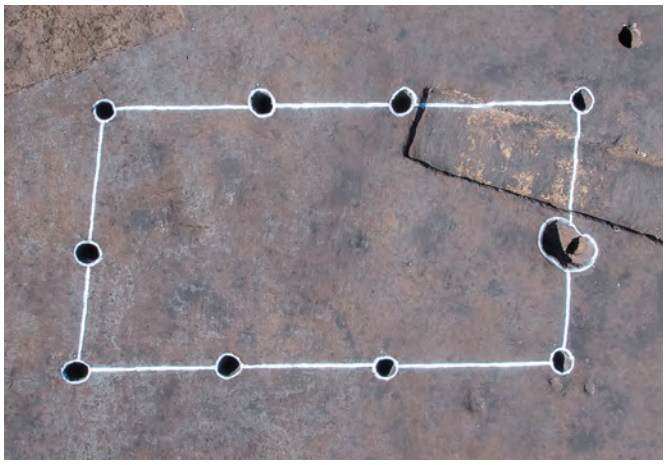
４．67号竪穴建物遺物出土状況（南から）

５．67号竪穴建物遺物出土状況（南から）

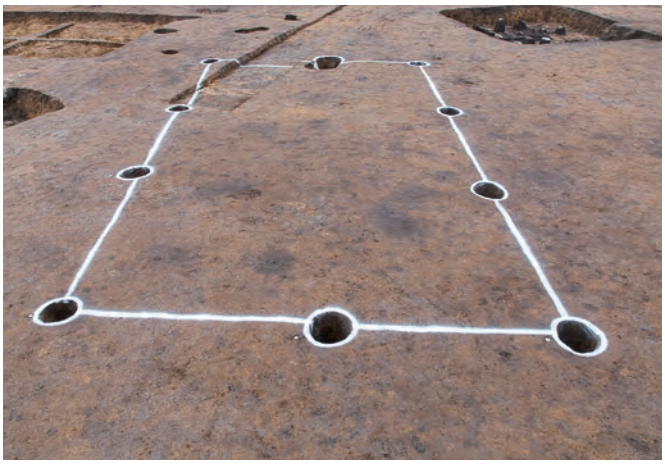
６．５号竪穴状遺構全景（北西から）

７．５号竪穴状遺構遺物出土状況（北西から）

８．５号竪穴状遺構遺物出土状況（北西から）



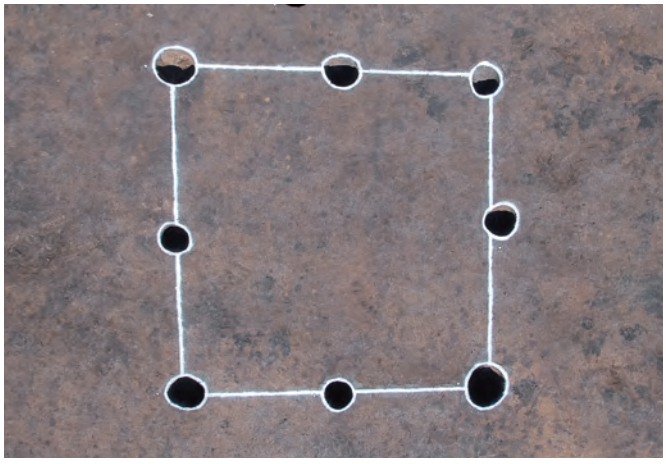
１．13号掘立柱建物全景（上が西）



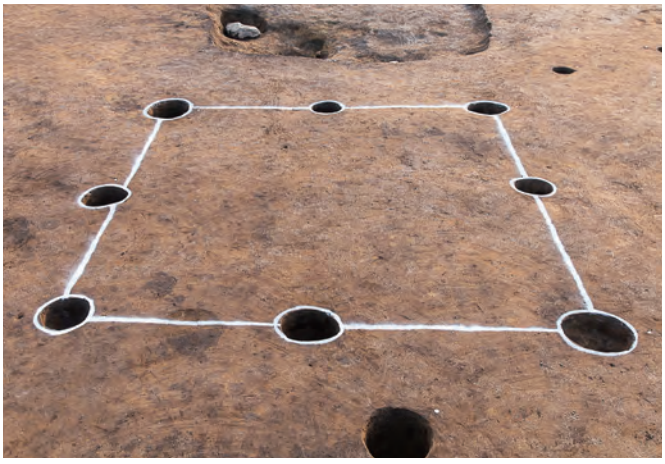
２．13号掘立柱建物全景（南から）

３．13号掘立柱建物Ｐ３（南から）

４．13号掘立柱建物Ｐ６（南から）



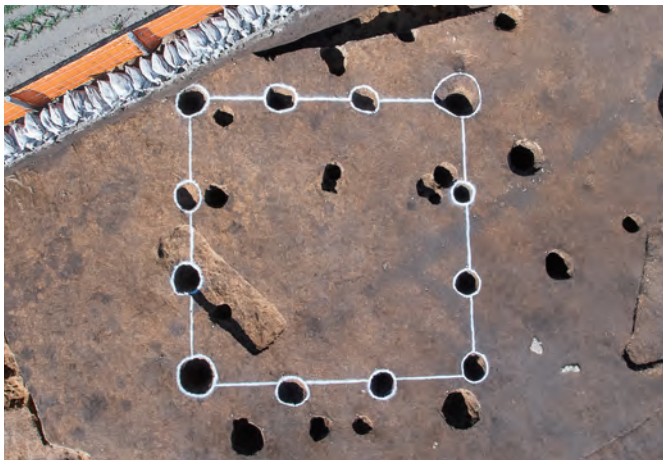
５．14号掘立柱建物全景（上が北）



６．14号掘立柱建物全景（北から）

７．14号掘立柱建物Ｐ１（南西から）

８．14号掘立柱建物Ｐ４（南西から）

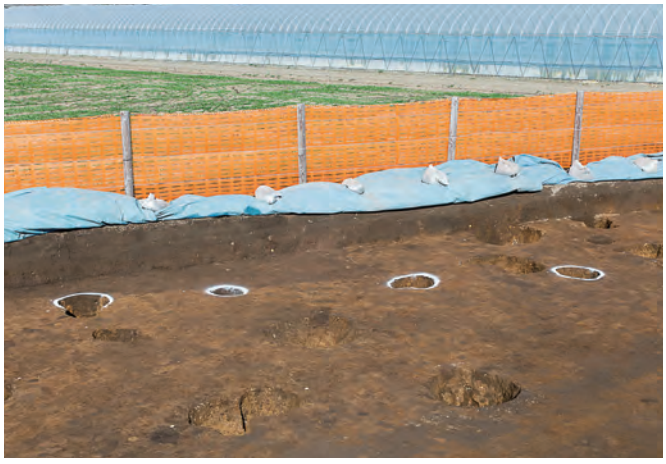


１．15号掘立柱建物全景（上が北）

２．15号掘立柱建物全景（南から）

３．15号掘立柱建物Ｐ２（南西から）

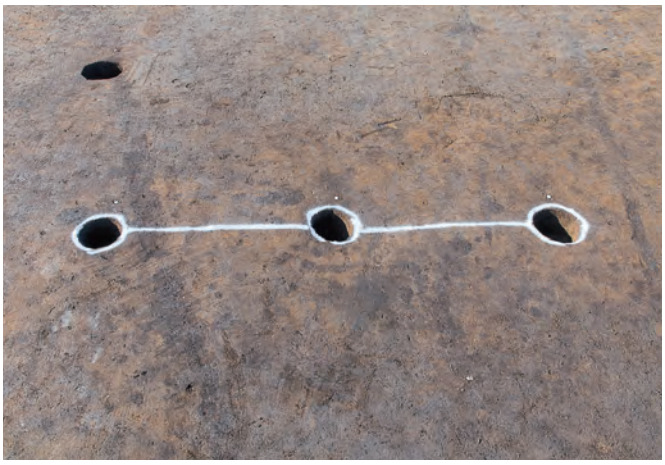
４．15号掘立柱建物Ｐ８（南から）



５．５号柱穴列全景（南東から）

６．５号柱穴列Ｐ２（南東から）

７．５号柱穴列Ｐ３（南東から）



８．６号柱穴列全景（東から）

１．２号溝北側（北から）

２．２号溝南側（南から）

３．２号溝土層断面（北東から）

４．２号溝遺物出土状況（北西から）

５．２号溝遺物出土状況（北西から）

６．２号溝遺物出土状況（西から）

１．３号溝全景（北西から）

２．３号溝土層断面（南東から）

３．４号溝全景（北東から）

４．４号溝土層断面（南西から）

５．５号溝全景（上が北東）

６．５号溝土層断面（南西から）

７．６号溝全景（北西から）

８．６号溝土層断面（南西から）

１．23号土坑全景(南東から)

２．24号土坑全景(南東から)

３．25号土坑土層断面(南東から)

４．26号土坑全景(東から)

５．27号土坑土層断面(南東から)

６．28号土坑遺物出土状況(南東から)

７．29号土坑全景(西から)

８．30号土坑全景(西から)

９．31号土坑遺物出土状況(南西から)

10．32号土坑全景(東から)

11．33号土坑全景(南西から)

12．34号土坑遺物出土状況(東から)

13．35号土坑全景(西から)

14．36号土坑全景(北から)

15．36号土坑遺物出土状況(東から)

1．37号土坑全景(西から)

2．38号土坑全景(南から)

3．38号土坑遺物出土状況(南西から)

4．39号土坑全景(南西から)

5．40号土坑全景(東から)

6．41号土坑全景(南東から)

7．42号土坑全景(南東から)

8．43号土坑全景(南から)

9．44号土坑全景(西から)

10．45号土坑全景(東から)

11．46号土坑全景(南から)

12．47号土坑全景(西から)

13．48号土坑全景(北西から)

14．49号土坑全景(北から)

15．50号土坑全景(北東から)

１．51号土坑全景(南西から)

２．52号土坑全景(南西から)

３．105号土坑全景(南西から)

４．389号・390号ピット全景(東から)

５．391号ピット全景(南から)

６．458号ピット全景(南から)

７．464号ピット全景(南から)

８．471号ピット全景(南東から)

９．526号ピット全景(南から)

10．556号ピット全景(南から)

11．558号ピット遺物出土状況(南から)

12．１号遺物集中全景(南から)

1．２区北・３区調査区全景（上が東）

2．４区調査区全景（上が北）

1．５区調査区全景（上が東）

2．２区北・３区囲い状遺構全景（上が北）

１．２区北・３区７号柱穴列・12号溝全景(上が南東)

２．７号柱穴列Ｐ１全景(東から)

３．７号柱穴列Ｐ１土層断面(東から)

４．７号柱穴列Ｐ２全景(南西から)

５．７号柱穴列Ｐ２遺物出土状況(南西から)

６．７号柱穴列Ｐ３全景(南西から)

７．７号柱穴列Ｐ４全景(南西から)

８．７号柱穴列Ｐ５全景(西から)

９．７号柱穴列Ｐ６全景(南から)

10．７号柱穴列Ｐ７全景(南から)

１．７号柱穴列Ｐ８全景（南西から）

２．７号柱穴列Ｐ９全景（南西から）

３．７号柱穴列Ｐ10全景（南西から）

４．７号柱穴列Ｐ11全景（南西から）

５．７号柱穴列Ｐ12全景（南西から）

６．７号柱穴列Ｐ13全景（南西から）

７．７号柱穴列Ｐ14全景（南西から）

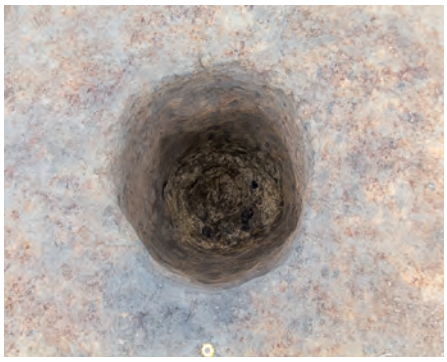
８．７号柱穴列Ｐ15全景（南西から）

９．７号柱穴列Ｐ16土層断面（東から）

10．７号柱穴列Ｐ16遺物出土状況（東から）

11．７号柱穴列Ｐ16遺物出土状況（東から）

12．７号柱穴列Ｐ17全景（南西から）

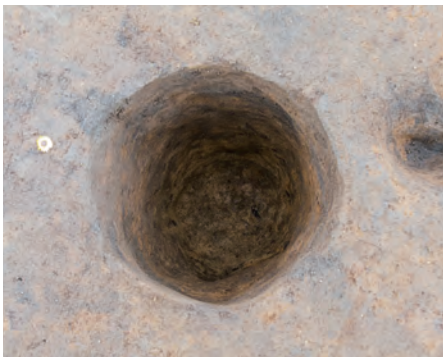


13．７号柱穴列Ｐ18全景（南東から）

14．７号柱穴列Ｐ19全景（南東から）

15．７号柱穴列Ｐ20全景（南西から）

１．７号柱穴列Ｐ21全景（南から）



２．７号柱穴列Ｐ22全景（南から）

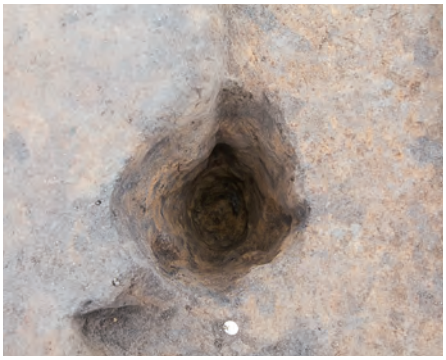
３．７号柱穴列Ｐ23全景（南西から）

４．７号柱穴列Ｐ24全景（南西から）

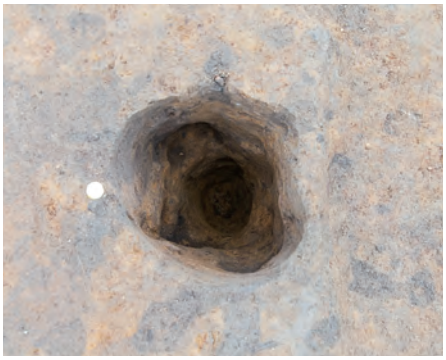
５．７号柱穴列Ｐ24断割り（南西から）

６．７号柱穴列Ｐ25全景（南西から）

７．７号柱穴列Ｐ25断割り（南西から）



８．７号柱穴列Ｐ26全景（南西から）



９．７号柱穴列Ｐ27全景（南西から）

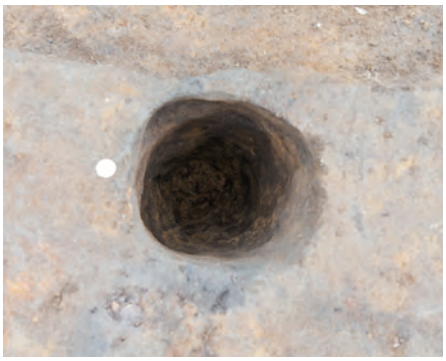
10．７号柱穴列Ｐ28全景（南西から）

11．７号柱穴列Ｐ29全景（南から）

12．７号柱穴列Ｐ30全景（南西から）

13．７号柱穴列Ｐ30土層断面（南西から）

14．７号柱穴列Ｐ31全景（南西から）



15．７号柱穴列Ｐ32全景（南西から）

１．２区北12号溝・７号柱穴列全景(北西から)

２．12号溝土層断面ｌ－ｌ′（南東から）

３．12号溝土層断面ｍ－ｍ′（南東から）

４．12号溝土層断面ｎ－ｎ′（南東から）

５．３区12号溝土層断面ｏ－ｏ′（南東から）

６．12号溝土層断面ｐ－ｐ′（南西から）

７．12号溝土層断面ｑ－ｑ′（南西から）

８．12号溝土層断面ｖ－ｖ′（南から）

1．18号掘立柱建物全景（上が北東）

2．18号掘立柱建物全景（南西から）

3．18号掘立柱建物Ｐ１（北東から）

4．18号掘立柱建物Ｐ１柱痕掘削状況（南東から）

5．18号掘立柱建物Ｐ２・Ｐ３（南東から）

6．18号掘立柱建物Ｐ４（南西から）

7．18号掘立柱建物Ｐ４土層断面（南西から）

8．18号掘立柱建物Ｐ５（南西から）

9．18号掘立柱建物Ｐ６（南西から）

10．18号掘立柱建物Ｐ６柱痕確認状況（南西から）

11．18号掘立柱建物Ｐ７（南から）

12．18号掘立柱建物Ｐ８（南から）

１．18号掘立柱建物Ｐ８土層断面(西から)

２．18号掘立柱建物Ｐ９(南から)

３．18号掘立柱建物Ｐ10(西から)

４．18号掘立柱建物Ｐ11(南西から)

５．18号掘立柱建物Ｐ12(北東から)

６．18号掘立柱建物Ｐ12土層断面(北西から)

７．18号掘立柱建物Ｐ13(南西から)

８．18号掘立柱建物Ｐ13(南東から)

９．18号掘立柱建物Ｐ14(南西から)

10．18号掘立柱建物Ｐ15(南西から)

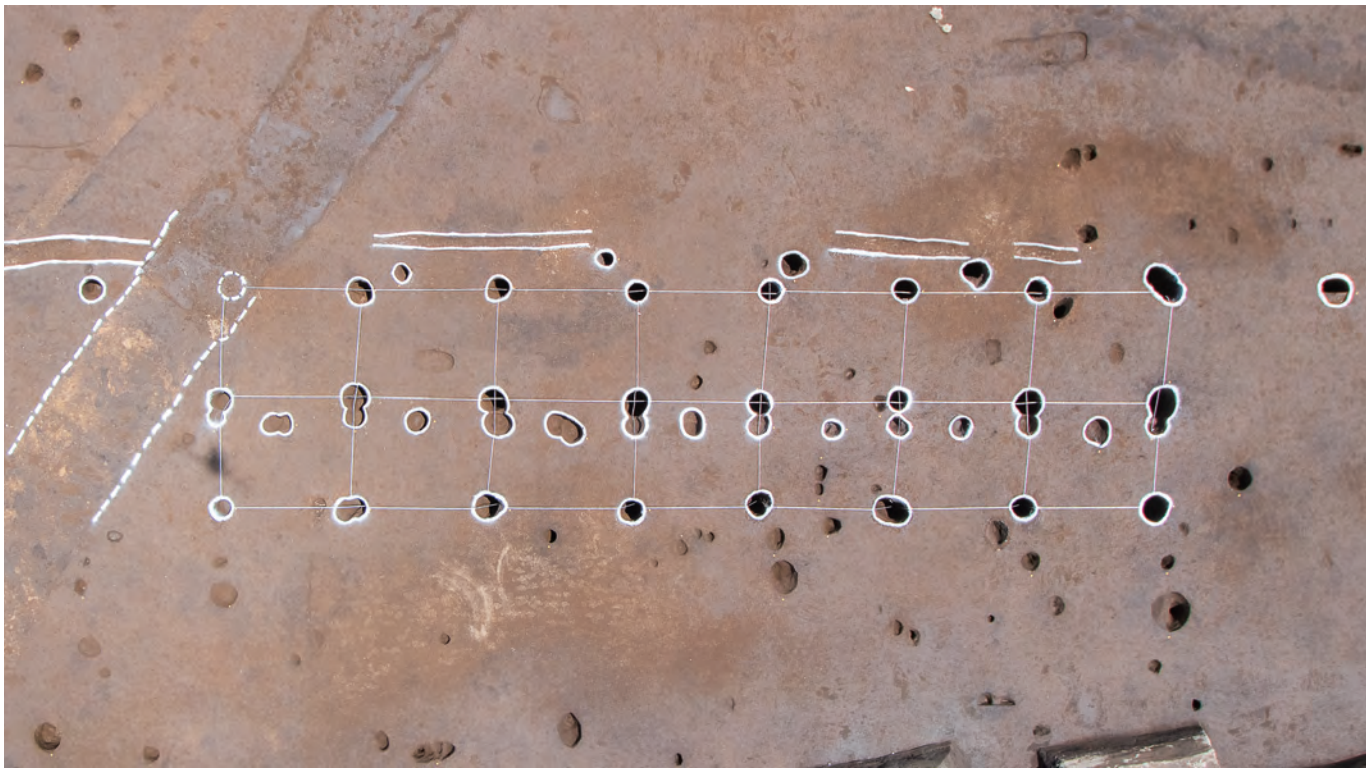
11．18号掘立柱建物Ｐ16(南西から)

12．18号掘立柱建物Ｐ16土層断面(南東から)

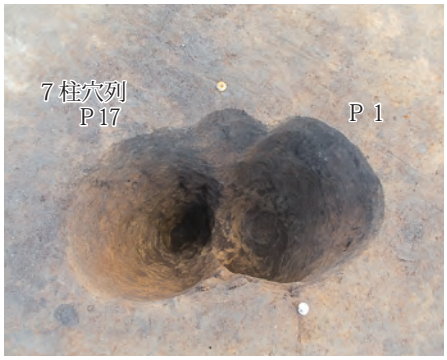
13．18号掘立柱建物Ｐ17(南東から)

14．18号掘立柱建物Ｐ18(南西から)

15．18号掘立柱建物Ｐ18柱痕掘削状況(南東から)



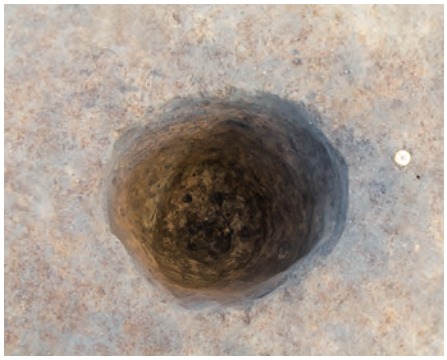
１．19号掘立柱建物全景（上が南東）



２．19号掘立柱建物Ｐ１・７号柱穴列Ｐ17（北から）

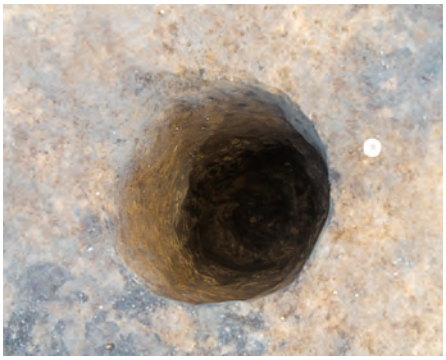
３．19号掘立柱建物Ｐ１土層断面（東から）

４．19号掘立柱建物Ｐ２（西から）

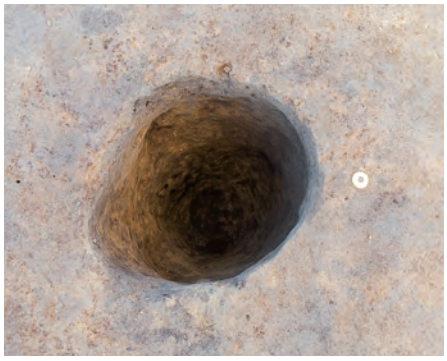


５．19号掘立柱建物Ｐ３（西から）

６．19号掘立柱建物Ｐ４（西から）

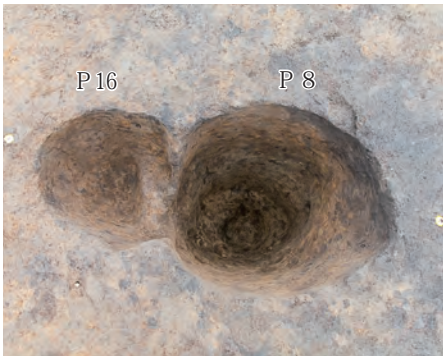


７．19号掘立柱建物Ｐ５（西から）

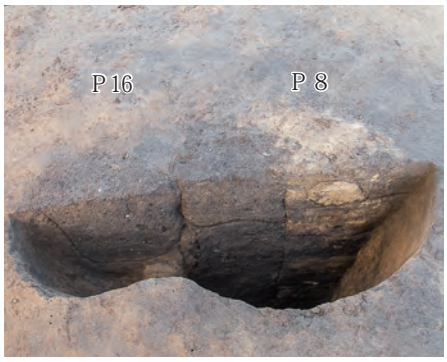


８．19号掘立柱建物Ｐ６（西から）

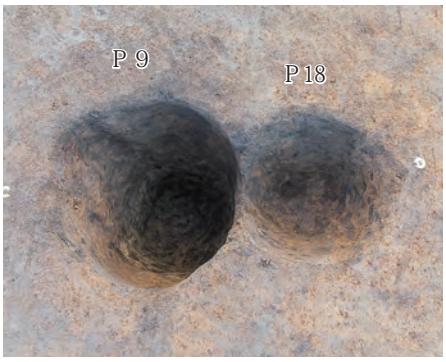
９．19号掘立柱建物Ｐ７（西から）



10．19号掘立柱建物Ｐ８・Ｐ16（南西から）

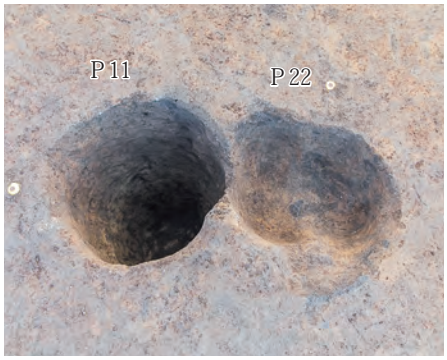


1．19号掘立柱建物P８・P16土層断面(南西から)



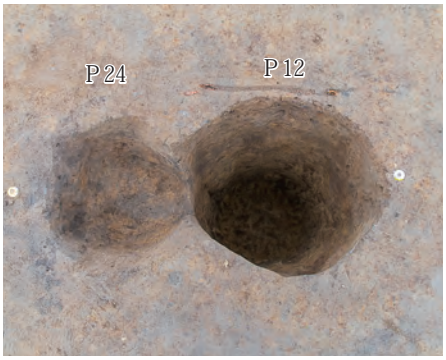
2．19号掘立柱建物Ｐ９・Ｐ18（北東から）

3．19号掘立柱建物Ｐ10（南西から）

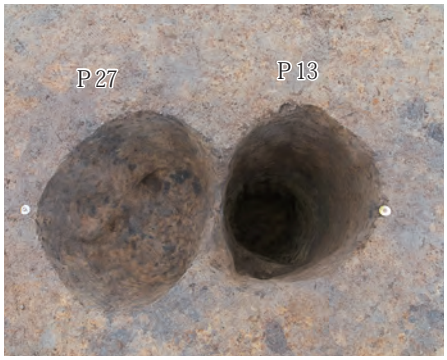


4．19号掘立柱建物Ｐ11・Ｐ22（北東から）

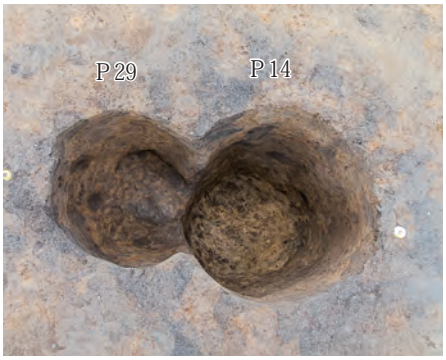
5．19号掘立柱建物Ｐ11土層断面(南西から)



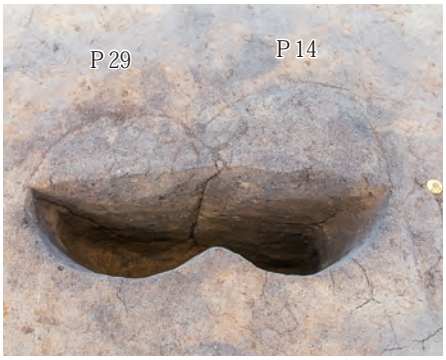
6．19号掘立柱建物Ｐ12・Ｐ24（南西から）



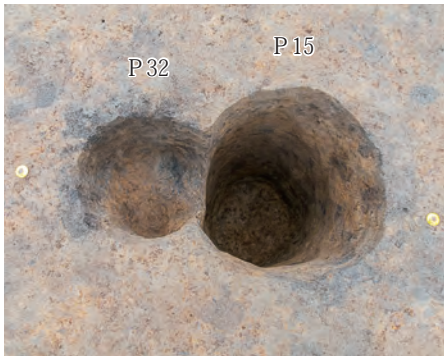
7．19号掘立柱建物Ｐ13・Ｐ27（南西から）



8．19号掘立柱建物Ｐ14・Ｐ29（南西から）



9．19号掘立柱建物Ｐ14・Ｐ29土層断面(南西から)



10．19号掘立柱建物Ｐ15・Ｐ32（南西から）

11．19号掘立柱建物Ｐ17（南西から）

12．19号掘立柱建物Ｐ19土層断面(南東から)

13．19号掘立柱建物Ｐ20土層断面(南東から)

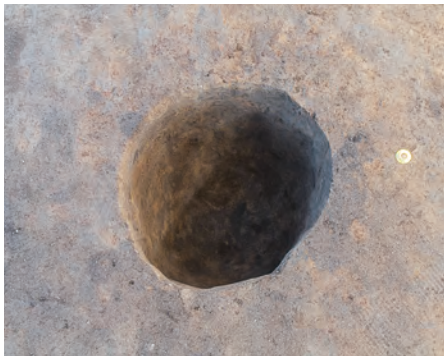
14．19号掘立柱建物Ｐ21（北東から）

15．19号掘立柱建物Ｐ22土層断面(南東から)

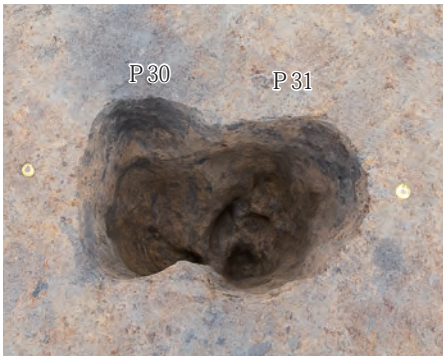
1．19号掘立柱建物Ｐ23（南西から）

2．19号掘立柱建物Ｐ24土層断面(南西から)

3．19号掘立柱建物Ｐ25・Ｐ26（北西から）



4．19号掘立柱建物Ｐ28（北西から）



5．19号掘立柱建物Ｐ30・Ｐ31（南東から）

6．19号掘立柱建物Ｐ33（南東から）

7．19号掘立柱建物Ｐ34（北西から）

8．19号掘立柱建物Ｐ35（南東から）

9．19号掘立柱建物Ｐ36（南東から）

10．19号掘立柱建物Ｐ36土層断面(南東から)

11．19号掘立柱建物Ｐ37（北西から）

12．19号掘立柱建物Ｐ37土層断面(南東から)

13．19号掘立柱建物Ｐ38（南東から）

14．19号掘立柱建物Ｐ39（南東から）

15．19号掘立柱建物Ｐ40（北西から）

１．２区北68号竪穴建物全景（西から）

２．68号竪穴建物土層断面（西から）

３．68号竪穴建物遺物出土状況（西から）

４．68号竪穴建物竈（西から）

５．３区69号竪穴建物全景（北東から）

６．69号竪穴建物焼土土層断面（南東から）

７．69号竪穴建物土層断面（南東から）

８．69号竪穴建物Ｐ１土層断面（南西から）

１．70号竪穴建物全景（西から）

２．70号竪穴建物遺物出土状況（西から）

３．70号竪穴建物竈（西から）

４．70号竪穴建物焼土土層断面（南から）

５．６号竪穴状遺構全景（南から）

６．６号竪穴状遺構遺物出土状況（西から）

７．７号竪穴状遺構全景（北から）

８．７号竪穴状遺構２号土坑炭化物出土状況（北から）

１．16号・17号掘立柱建物全景（上が北）

２．16号掘立柱建物全景（東から）

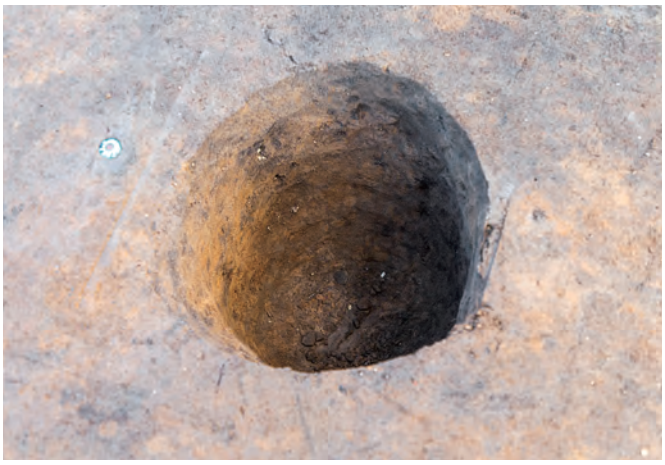
３．16号掘立柱建物Ｐ１（南西から）

４．16号掘立柱建物Ｐ２（南西から）

５．16号掘立柱建物Ｐ３（南西から）

６．16号掘立柱建物Ｐ４（南から）

７．16号掘立柱建物Ｐ５（南西から）



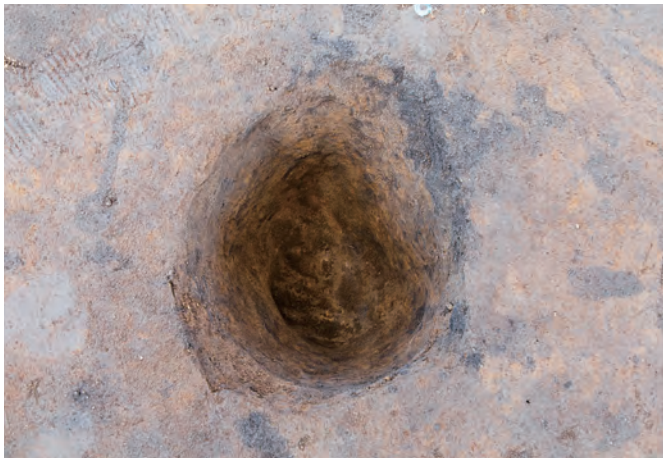
８．16号掘立柱建物Ｐ６（南西から）

１．16号掘立柱建物Ｐ７（南西から）

２．16号掘立柱建物Ｐ８（南西から）

３．17号掘立柱建物全景（東から）

４．17号掘立柱建物Ｐ１（南西から）



５．17号掘立柱建物Ｐ２（南東から）

６．17号掘立柱建物Ｐ３（南東から）

７．17号掘立柱建物Ｐ３土層断面（南西から）

８．17号掘立柱建物Ｐ４（南東から）

1．20号掘立柱建物全景(東から)

2．20号掘立柱建物Ｐ１(南から)

3．20号掘立柱建物Ｐ３(南から)

4．20号掘立柱建物Ｐ４土層断面(南から)

5．20号掘立柱建物Ｐ７(南から)

6．20号掘立柱建物Ｐ10(南から)

7．20号掘立柱建物Ｐ14土層断面(南から)

8．20号掘立柱建物Ｐ18(南から)

１．14号溝全景(南から)

２．14号溝土層断面(南から)

３．15号溝検出状況(西から)

４．16号溝全景(南から)

５．37号溝全景(東から)

６．37号溝土層断面(東から)

７．17号溝全景(南から)

８．16号・17号溝土層断面(南から)

３区

１．20号溝全景（南から）

２．20号・28号溝土層断面（南から）

３．28号・35号溝全景（東から）

４．35号溝土層断面（東から）

５．21号溝全景（南から）

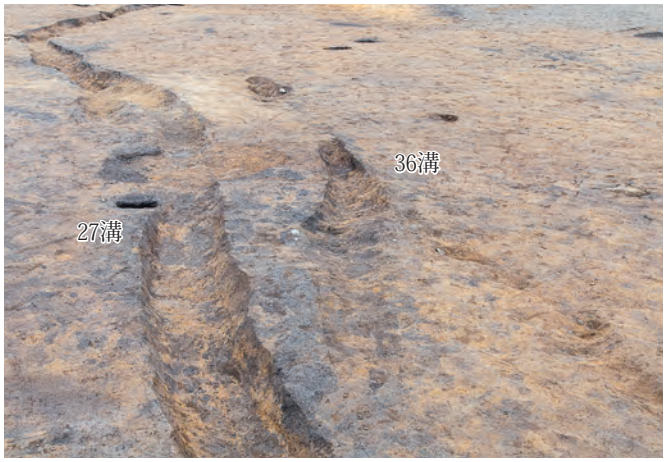
６．21号溝底面ピットＰ４（西から）

７．22号溝全景（南から）

８．21号・22号溝土層断面（南から）

1．27号溝全景(北から)

2．27号溝底面ピット(北から)



3．27号・36号溝全景(南から)

4．36号溝土層断面(南から)

5．23号溝全景(南から)

6．23号溝土層断面(北から)

7．13号溝全景(南から)

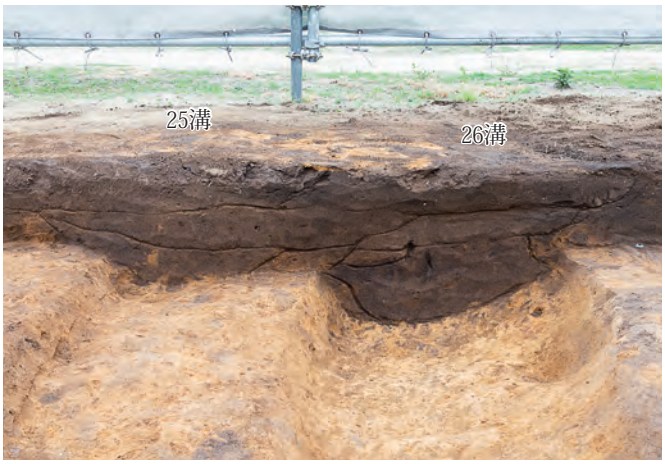
8．19号溝全景(南から)

１．３・４区７号～11号・24号～26号・29号～33号溝全景（上が東）

２．24号溝全景（南から）

３．24号溝土層断面（南から）

４．25号・26号溝全景（南東から）



５．25号・26号溝土層断面（北西から）

１．29号溝全景(南から)

２．29号溝土層断面Ｂ－Ｂ′（南から）

３．30号溝全景(西から)

４．30号溝土層断面Ｄ－Ｄ′（東から）

５．31号溝全景(東から)

６．29号・31号溝土層断面Ｃ－Ｃ′（南から）

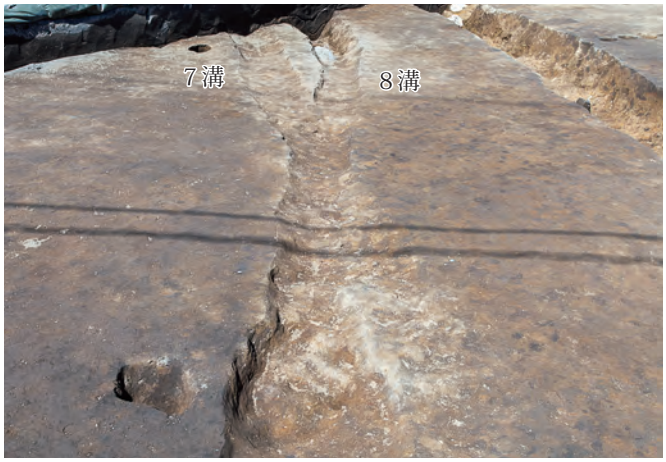
７．32号溝全景(西から)

８．33号溝全景(南から)

３・４区

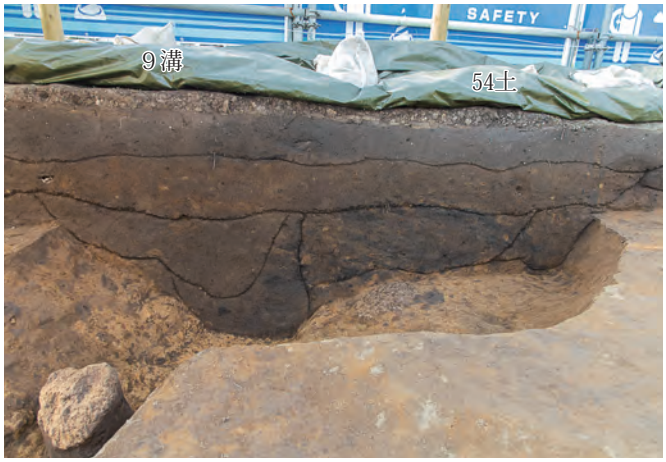
１．３区７号溝全景(北から)

２．３区９号溝全景(南から)



３．４区７号・８号溝全景(南から)

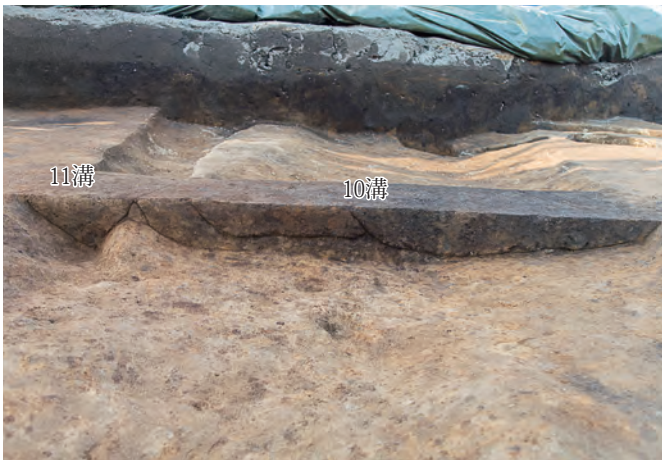
４．４区７号・８号溝土層断面(南から)



５．４区９号溝・54号土坑土層断面(南から)

６．３区10号溝全景(南から)

７．４区10号溝全景(南東から)



８．４区10号・11号溝土層断面(南から)

1．38号溝全景(南から)

2．38号溝土層断面(南から)

3．46号溝全景(南から)

4．46号溝土層断面(南から)

5．47号溝全景(東から)

6．47号溝土層断面(北西から)

1．４区41号～45号・49号溝全景（上が北）

2．41号・42号溝全景（南から）

3．41号・42号溝土層断面（北から）

4．43号～45号・49号溝全景（南から）

5．43号～45号・49号溝土層断面（南から）

6．５区48号溝全景（上が北）

7．48号溝遺物出土状況（南から）

8．48号溝土層断面（北から）

１．３区56号土坑全景(北から)

２．57号土坑全景(北から)

３．58号土坑全景(東から)

４．59号土坑全景(北から)

５．60号土坑土層断面(南東から)

６．104号土坑土層断面(南から)

７．４区53号土坑全景(南から)

８．９号溝・54号土坑土層断面(南から)

９．10号溝・55号土坑土層断面(南から)

10．61号土坑土層断面(南から)

11．62号土坑遺物出土状況(南から)

12．62号土坑土層断面(南から)

13．63号土坑全景(西から)

14．64号～66号・71号土坑全景(南から)

15．64号土坑土層断面(南から)

1．65・66・71号土坑土層断面(南から)

2．67号土坑全景(南から)

3．68号土坑全景(南から)

4．69号土坑全景(北から)

5．70号土坑全景(東から)

6．72号土坑全景(東から)

7．72号土坑土層断面(東から)

8．73号土坑全景(南から)

9．73号土坑土層断面(東から)

10．74号土坑全景(東から)

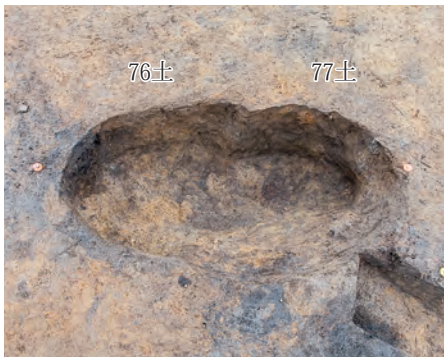
11．75号土坑全景(東から)

12．97号・98号土坑全景(南から)

13．97号・98号土坑土層断面(南から)

14．99号土坑全景(南から)

15．99号土坑土層断面(南から)



1．76号・77号土坑全景(南東から)

2．76号・77号土坑土層断面(南東から)

3．78号土坑全景(南から)

4．79号土坑・874号ピット全景(南から)

5．79号土坑･874号ピット土層断面(東から)

6．80号土坑全景(南西から)

7．80号土坑土層断面(南東から)

8．81号土坑全景(南東から)

9．82号土坑全景(南東から)

10．83号土坑全景(南東から)

11．84号土坑全景(南東から)

12．84号土坑土層断面(南東から)

13．85号土坑全景(南東から)

14．86号土坑全景(南から)

15．87号土坑全景(南から)

1．88号土坑全景(南西から)

2．89号・90号土坑全景(南西から)

3．91号土坑全景(南西から)

4．92号土坑・884号ピット全景(南から)

5．92号土坑･884号ピット土層断面(南から)

6．93号土坑全景(南西から)

7．94号土坑全景(南から)

8．95号土坑土層断面(南から)

9．96号土坑全景(南東から)

10．100号土坑全景(南から)

11．101号土坑全景(南から)

12．101号土坑土層断面(南東から)

13．102号土坑土層断面(南から)

14．103号土坑全景(南から)

15．103号土坑土層断面(南から)

PL.84

１号竪穴建物

1

9

２号竪穴建物（１）

須恵器皿（３～８）他床面直上で出土した土器

1

3

4

5

6

7

8

10

12

13

14

１区１号・２号（１）竪穴建物出土遺物

２号竪穴建物（２）

17

19

20

３号竪穴建物

1

５号竪穴建物

3

4

４号竪穴建物

3

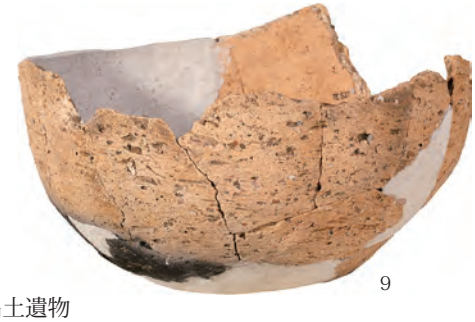
5

4

７号竪穴建物

1

8


9

１区２号（２）・３～５号・７号竪穴建物出土遺物

6号竪穴建物

1

7

8

8号竪穴建物

1

5

6

9号竪穴建物

1

2

3

4

5

8

6

1区6号・8号・9号竪穴建物出土遺物

10号竪穴建物

1

3

4

5

6

2

7

8

1区10号竪穴建物出土遺物

PL.88

11号竪穴建物

1

2

3

6

12号竪穴建物（１）

1

2

3

4

7

8

12

17

13

14

15

１区11号・12号（１）竪穴建物出土遺物

12号竪穴建物（２）

19

20

21

22

23

26

28

13号竪穴建物

2

3

5

6

7

8

9

10

１区12号（２）・13号竪穴建物出土遺物

PL.90

14号竪穴建物

3

4

15号竪穴建物

1

2

8

9

16号竪穴建物（１）

3

6

10

8

13

1

12

2

18

5

１区14号・15号・16号（１）竪穴建物出土遺物

16号竪穴建物（２）

19

20

21

22

１区16号（２）竪穴建物出土遺物

16号竪穴建物（３）

23

24

17号竪穴建物

1

4

18号竪穴建物（１）

1

2

5

7

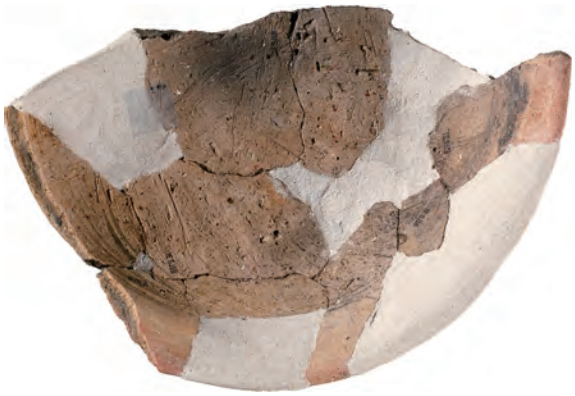
10

11

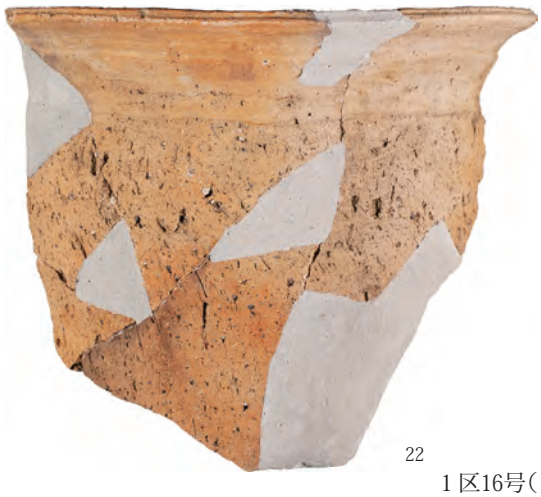
17

18

21



9


22

１区16号（３）・17号・18号（１）竪穴建物出土遺物

18号竪穴建物（２）

23

24

26

29

30

27

31

32

33

34

１区18号（２）竪穴建物出土遺物

PL.94

19号竪穴建物

1

5

7

6

20号竪穴建物

1

3

5

7

6

8

2号竪穴状遺構

1

7号掘立柱建物

1

1区19号・20号竪穴建物・2号竪穴状遺構・7号掘立柱建物出土遺物

1号方形周溝墓

2

3

1土－1

2土－1

17土－1

4

256ピ－1

256ピ－2

1区　遺構外

1

2

3

4

5

6

7

9

11

8

13

16

10

12

14

15

19

20

1区1号方形周溝墓・1号・2号・17号土坑・256号ピット・1区遺構外出土遺物

PL.96

21号竪穴建物（１）

2

4

7

5

6

8

２区21号（１）竪穴建物出土遺物

21号竪穴建物（２）

9

10

11

12

15

18

２区21号（２）竪穴建物出土遺物

PL.98

22号竪穴建物

2

5

8

4

9

10

２区22号竪穴建物出土遺物

23号竪穴建物

1

4

5

6

24号竪穴建物

1

4

6

7

8

10

11

２区23号・24号竪穴建物出土遺物

25号竪穴建物

1

26号竪穴建物

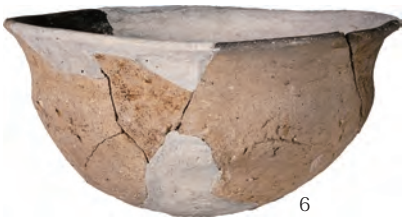
1

27号竪穴建物

2

3

4


6

7

28号竪穴建物

2

3

10

11

6

7

12

13

14

2区25号～28号竪穴建物出土遺物

29号竪穴建物

1

2

3

30号竪穴建物

3

5

31号竪穴建物

1

4

32号竪穴建物

1

3

4

5

6

33号竪穴建物

2

6

7

34号竪穴建物

1

3

4

35号竪穴建物（１）

1

2

4

２区29～34号・35号（１）竪穴建物出土遺物

PL.102

35号竪穴建物（２）

5

6

11

10

14

13

15

16

37号竪穴建物

3

39号竪穴建物

2

38号竪穴建物

1

2

41号竪穴建物（１）

2

3

4

5

２区35号（２）・37号～39号・41号（１）竪穴建物出土遺物

41号竪穴建物（２）

6

10

12

14

15

16

19

20

21

42号竪穴建物（１）

1

2

14

3

4

6

8

10

19

２区41号（２）・42号（１）竪穴建物出土遺物

42号竪穴建物（２）

15

16

17

43号竪穴建物

3

44号竪穴建物

1

4

7

9

11

２区42号（２）・43号・44号竪穴建物出土遺物

45号竪穴建物

1

6

46号竪穴建物

1

2

5

47号竪穴建物

1

3

4

7

9

48号竪穴建物

1

3

4

6

8

11

7

9

13

14

2区45号～48号竪穴建物出土遺物

49号竪穴建物

1

2と3

2

3

4

11

50号竪穴建物

4

51号竪穴建物

1

3

52号竪穴建物（１）

1

3

4

5

7

10

8

9

２区49号～51号・52号（１）竪穴建物出土遺物

52号竪穴建物（２）

14

16

17

18

20

21

24

27

25

28

２区52号（２）竪穴建物出土遺物

52号竪穴建物（３）

30

33

53号竪穴建物

1

2

54号竪穴建物

3

55号竪穴建物

1

2

5

56号竪穴建物

1

4

2

58号竪穴建物（１）

1

2

8

5

6

２区52号（３）・53号～56号・58号（１）竪穴建物出土遺物

58号竪穴建物（２）

7

10

59号竪穴建物

1

2

5

6

8

11

13

16

18

20

22

23

60号竪穴建物（１）

3

4

5

6

8

9

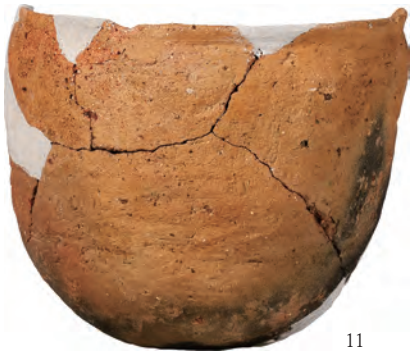
２区58号（２）・59号・60号（１）竪穴建物出土遺物

PL.110

60号竪穴建物（２）

10

12



11

13

14

16

２区60号（２）竪穴建物出土遺物

60号竪穴建物（３）

15

17

18

19

２区60号（３）竪穴建物出土遺物

61号竪穴建物

1

3

4

5

62号竪穴建物

1

3

4

63号竪穴建物

1

3

7

64号竪穴建物

1

2

5

7

8

65号竪穴建物

3

7

２区61号～65号竪穴建物出土遺物

66号竪穴建物

1

4

67号竪穴建物

1

2

3

4

5号竪穴状遺構

3

6

7

15号掘立柱建物

2

2号溝

1

2

3

4

5

6

8

11

12

25土-1

25土-2

2区66号・67号竪穴建物・5号竪穴状遺構・15号掘立柱建物・2号溝・25号土坑出土遺物

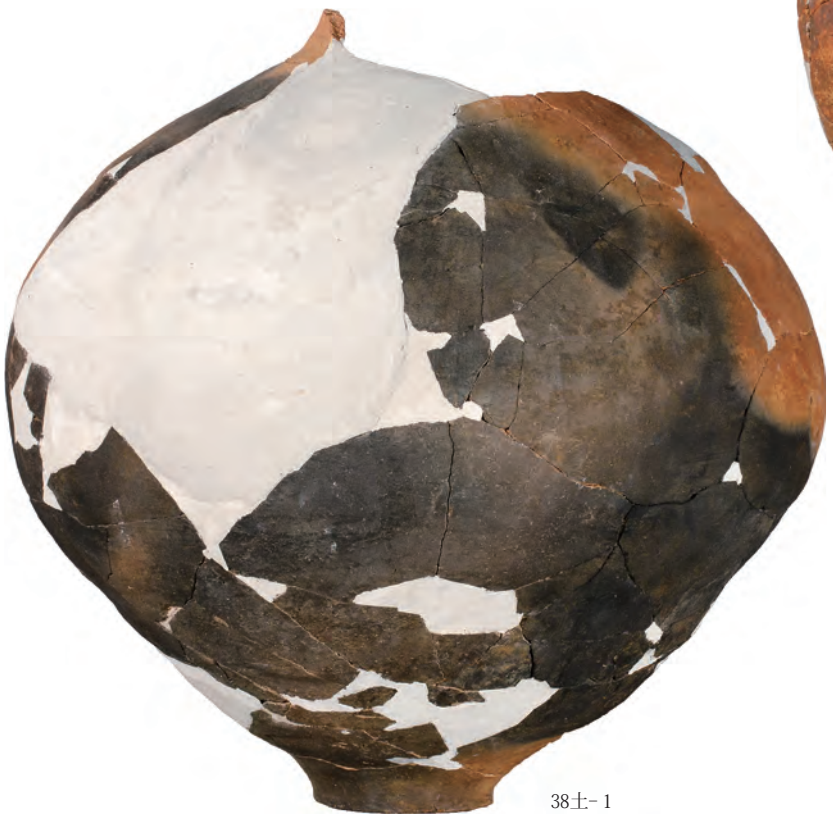
27土-1

29土-1

34土-2

36土-2

38土-3



38土-1

２区27号・29号・34号・36号・38号（１）土坑出土遺物

38土-4

38土-5

47土-1

50土-1

1号遺物集中(1)

47土-2

390ピ-1

8

47土-3

558ピ-1

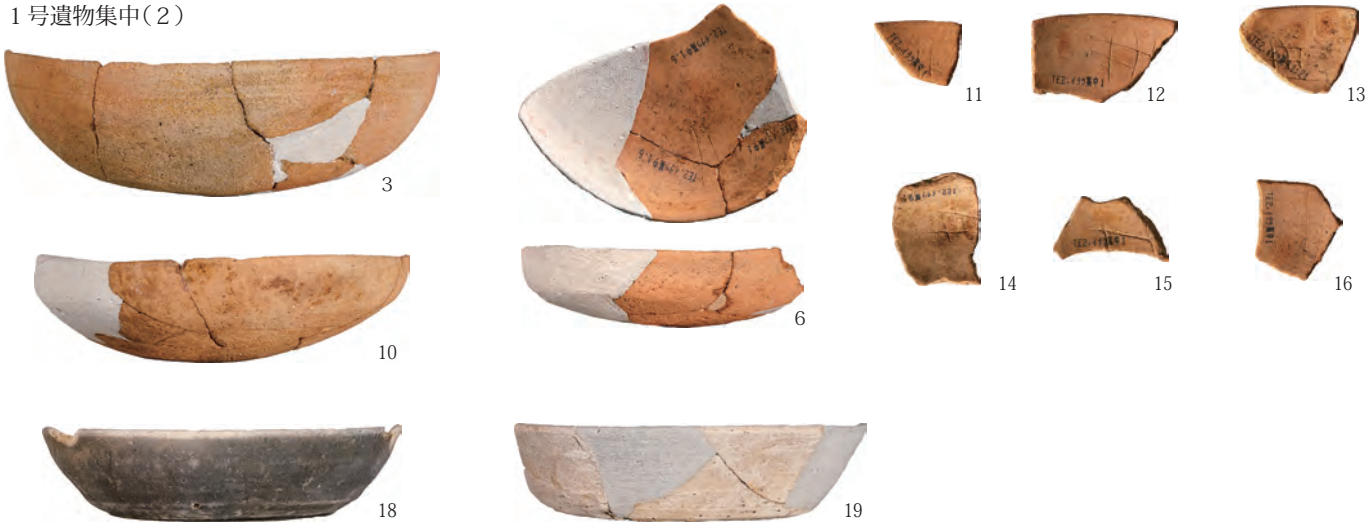
1

9

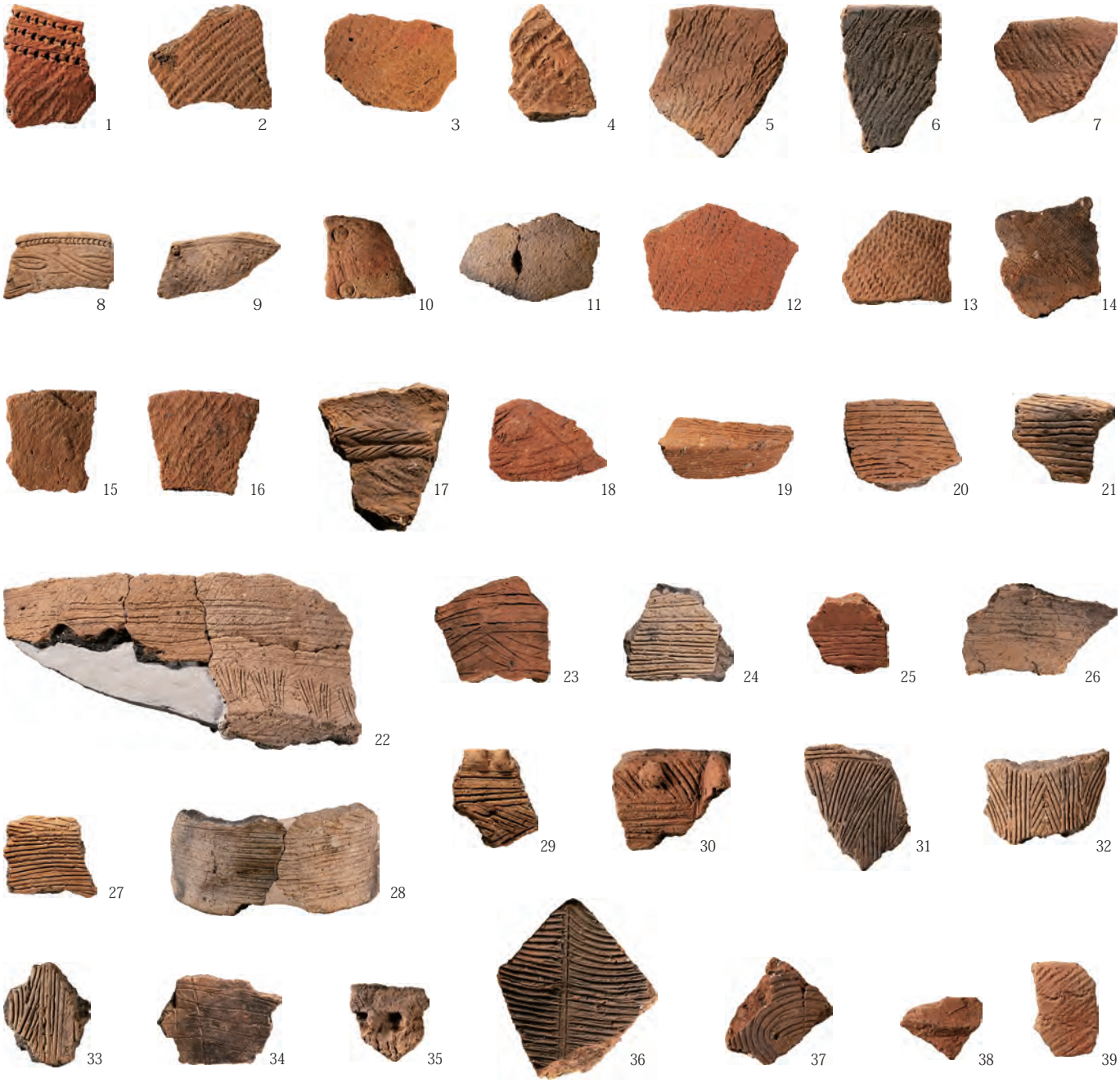
2区38号(2)・47号・50号土坑・390号・558号ピット・1号遺物集中(1)出土遺物

PL.116

１号遺物集中（２）



遺構外（１）



２区１号遺物集中（２）・２区遺構外（１）出土遺物

遺構外（２）

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

58

64

65

66

68

69

70

71

72

67

７号柱穴列

1

2

4

68号竪穴建物（１）

1

7

14

２区遺構外（２）・３区７号柱穴列・２区北68号竪穴建物（１）出土遺物

PL.118

68号竪穴建物（２）

15

16

17

18

20

21

２区北68号竪穴建物（２）出土遺物

68号竪穴建物（３）

19

22

23

26

27

28

29

30

31

32

70号竪穴建物

4

6

7

10

11

21号溝

3

２区北68号（３）・３区70号竪穴建物・21号溝出土遺物

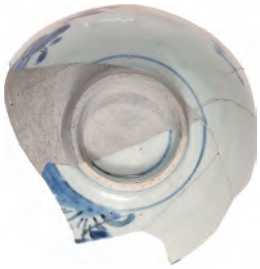
PL.120

24号溝

3

4

5



11

6

7

8

9

10

32号溝

1

2

9号溝

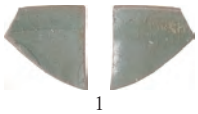
3

10号溝

1

12

49号溝


1

3区24号溝・32号溝・3・4区9号・10号・4区49号溝出土遺物

43号溝

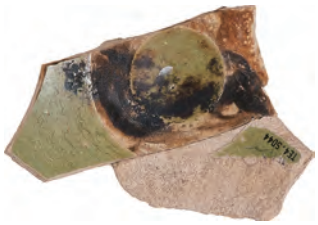
2

6

7

8

9



13

11

12

15

17

18

20

21

23

25

26

38

30

39

31

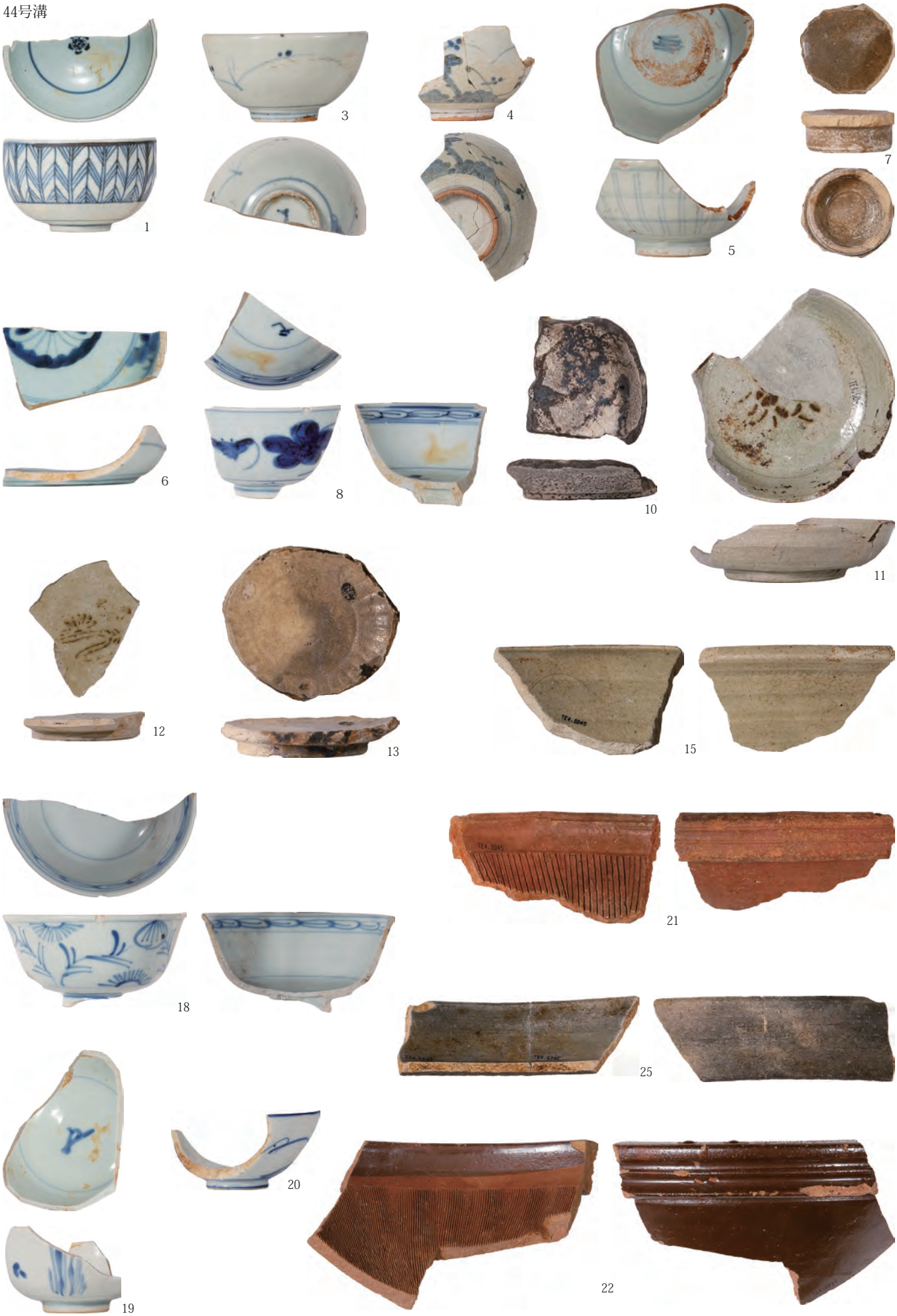
32

37

40

4区43号溝出土遺物

44号溝



4区44号溝出土遺物

48号溝（１）

1

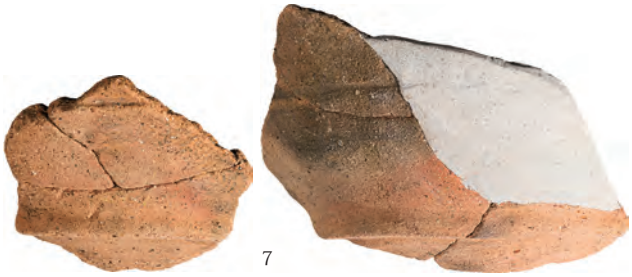
2

3

4

5

6


7

8

12

13

14

５区48号（１）溝出土遺物

PL.124

48号溝（２）

15

17

18

19

21

22

５区48号（２）溝出土遺物

62土-1

62土-2

62土-3

62土-4

62土-5

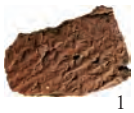
72土-1

837ピ-1

２区北　遺構外

1

３区　遺構外


1

2

6

４区　遺構外

1

2

3

4

5

５区　遺構外

1

2

3

4

４区62号・72号土坑・837号ピット・２区北・３区・４区・５区遺構外出土遺物

1．１区旧石器８号トレンチ石器出土状況（南西から）

2．１区旧石器８号トレンチ石器出土状況（南西から）

3．１区旧石器８号トレンチ礫集中（西から）

4．１区旧石器８号トレンチ土層セクション（西から）

5．１区旧石器９号トレンチ（南から）

6．１区旧石器10号トレンチ（南から）

7．１区旧石器11号トレンチ（南から）

8．１区旧石器12号トレンチ（南から）

1．１区旧石器14号トレンチ拡張部(西から)

2．１区旧石器14号トレンチ拡張部の礫集中検出状況(西から)

3．１区旧石器14号トレンチ礫密集部(南から)

4．１区旧石器14号トレンチ礫密集部(南から)

5．１区旧石器14号トレンチ礫密集部(西から)

6．１区旧石器14号トレンチ礫密集部(北から)

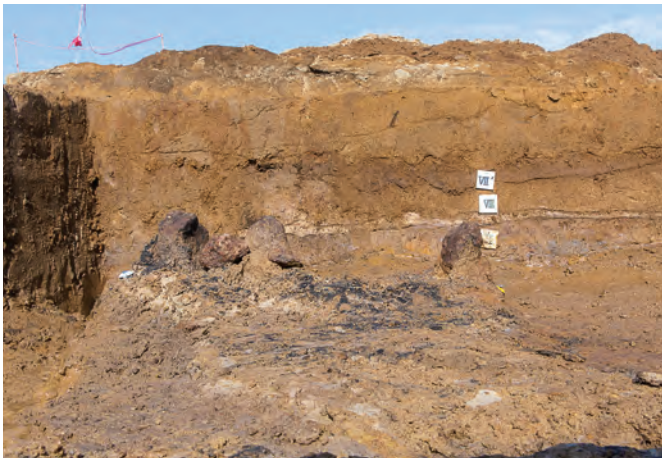
7．１区旧石器14号トレンチ礫密集部(南から)

8．１区旧石器14号トレンチ礫密集部(西から)

1．１区旧石器14号トレンチ礫密集部(炭化物の試料採取)

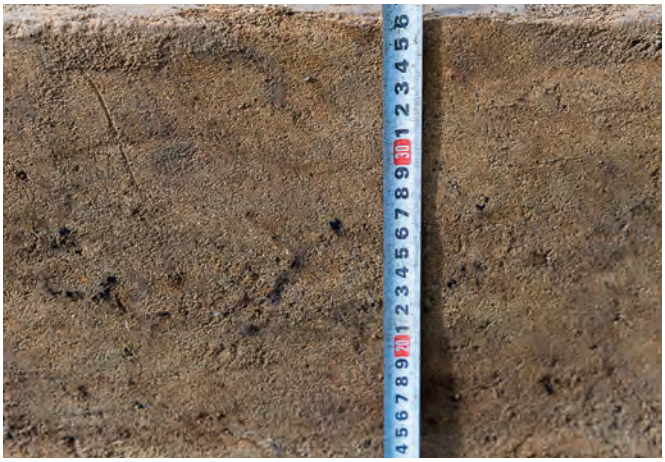
2．１区旧石器14号トレンチ礫密集部･土層セクション(南西から)

3．１区旧石器14号トレンチ・土層セクション



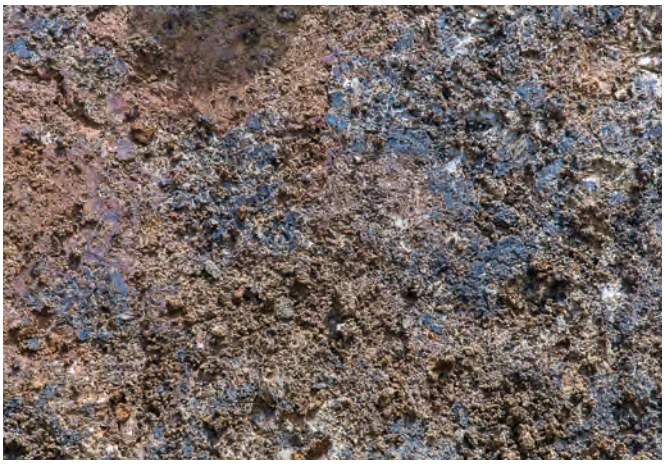
4．１区旧石器14号トレンチ・土層セクション(南から)

5．１区旧石器14号トレンチ西壁のAs-BPG炭化物(東から)



6．同左・拡大

7．１区旧石器14号トレンチ拡張①(西から)



8．１区旧石器14号トレンチ拡張①(AT直上炭化物検出状況)

1．１区旧石器14号トレンチ拡張②(西から)

2．１区旧石器14号トレンチ拡張③(西から)

3．１区旧石器14号トレンチ拡張③(西から)

4．１区旧石器14号トレンチ拡張④(西から)

5．１区旧石器14号トレンチ拡張④(西から)

6．１区旧石器15号トレンチ(南から)

7．１区旧石器16号トレンチ(南から)

8．１区旧石器17号トレンチ(南から)

１．２区旧石器20号トレンチ(南から)

２．２区旧石器20号トレンチ礫集中(南から)

３．２区旧石器20号トレンチ礫集中(西から)

４．２区旧石器20号トレンチ礫集中(南から)

５．２区旧石器20号トレンチ礫集中(西から)

６．２区旧石器20号トレンチ礫集中(西から)

７．２区旧石器20号トレンチ礫集中断割(南から)

８．２区旧石器20号トレンチ礫集中の調査

1．２区旧石器20号トレンチ礫集中の礫（１）

2．２区旧石器20号トレンチ礫集中の礫（２）

3．２区旧石器22号トレンチ（南から）

4．２区旧石器25号トレンチ（南から）

5．２区旧石器26号トレンチ（南から）

6．２区旧石器26号トレンチ（南から）

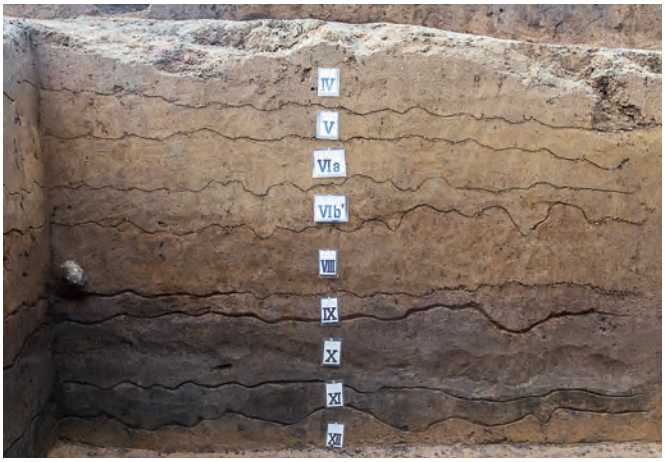
7．２区旧石器26号トレンチの礫

8．２区旧石器28号トレンチ（南から）

1．３区旧石器トレンチ全景(南から)

2．３区旧石器40号トレンチ(東から)

3．３区旧石器43号トレンチ(東から)



4．３区旧石器43号トレンチ(南から)

5．３区旧石器46号トレンチ(東から)

6．３区旧石器46号トレンチ(南から)

7．５区旧石器55号トレンチ(南から)

8．５区旧石器55号トレンチ(東から)

1区旧石器

1
8tr-001

2
一括

2区旧石器

3
一括

1区旧石器8号トレンチ

4
8tr-002

5
8tr-003

6
8tr-004

7
8tr-005

8
8tr-006

9
8tr-007

10
8tr-008

11
8tr-009

12
8tr-010

1区旧石器14号トレンチ（1）

13
14tr-001

14
14tr-002

15
14tr-003

16
14tr-004

17
14tr-005

18
14tr-006

19
14tr-007

20
14tr-008

21
14tr-009

22
14tr-010

23
14tr-011

24
14tr-012

25
14tr-013

1区・2区出土石器、1区旧石器8号・14号トレンチ礫集中（1）

PL.134

１区旧石器14号トレンチ（２）

26
14tr-014

27
14tr-015

28
14tr-016

29
14tr-017

30
14tr-018

31
14tr-019

32
14tr-020

33
14tr-021

34
14tr-022

35
14tr-023

36
14tr-024

37
14tr-025

38
14tr-026

39
14tr-027

40
14tr-028

41
14tr-029

42
14tr-030

43
14tr-031

44
14tr-032

45
14tr-033

46
14tr-034

47
14tr-035

48
14tr-036

49
14tr-037

50
14tr-038

51
14tr-039

52
14tr-040

53
14tr-041

54
14tr-042

55
14tr-043

56
14tr-044

57
14tr-045

58
14tr-046

59
14tr-047

60
14tr-035・036

１区旧石器14号トレンチ礫集中（２）・礫密集部

２区旧石器20号トレンチ

61
No.５・６・11～13・16～19・22～26

２区旧石器20号トレンチ

62
No.７～９・15

２区旧石器22号トレンチ

63
SP１・２

２区旧石器20号・22号トレンチ礫集中

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第733集

多田山東遺跡　― 第２分冊 ―

一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和６(2024)年３月11日　印刷
令和６(2024)年３月19日　発行

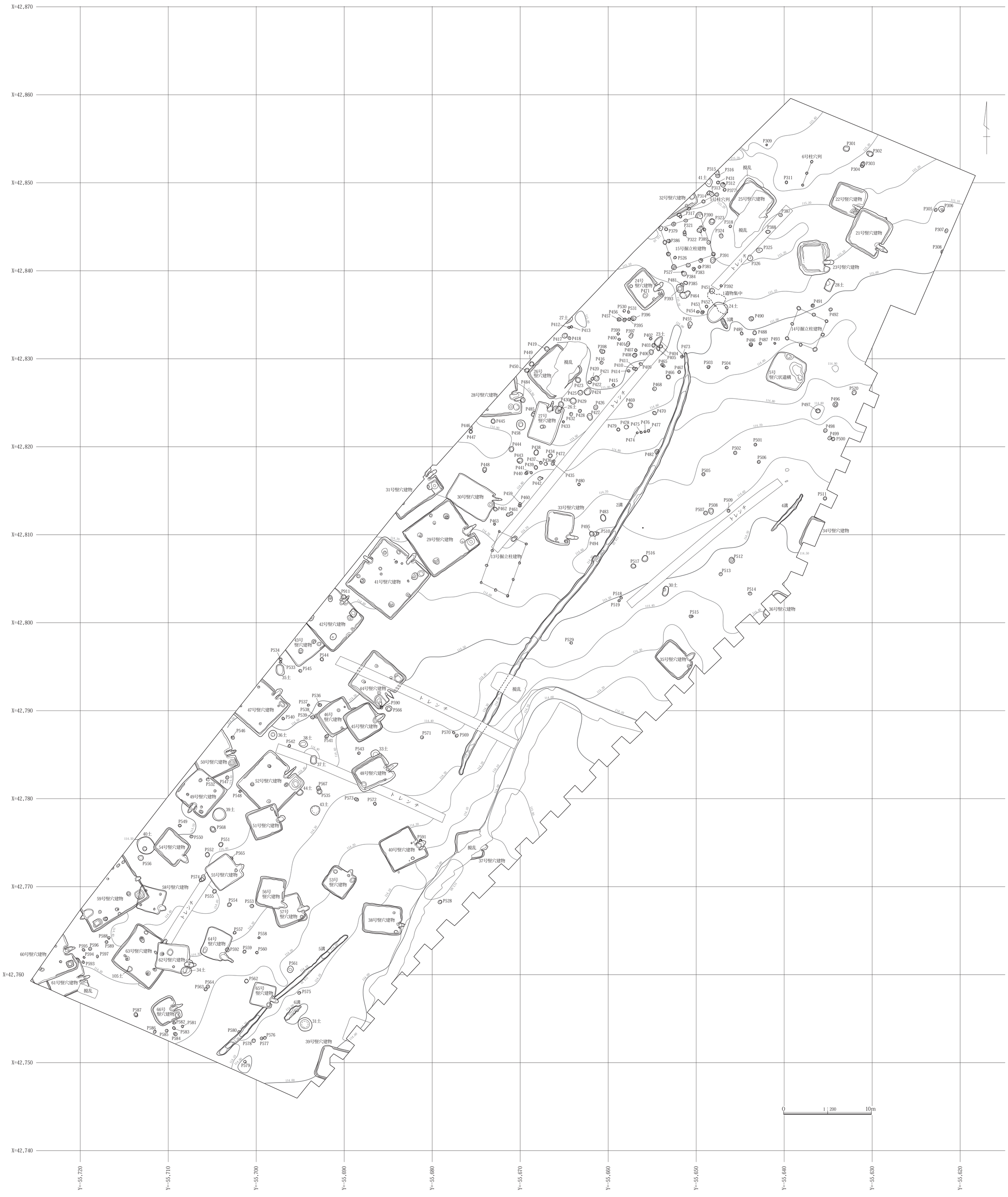
編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

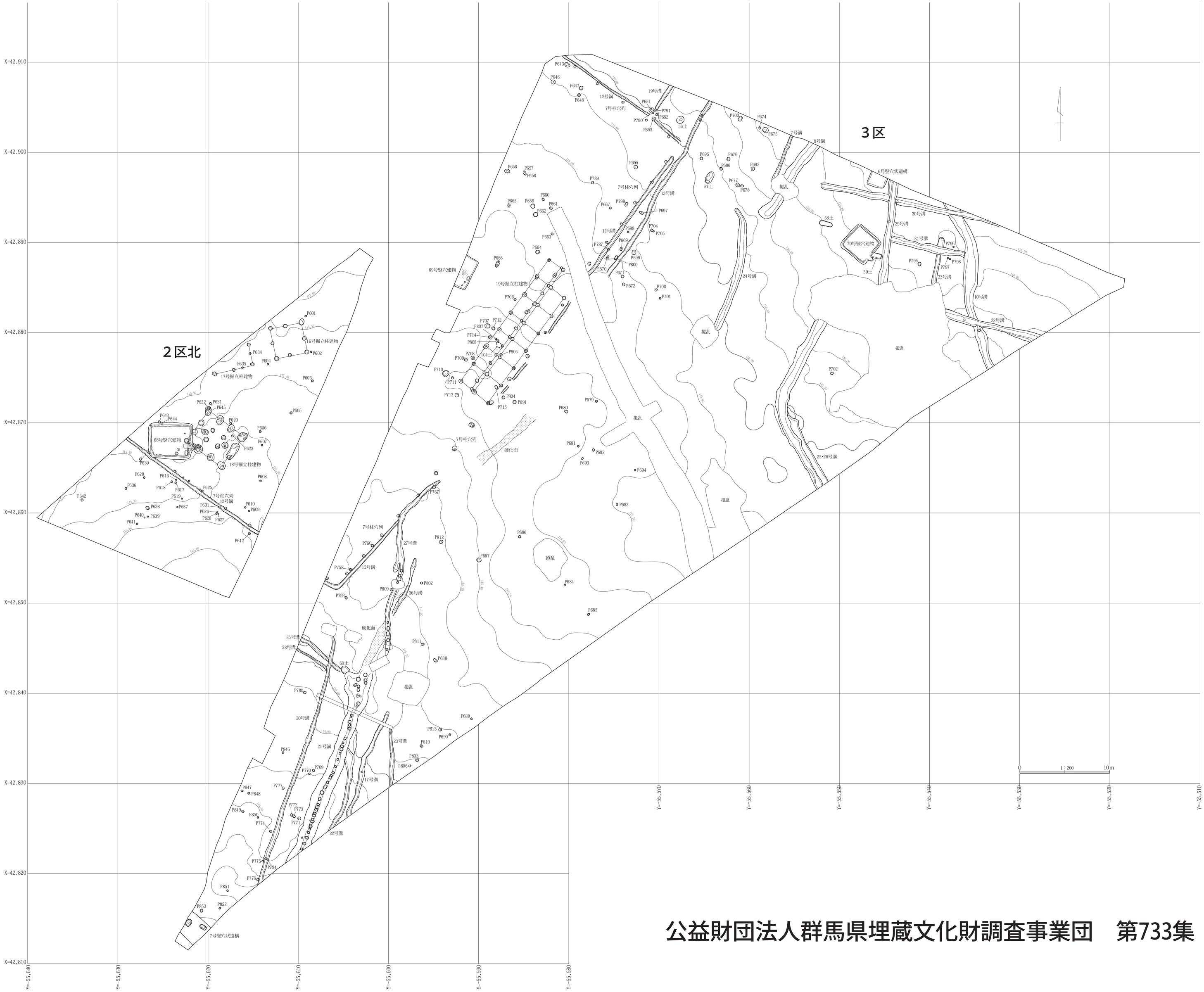
印刷／朝日印刷工業株式会社

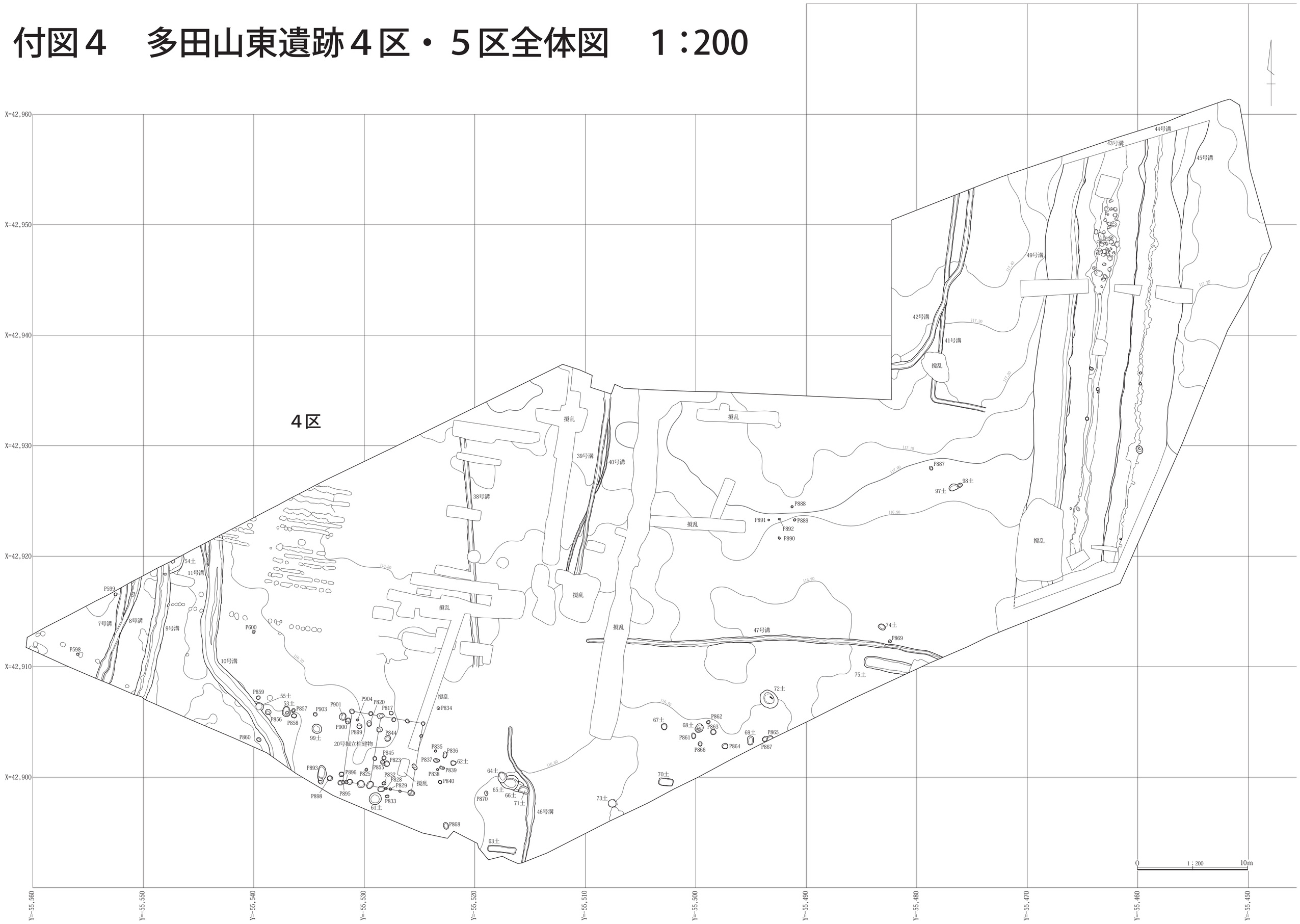
付図１　多田山東遺跡１区全体図　１:200

付図２　多田山東遺跡２区全体図　1：200



付図３　多田山東遺跡２区北・３区全体図　１:200



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　第733集

付図４　多田山東遺跡４区・５区全体図　１:200